K－559.

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第65集

遺跡詳細分布調査報告書

第 12 集

住宅開発関係の分布調査
大規模開発関係の分布調査
大樽遺跡の緊急調査
天神裏古墳の確認調査
長手4号墳の確認調査

1 9 9 9

米 沢 市 教 育 委 員 会

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第65集

遺跡詳細分布調査報告書

第 12 集

住宅開発関係の分布調査
大規模開発関係の分布調査
大樽遺跡の緊急調査
天神裏古墳の確認調査
長手4号墳の確認調査

平成11年3月

米沢市教育委員会

序　　文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成10年度に、文化庁の補助を受けて実施した「遺跡詳細分布調査」の結果をまとめたものです。

本市教育委員会は、埋蔵文化財の保護存在を図るために、遺跡詳細分布調査を12年間継続して実施しております。調査を重ねることにより、埋蔵文化財の所在、範囲及び性格などの解明がなされてまいりました。また本調査によって、新規の遺跡も発見されました。

この度の遺跡詳細分布調査では、開発行為に係る緊急発掘調査及び確認調査を８件実施いたしました。これら８件の遺跡は、大樽遺跡（縄文早期～後期）第４～９次調査の６件と、天神裏古墳及び長手古墳の２件となります。

近年、大規模な開発事業が年々増加傾向にありますが、本市教育委員会では、埋蔵文化財保護の立場から、開発事業と円滑な調整を図るために、本調査事業には可能な限り力を注いでいく所存であります。

最後になりましたが、この調査にあたりご指導、ご協力を賜りました文化庁、山形県文化財課をはじめ、地権者各位、地元の皆様に対し、衷心よりお礼申し上げます。

平 成 11 年 3 月

米沢市教育委員会
教育長　相　田　　實

古瀬戸瓶子

例　　言

1　本報告書は文化庁の補助を受けて実施した、平成10年度の埋蔵文化財調査報告書第65集である。

2　調査は米沢市教育委員会が実施した。

3　調査体制は下記のとおりである。

調査主体　米沢市教育委員会
調査総括　小杉　基（文化課長）
調査担当　手塚　孝（文化課文化財係主任）
調査主任　菊地政信（文化課文化財係主任）
　　月山隆弘（文化課文化財係主任）
事務局長　小林伸一（文化課長補佐）
事務局　山本　卯（文化課文化財係長）
　　平間洋子（文化課文化財係主査）
調査指導　文化庁　山形県教育庁文化財課
調査参加者　穴沢茂雄　五十嵐三郎　井上吉栄　今泉忿子
　　菊地芳子　黒沢八郎　佐藤一夫　田村和男
　　中村正弘　山口悠紀子　鈴木ひろ美　広瀬春子
　　荒井安蔵　今野周三　高橋洋三　西野勇二
　　新田弘二　松本三郎　比佐二男　松田利雄
　　下島喜一　伊藤博美　黒沢富男　坂野味之助
　　大地良子　近野慶子　高橋信子　佐藤四郎
　　佐久間修亮

4　挿図の縮尺は、第１節は5,000分の１であり、第11・12図は2,500分の１である。２節から９節は各挿図にスケールで示した。また方位の上部が真北を示し、各挿図にスケールで示した。挿図内の図化及び記号は、ＨＹ－竪穴住居跡、ＤＹ－土壙、ＴＹ－柱穴、ＫＹ－溝跡、ＰＹ－ピット、ＤＮ－井戸、ＮＮ－配石遺構、ＡＺ－土器、ＢＺ－石器、ＤＺ－鉄製品、ＨＺ－陶磁器、Ｓ－石を示す。挿図番号と写真図版番号は同一であり、写真図版の縮尺は適宜行っている。

5　各遺跡の出土遺物は米沢市埋蔵文化財資料室に一括保管している。

6　調査にあたって、坂野味之助・佐久間修亮の各氏及び長手地区、関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

7　本書の編集及び作成は、菊地政信、月山隆弘、全体については手塚　孝が総括した。

本 文 目 次

序 文 例 言

第Ⅰ節　住宅開発等に伴う埋蔵文化財調査経過 …… 1
第Ⅱ節　大樽遺跡第４次調査 …… 16
　1　遺跡の概要と地形 …… 16
　2　調査の概要 …… 16
　3　検出遺構 …… 16
　4　出土遺物 …… 22
　5　まとめ …… 58
第Ⅲ節　大樽遺跡第５次調査 …… 59
　1　検出遺構 …… 59
　2　出土遺物 …… 60
第Ⅳ節　大樽遺跡第６次調査 …… 67
　1　検出遺構 …… 67
　2　出土遺物 …… 68
第Ⅴ節　大樽遺跡第７次調査 …… 78
　1　検出遺構 …… 78
　2　出土遺物 …… 78
第Ⅵ節　大樽遺跡第８次調査 …… 83
　1　検出遺構 …… 83
　2　出土遺物 …… 83
第Ⅶ節　大樽遺跡第９次調査 …… 89
　1　検出遺構 …… 89
　2　出土遺物 …… 89
第Ⅷ節　天神裏古墳調査 …… 96
　1　遺跡の概要 …… 96
　2　調査の経過 …… 96
　3　検出遺構と出土遺物 …… 96
　4　まとめ …… 97
第Ⅸ節　長手４号古墳調査 …… 103
　1　遺跡の概要 …… 103
　2　調査の経過 …… 103
　3　遺構の概要 …… 103
　4　まとめ …… 104

挿　図　目　次

第１図　分布調査範囲位置図(1) …… 2
第２図　分布調査範囲位置図(2) …… 3
第３図　分布調査範囲位置図(3) …… 4
第４図　分布調査範囲位置図(4) …… 5
第５図　分布調査範囲位置図(5) …… 6
第６図　分布調査範囲位置図(6) …… 7
第７図　分布調査範囲位置図(7) …… 8
第８図　分布調査範囲位置図(8) …… 9
第９図　分布調査範囲位置図(9) …… 10
第10図　分布調査範囲位置図(10) …… 11
第11図　万世町調査区トレンチ配置図 …… 11
第12図　古志田町調査区トレンチ配置図 …… 12
第13図　大樽遺跡位置図 …… 19
第14図　大樽遺跡第４～９次調査箇所 …… 20
第15図　大樽遺跡第４次調査遺構全体図 …… 21
第16図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(1) …… 24
第17図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(2) …… 25
第18図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(3) …… 26
第19図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(4) …… 27
第20図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(5) …… 28
第21図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(6) …… 29
第22図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(7) …… 30
第23図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(8) …… 31
第24図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(9) …… 32
第25図　大樽遺跡第４次調査遺構平面図(10) …… 33
第26図　大樽遺跡第４次調査出土土器実測図(1) …… 36
第27図　大樽遺跡第４次調査出土土器実測図(2) …… 37
第28図　大樽遺跡第４次調査出土土器実測図(3) …… 38
第29図　大樽遺跡第４次調査出土土器実測図(4) …… 39
第30図　大樽遺跡第４次調査出土土器実測図(5) …… 40
第31図　大樽遺跡第４次調査出土土器実測図(6) …… 41
第32図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(1) …… 42
第33図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(2) …… 43
第34図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(3) …… 44
第35図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(4) …… 45
第36図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(5) …… 46
第37図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(6) …… 47
第38図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(7) …… 48
第39図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(8) …… 49
第40図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(9) …… 50
第41図　大樽遺跡第４次調査出土土器拓影図(10) …… 51
第42図　大樽遺跡第４次調査出土石器実測図(1) …… 52
第43図　大樽遺跡第４次調査出土石器実測図(2) …… 53
第44図　大樽遺跡第４次調査出土石器実測図(3) …… 54
第45図　大樽遺跡第４次調査出土石器実測図(4) …… 55
第46図　大樽遺跡第４次調査出土石器実測図(5) …… 56
第47図　大樽遺跡第４次調査出土石器実測図 …… 57
第48図　大樽遺跡第５次調査遺構全体図 …… 61
第49図　大樽遺跡第５次調査土壙平面図 …… 62
第50図　大樽遺跡第５次調査出土土器拓影図(1) …… 63
第51図　大樽遺跡第５次調査出土土器拓影図(2) …… 64
第52図　大樽遺跡第５次調査出土土器拓影図(3) …… 65
第53図　大樽遺跡第５次調査出土石器・石製品実測図 …… 66
第54図　大樽遺跡第６次調査遺構全体図 …… 69
第55図　大樽遺跡第６次調査竪穴住居跡平面図 …… 70
第56図　大樽遺跡第６次調査土壙平面図(1) …… 71
第57図　大樽遺跡第６次調査土壙平面図(2) …… 72
第58図　大樽遺跡第６次調査出土土器実測図 …… 73
第59図　大樽遺跡第６次調査出土土器拓影図(1) …… 74
第60図　大樽遺跡第６次調査出土土器拓影図(2) …… 75
第61図　大樽遺跡第６次調査出土土器実測図 …… 76
第62図　大樽遺跡第６次調査出土石器・礫・土器実測図 …… 77
第63図　大樽遺跡第７次調査遺構全体図 …… 79
第64図　大樽遺跡第７次調査土壙平面図 …… 80
第65図　大樽遺跡第７次調査出土土器拓影図 …… 81
第66図　大樽遺跡第７次調査出土石器・礫実測図 …… 82

第67図　大樽遺跡第８次調査遺構全体図 …… 84
第68図　大樽遺跡第８次調査土壙・井戸・溝跡平面図 …… 85
第69図　大樽遺跡第８次調査出土土器拓影図 …… 86
第70図　大樽遺跡第８次調査出土石器実測図 …… 87
第71図　大樽遺跡第８次調査出土石器・礫実測図 …… 88
第72図　大樽遺跡第９次調査遺構全体図 …… 90
第73図　大樽遺跡第９次調査土壙平面図 …… 91
第74図　大樽遺跡第９次調査出土土器拓影図 …… 92
第75図　大樽遺跡第９次調査出土土器・礫実測図 …… 93
第76図　天神裏古墳位置図 …… 98
第77図　天神裏古墳現況測量図 …… 99
第78図　天神裏古墳トレンチ配置図 …… 100
第79図　天神裏古墳主体部展開図 …… 101
第80図　天神裏古墳出土遺物実測図 …… 102
第81図　長手４号墳位置図 …… 105
第82図　長手４号墳現況測量図 …… 106
第83図　長手４号墳主体部展開図 …… 107
第84図　長手４号墳トレンチ配置図 …… 108
第85図　長手４号墳遺物出土点平面図 …… 109
第86図　長手４号墳出土遺物実測図 …… 110
第87図　長手４号墳出土古瀬戸実測図 …… 111
第88図　長手４号墳墳丘上出土の板碑実測図(1) …… 112
第89図　長手４号墳墳丘出土の板碑実測図(2) …… 113

付　表　目　次

表－１　分布調査箇所
表－２　分布調査箇所（大規模開発）
表－３　大樽遺跡第４次調査検出遺構分類表
表－４　米沢市の縄文土器編年表
表－５　大樽出土土器分類表

図　版　目　次

図版１　大樽遺跡第４次調査
図版２　大樽遺跡第４次調査
図版３　大樽遺跡第４次調査
図版４　大樽遺跡第４次調査
図版５　大樽遺跡第４次調査出土石器
図版６　大樽遺跡第５次調査
図版７　大樽遺跡第５次調査
図版８　大樽遺跡第６次調査
図版９　大樽遺跡第６・９次調査
図版10　大樽遺跡第８次調査
図版11　大樽遺跡第８次調査
図版12　大樽遺跡第９次調査
図版13　大樽遺跡第　次調査
図版14　大樽遺跡第　次調査
図版15　天神裏古墳
図版16　天神裏古墳
図版17　天神裏古墳
図版18　天神裏古墳
図版19　天神裏古墳出土遺物
図版20　長手４号墳
図版21　長手４号墳
図版22　長手４号墳
図版23　長手４号墳
図版24　長手４号墳
図版25　長手４号墳
図版26　長手４号墳
図版27　長手４号墳出土遺物
図版28　長手４号墳出土遺物

第Ⅰ節　住宅開発等に伴う埋蔵文化財調査経過

1．住宅開発等に伴う遺跡の確認

昨年、本市教育委員会に住宅開発等によって、埋蔵文化財に係りがあると判断されるため、協議や試掘等の確認依頼を受けたものは、平成10年12月28日現在で131件であった。この中で試掘調査内訳等を実施した101件は下記のとおりである。

1．個人住宅建設に係るもの	48件	2．店舗等に係るもの	2件
3．工場・倉庫等に係るもの	4件	4．砂利採集等に係るもの	5件
5．土地開発に係るもの	21件	6．公共施設等に係るもの	10件
7．その他の開発に係るもの	11件		

以上のように、今回の調査依頼の種類は例年同様、個人住宅建設に係るものが多くを占めている。個々に遺跡名・調査箇所・調査月日・開発の種別・調査方法等を表－1にまとめているので参照されたい。

これらの試掘調査の中で、遺跡の痕跡が確認されたため発掘調査に至った遺跡には、大樽遺跡第4～9次調査（第14図）の6件ある。この大樽遺跡（舘山4丁目地内）の発掘調査は、すべて道路拡張工事に伴う宅地移転に係わるものであり100m範囲内に集中している。大樽遺跡は縄文早期～晩期及び中世に属する複合遺跡である。この報告は本文の第2～7節で記述する。

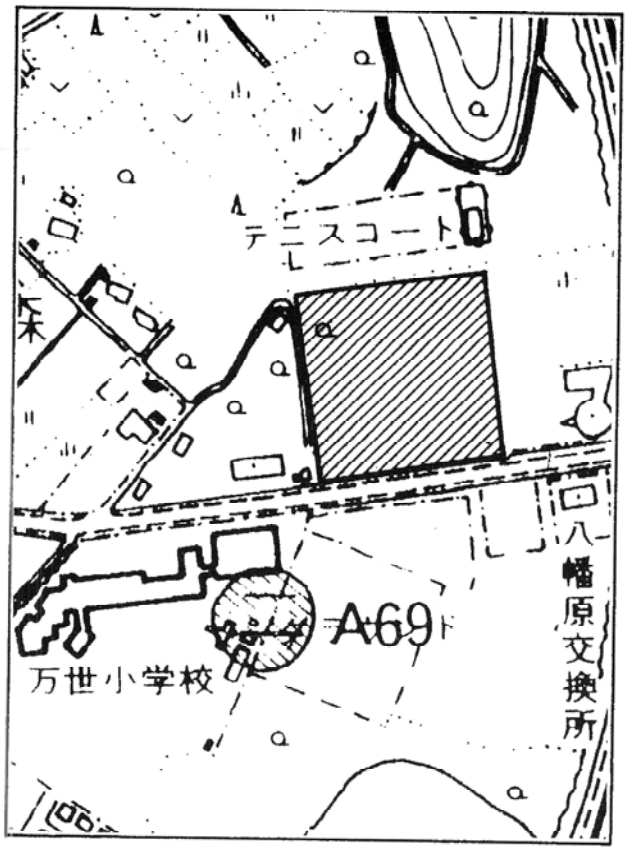
No36の台1遺跡についての発掘調査は、原因者負担で実施したことから遺物整理後、報告する予定である。

2．大規模開発に伴う試掘調査の確認

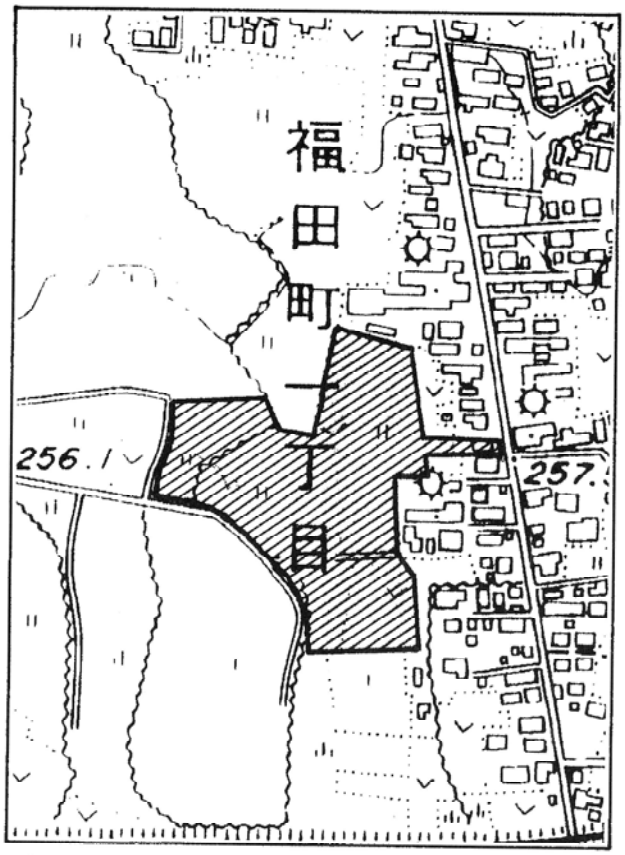
今回の大規模開発（1,000㎡以上）に係わる調査依頼は39件であった。近年の傾向としては郊外における大型店舗や大規模宅地造成が多くみられる。今年の傾向としては、宅地造成がそのほとんどであるが、他に砂利採取等の開発が増加傾向を示す。これら大規模な開発に係わる試掘調査の概要は、その調査区位置図を含め表－2にまとめているので参照されたい。

これらの試掘調査により遺構・遺物などが確認されたため発掘調査を実施した遺跡はないが、第12図の古志田b遺跡（新規遺跡）については、平安時代と判断される遺構や遺物が確認されたこから開発関係機関と協議のうえ、平成11年度に発掘調査を実施することに至った。平成11年度に報告する予定である。

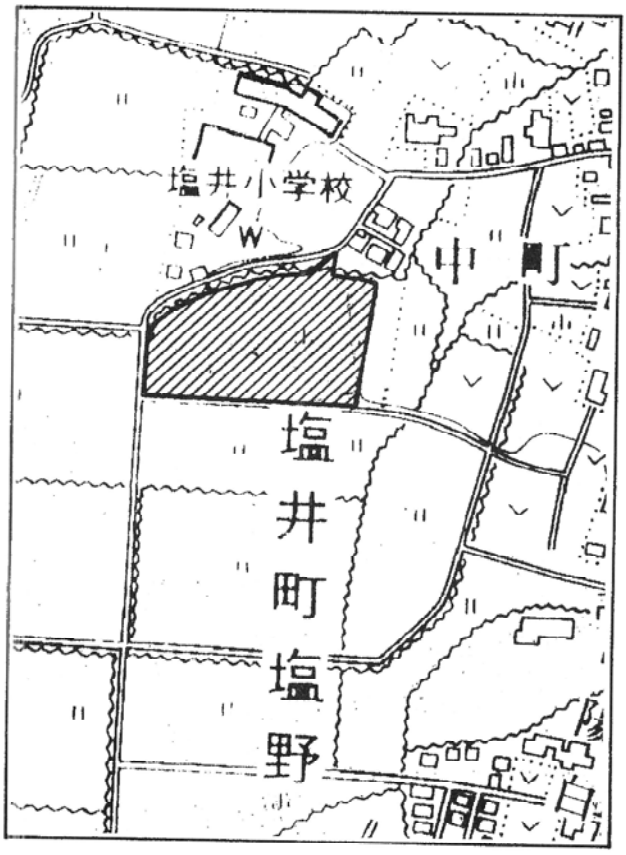
また、第11図万世町調査区についても、一部遺跡の形跡が確認されたことから、開発する上で構築方法を考慮し、保存する部分も含めてその開発行為を指示した。



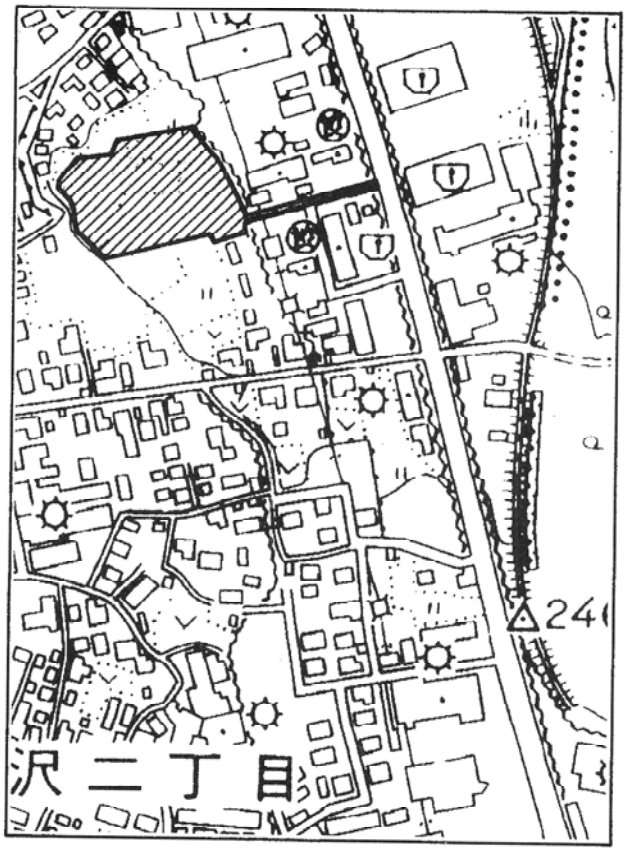
万世町調査区



福田町調査区

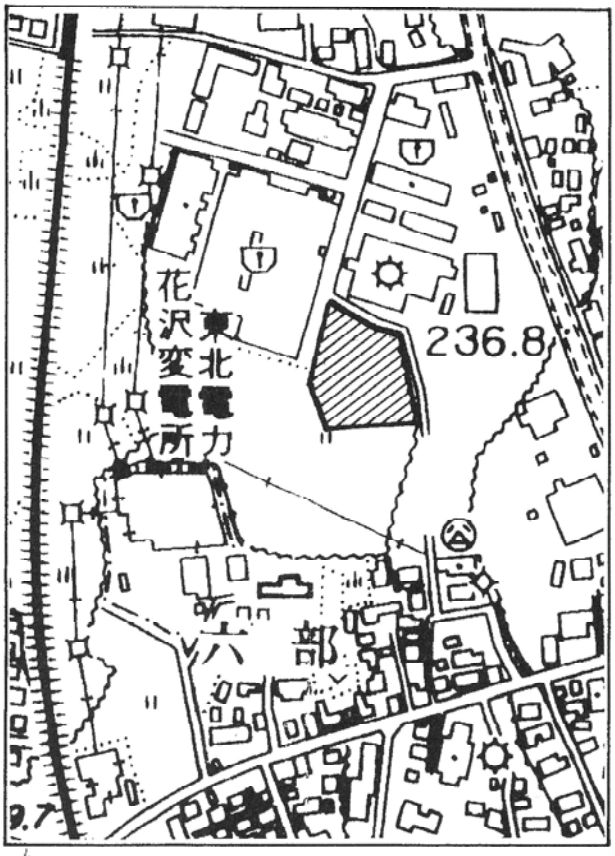


塩井町調査区

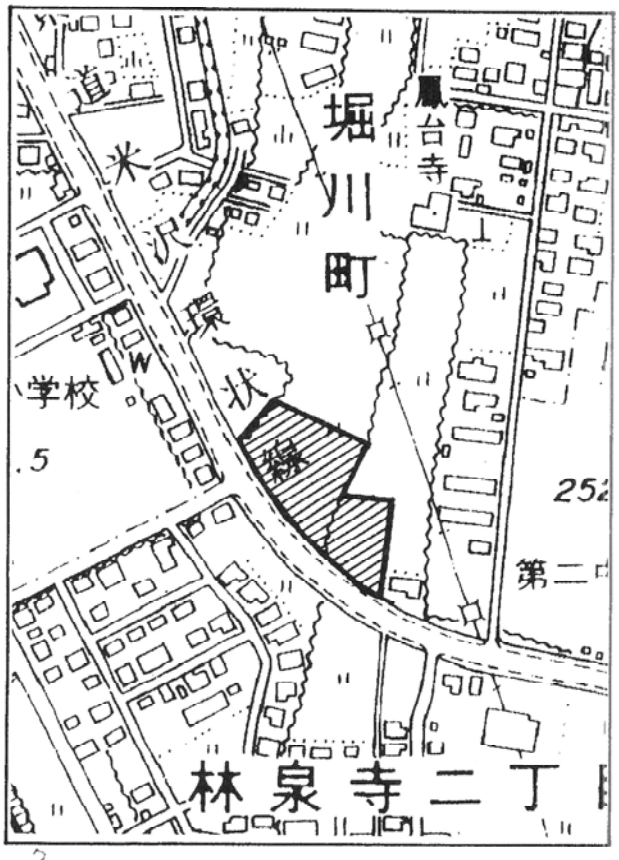


下花沢調査区

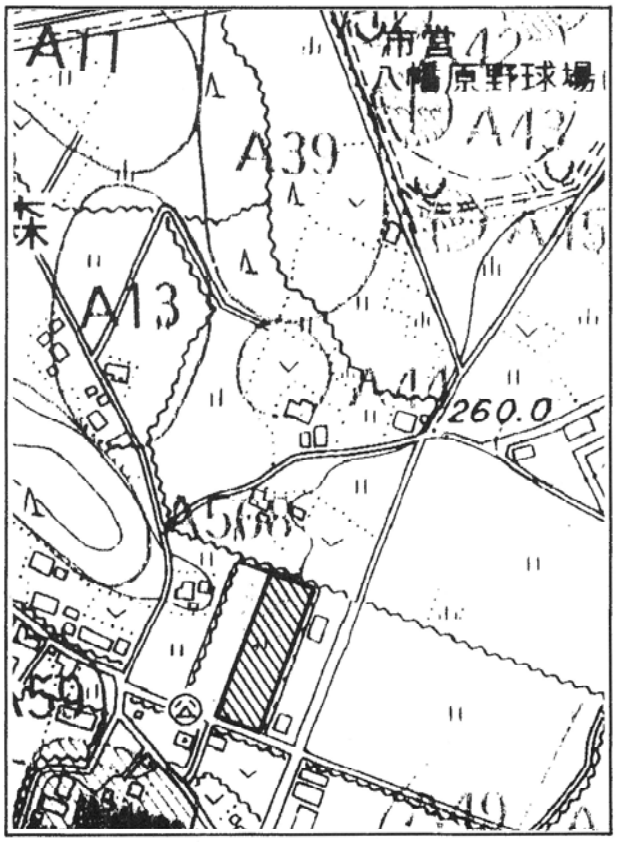
第1図　分布調査範囲位置図（1）



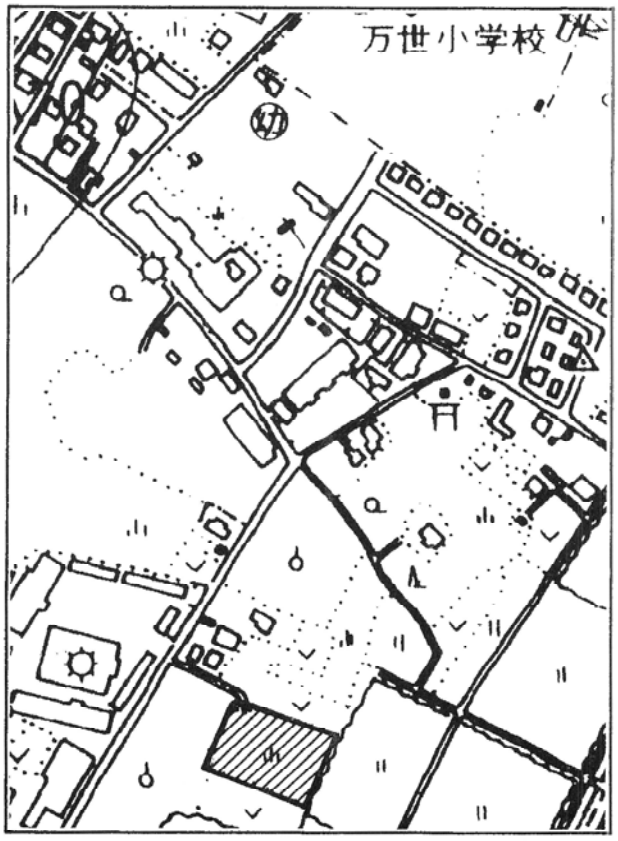
花沢調査区



堀川町調査区

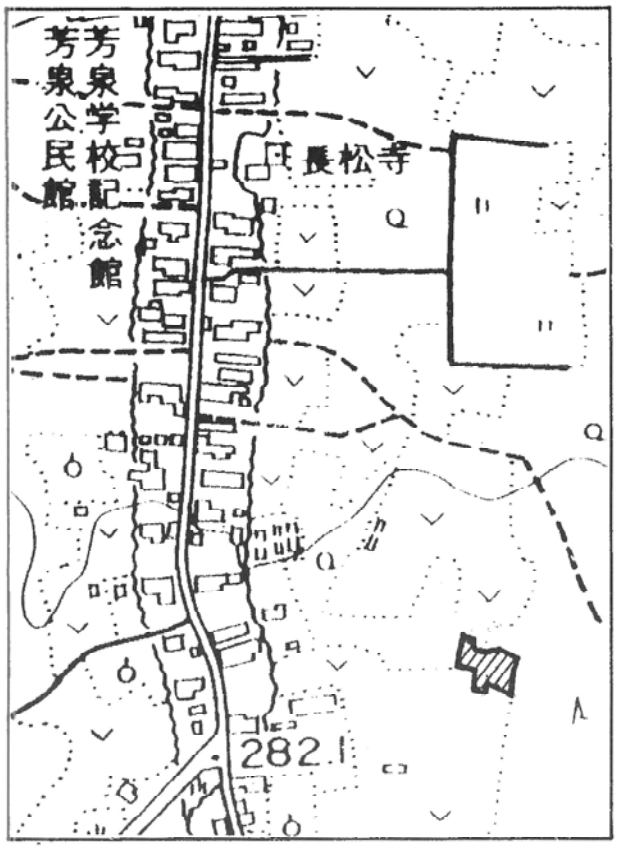


万世町調査区

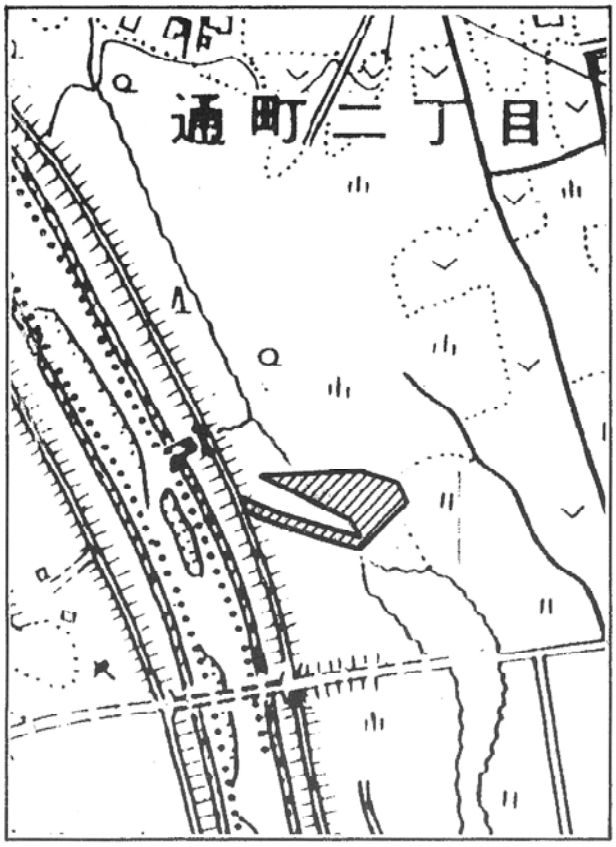


万世町調査区

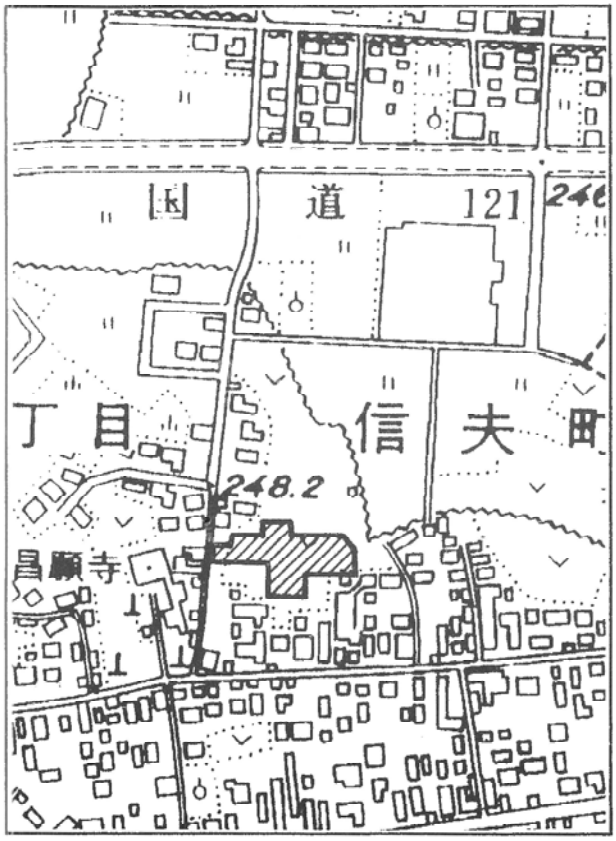
第2図　分布調査範囲位置図（2）



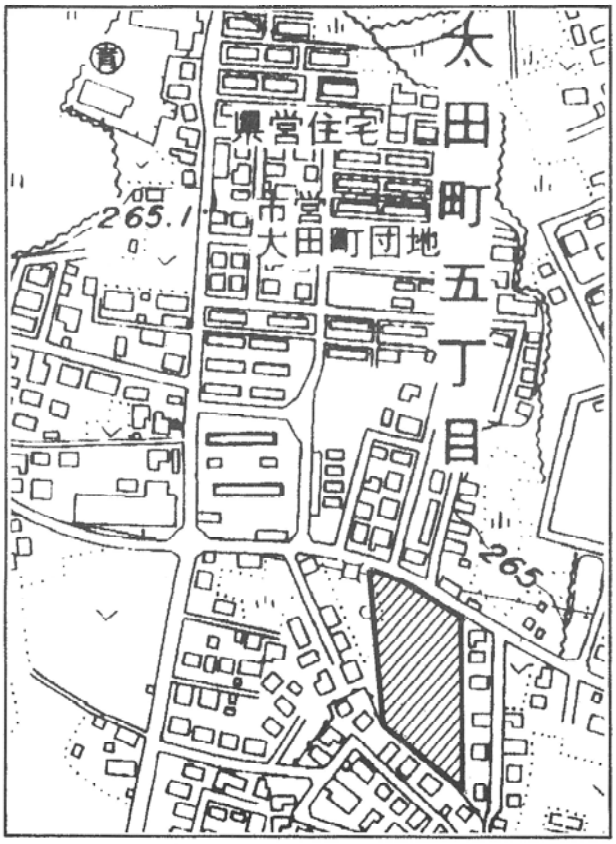
赤崩調査区



通町調査区

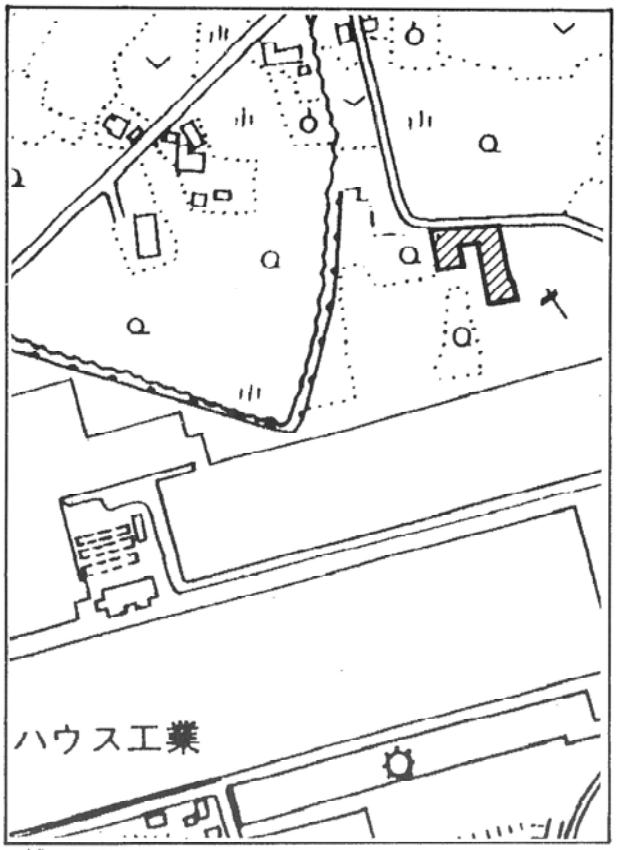


信夫町調査区

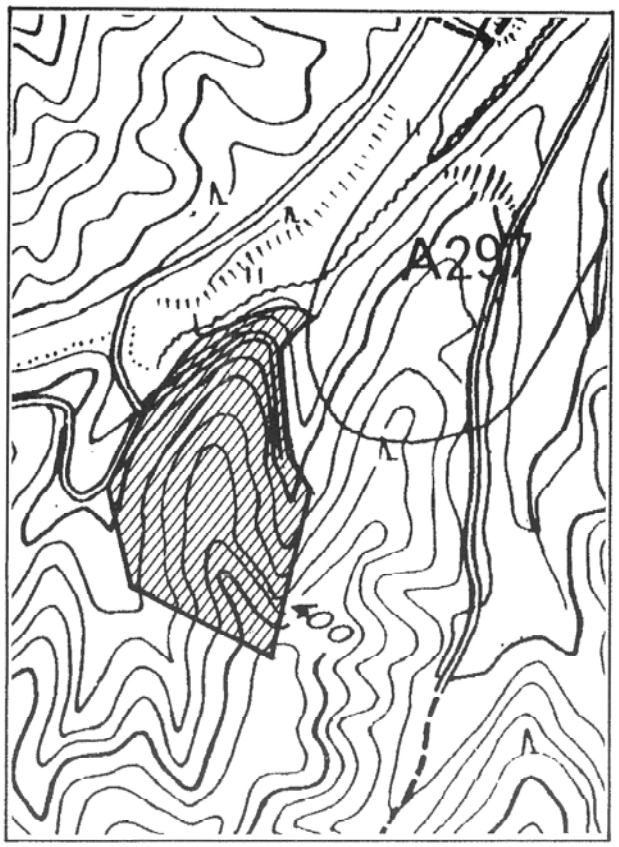


太田町調査区

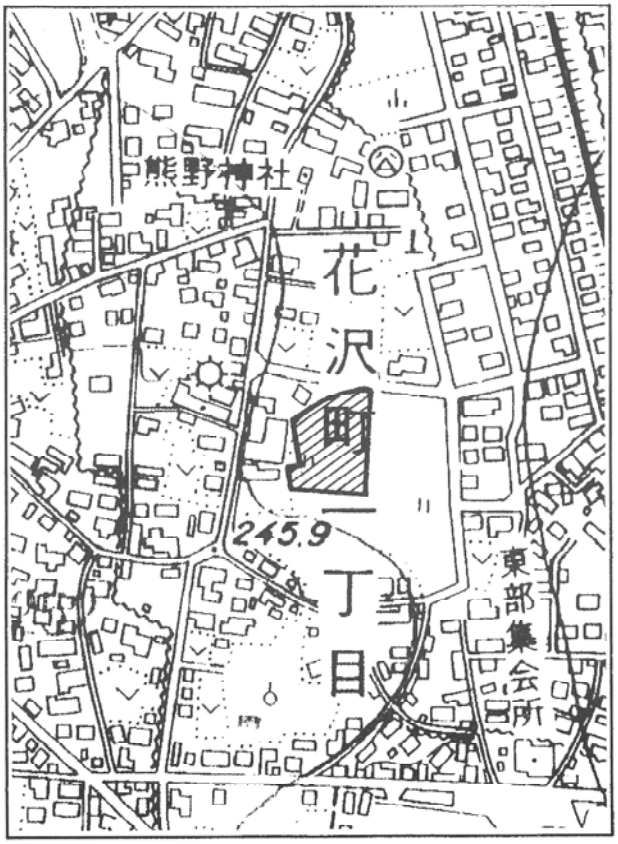
第3図　分布調査範囲位置図（3）



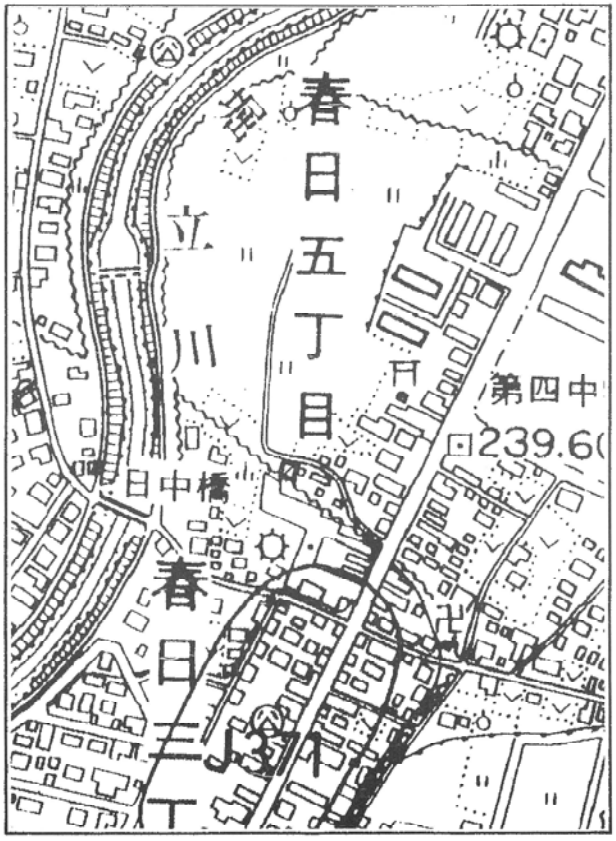
赤崩調査区



万世町調査区

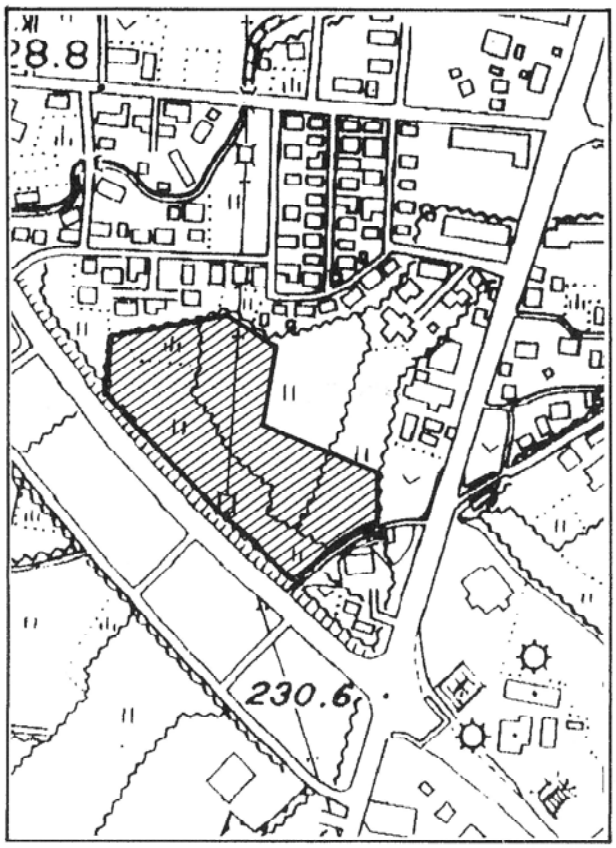


花沢調査区

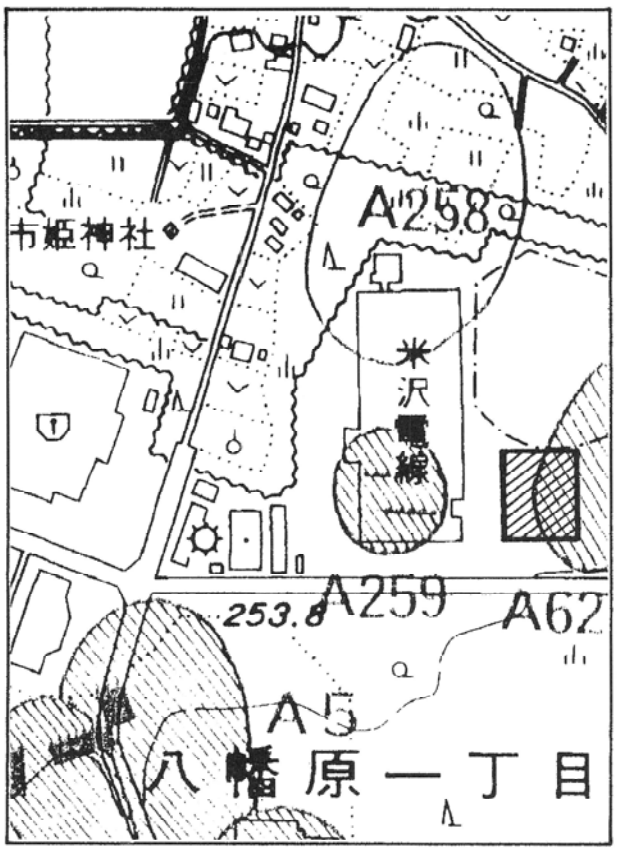


春日調査区

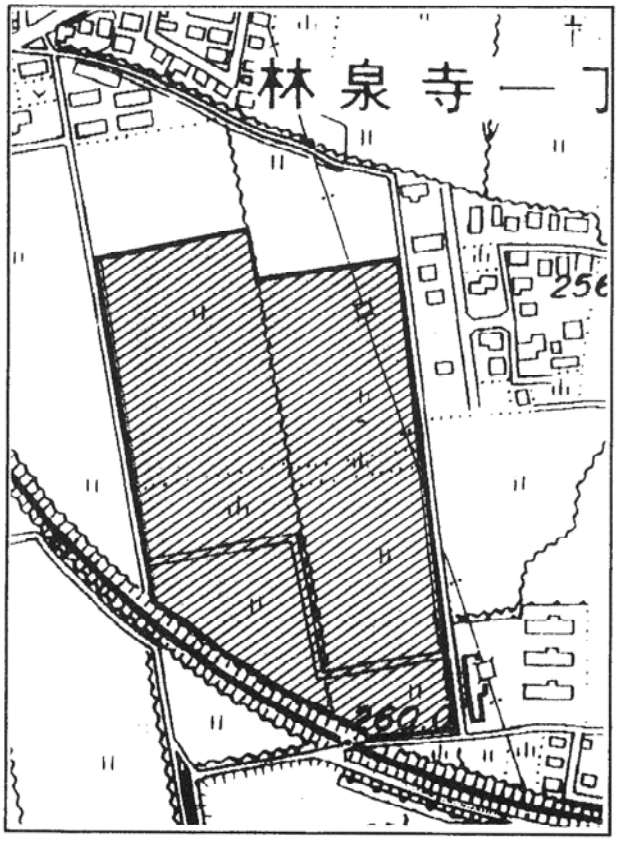
第4図　分布調査範囲位置図（4）



中田町調査区



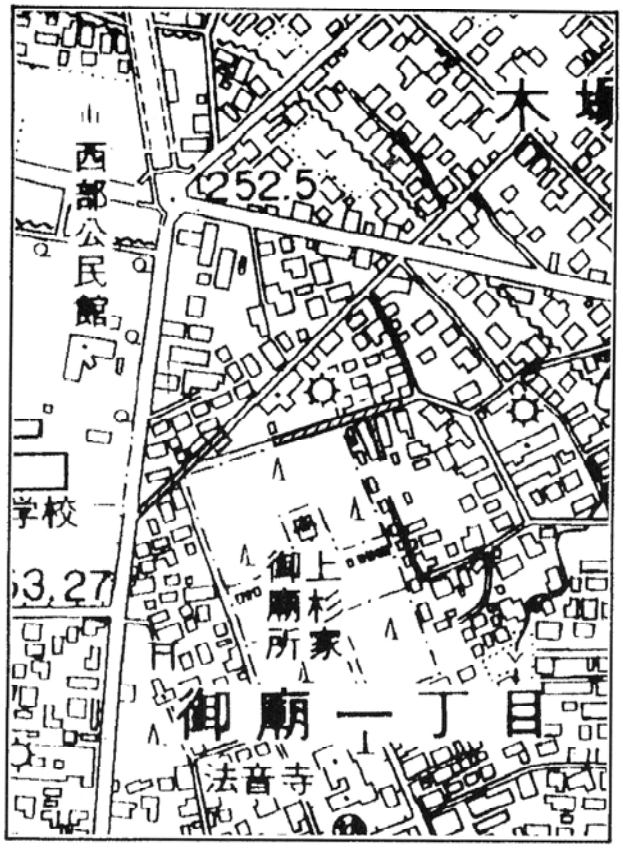
八幡原調査区



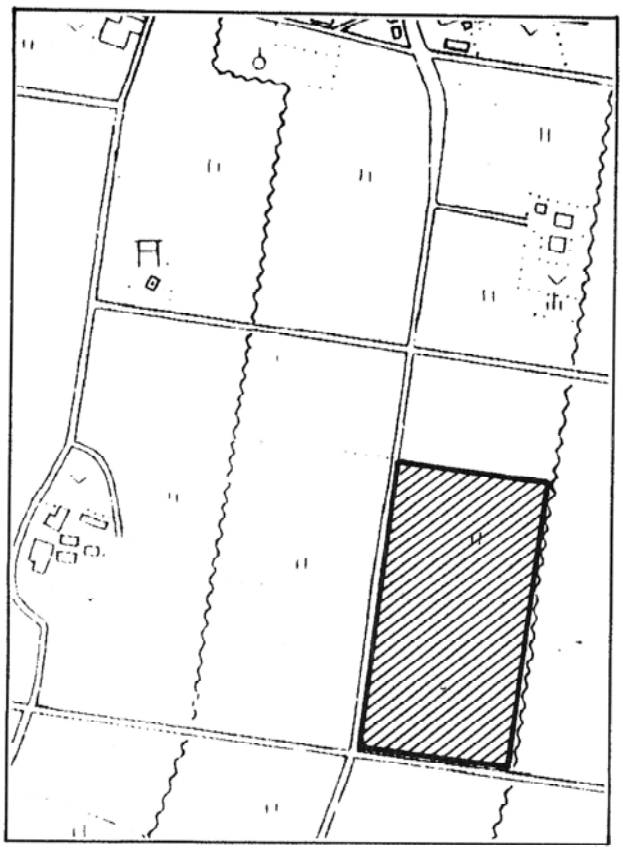
古志田町調査区

春日調査区

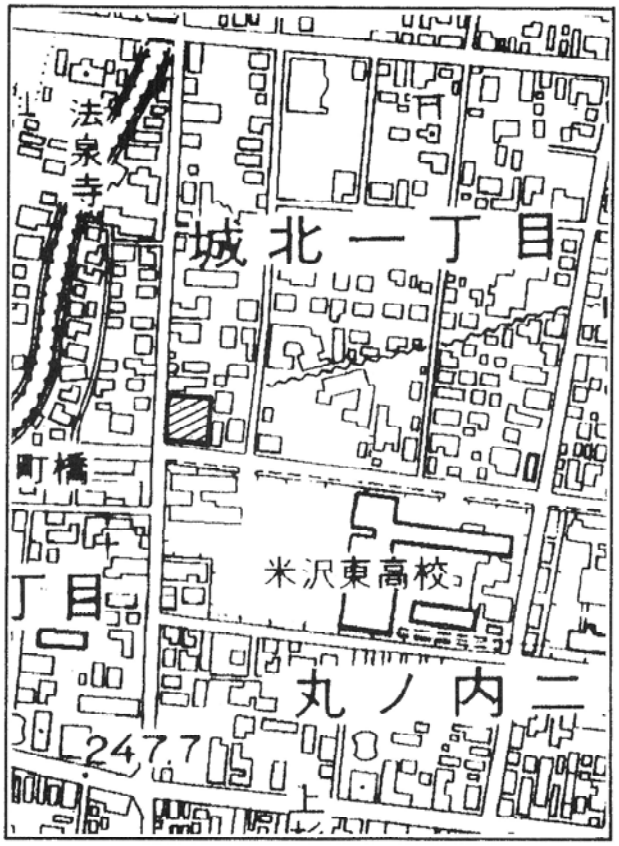
第5図　分布調査範囲位置図（5）



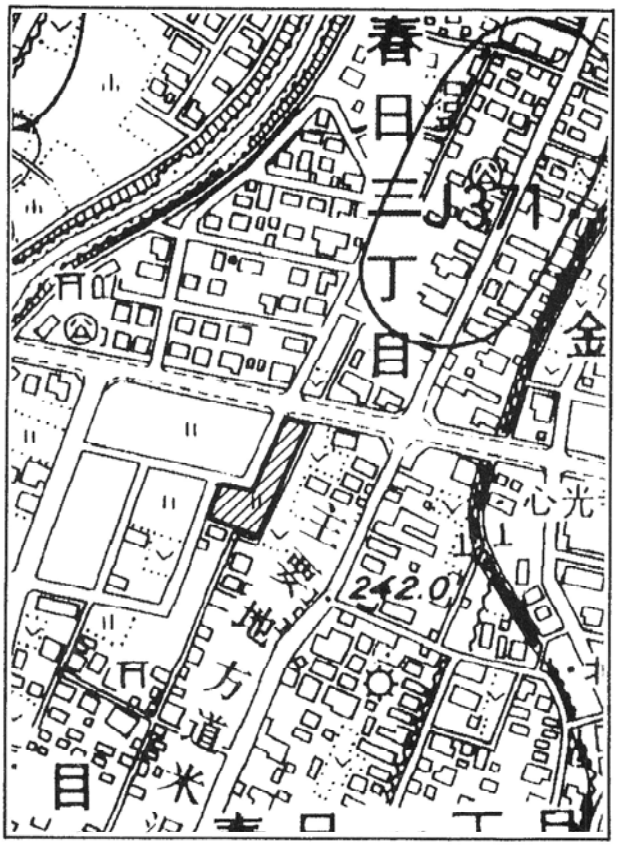
御廟調査区



広幡町調査区



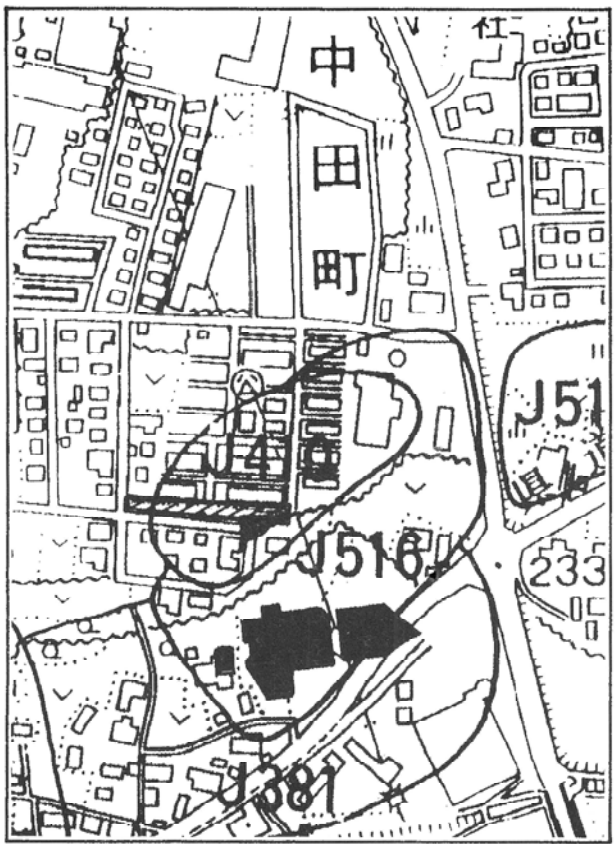
城北調査区



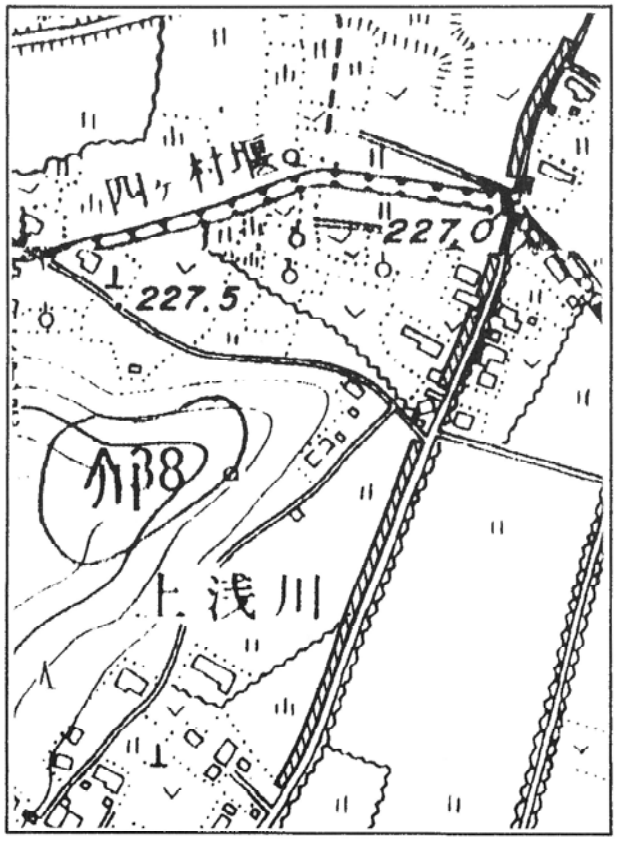
春日調査区

第6図　分布調査範囲位置図（6）

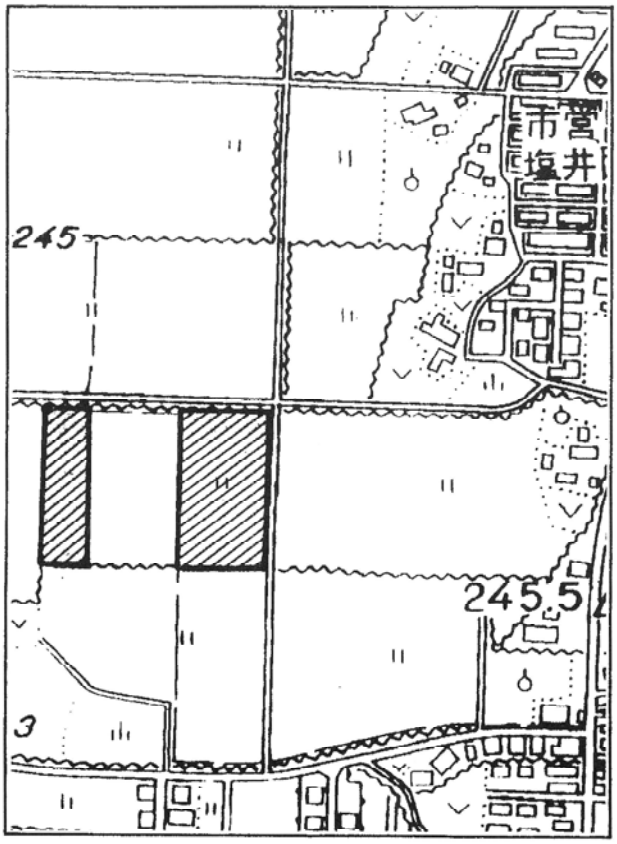
金池調査区



中田町調査区

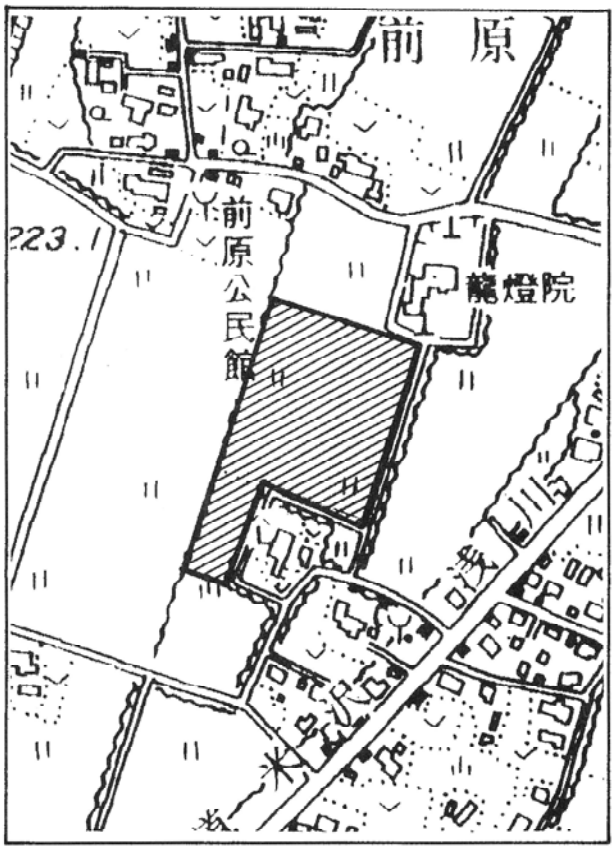


浅川調査区

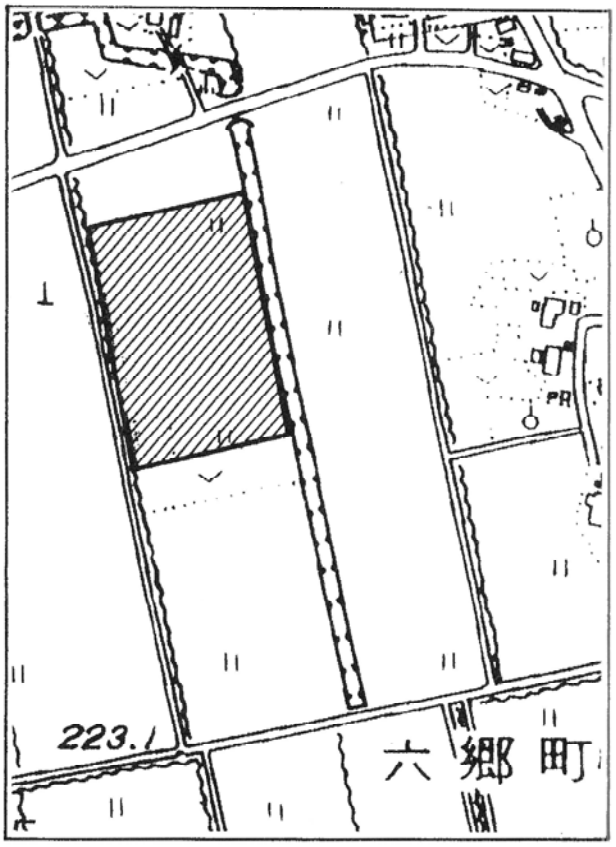


塩井町調査区

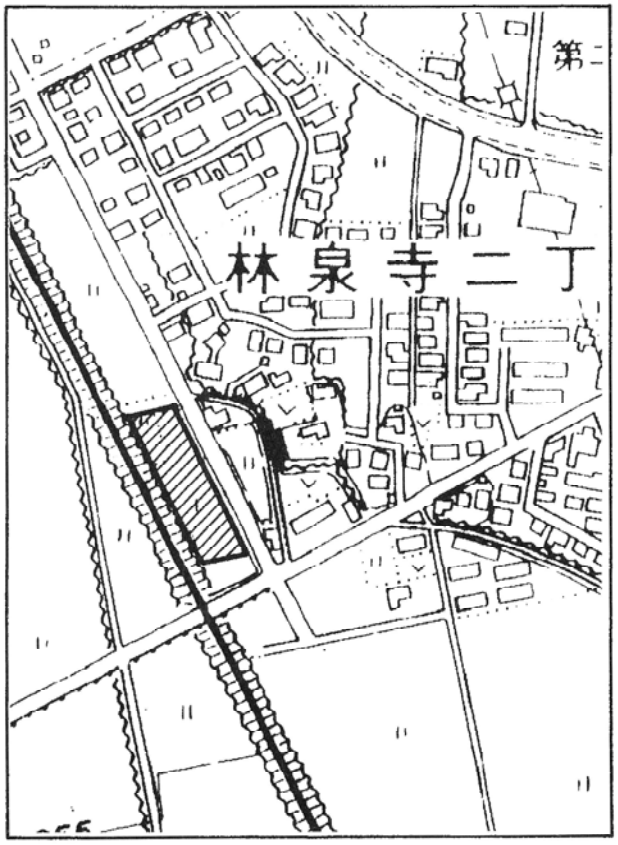
第7図　分布調査範囲位置図（7）



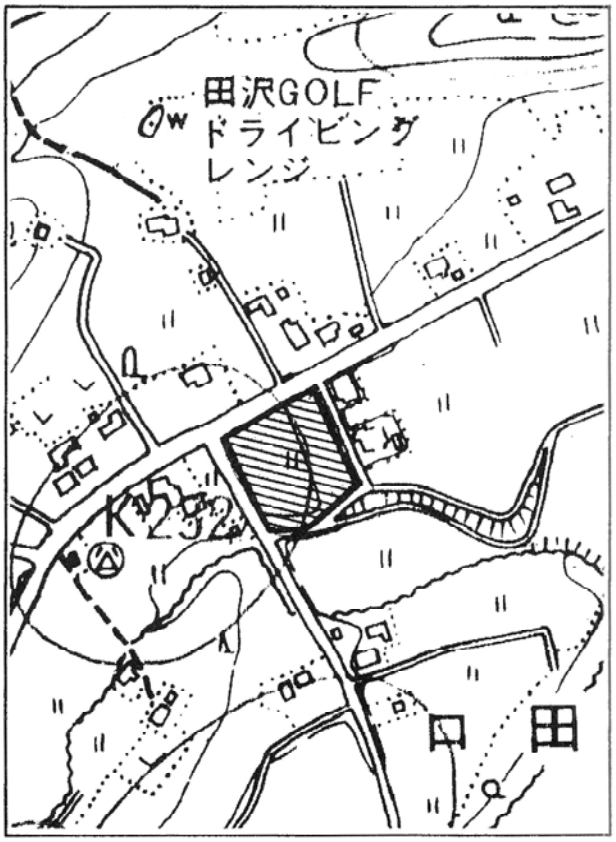
下新田調査区



六郷町調査区

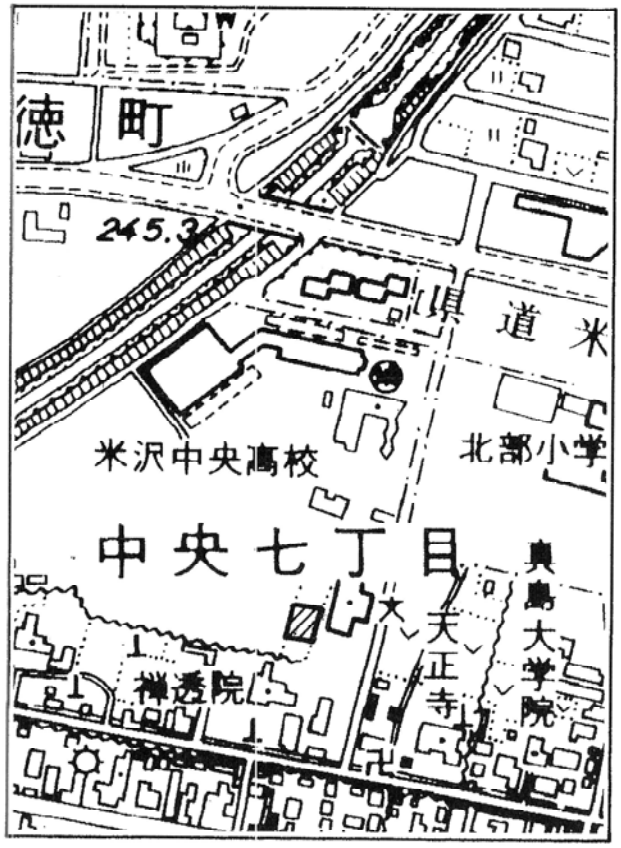


古志田町調査区

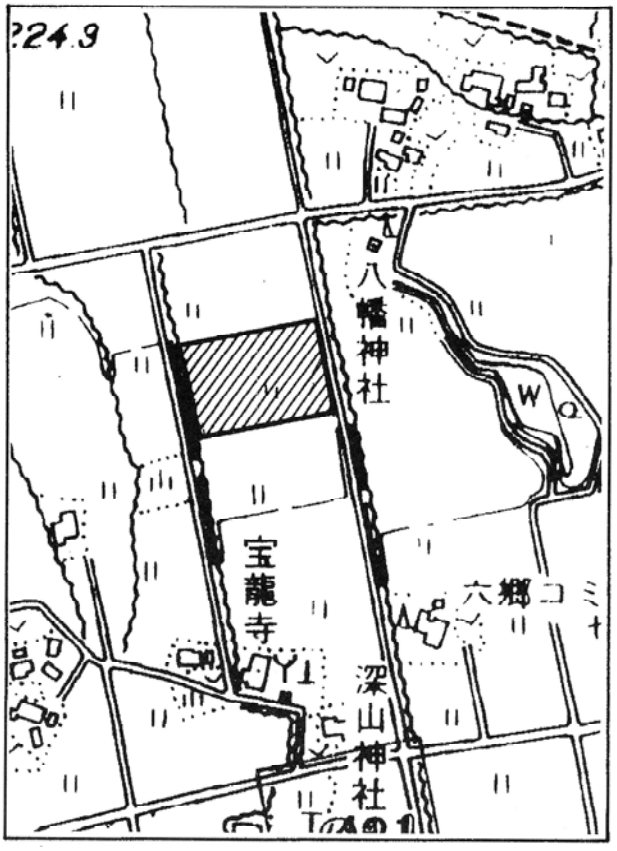


口田沢調査区

第8図　分布調査範囲位置図（8）

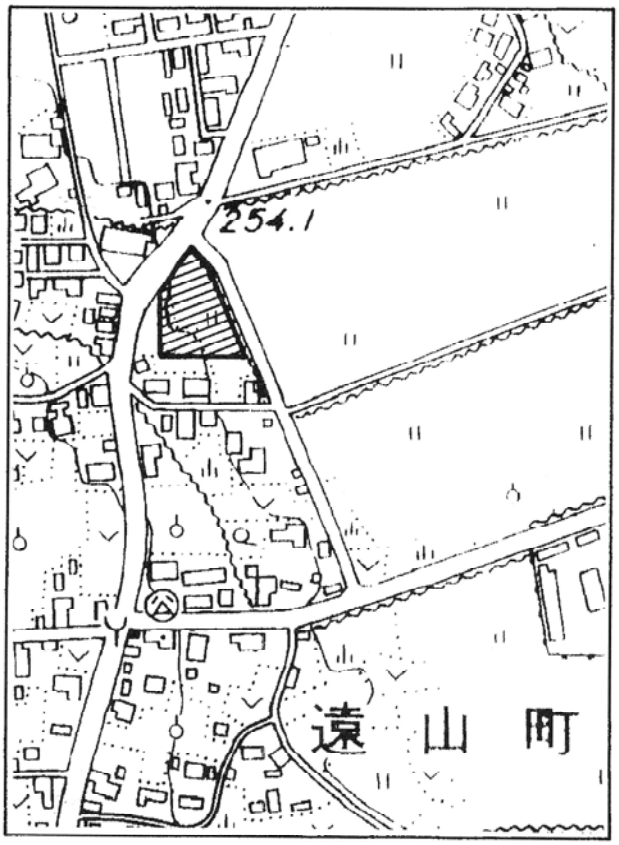


中央調査区



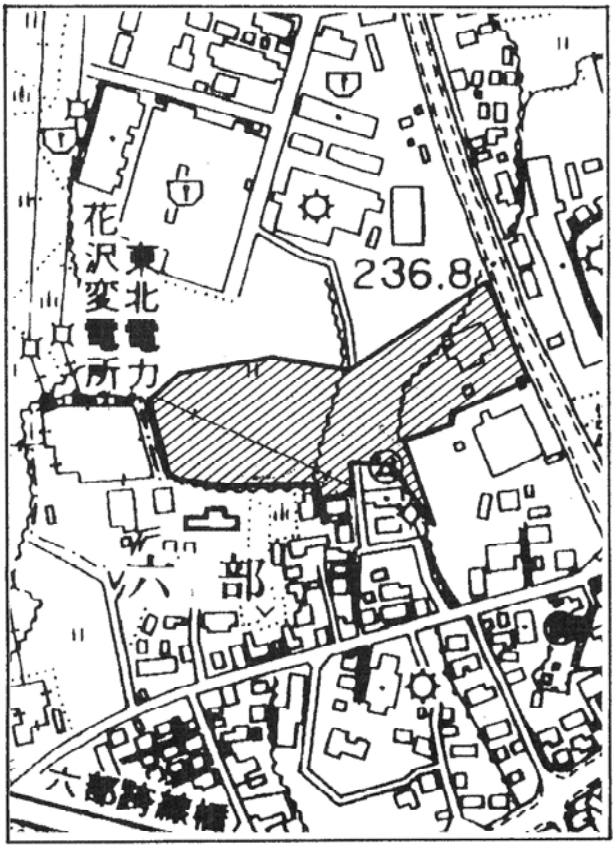
六郷町調査区

東大通調査区

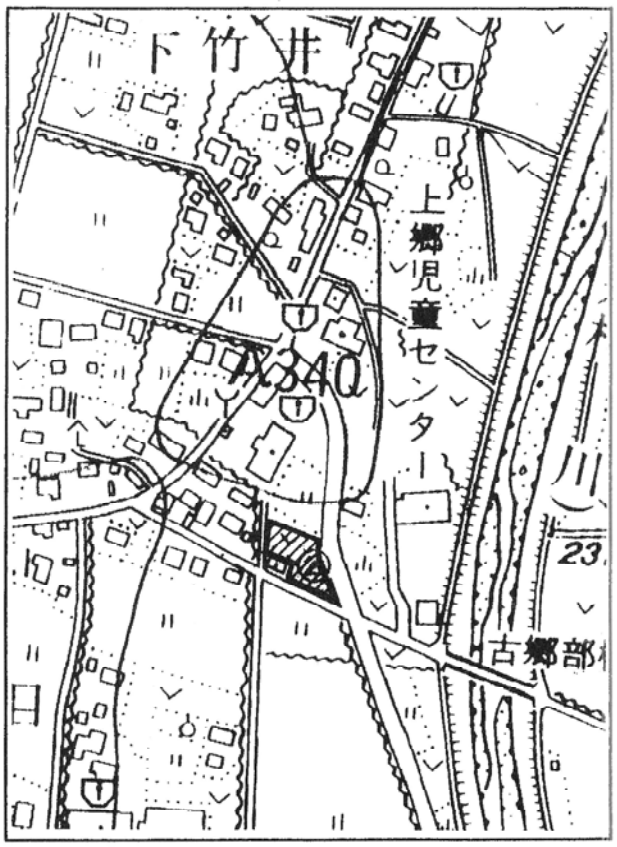


遠山町調査区

第9図　分布調査範囲位置図（9）

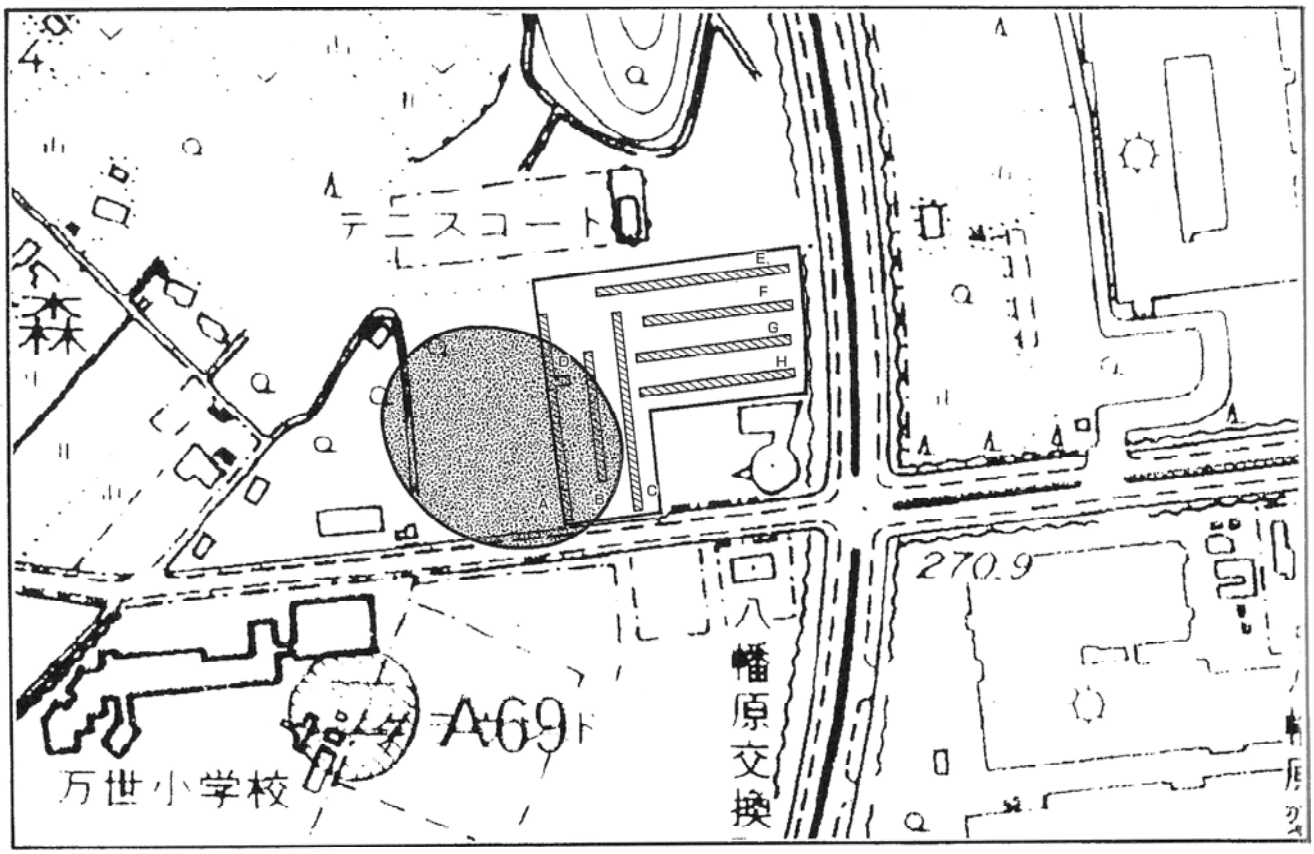


花沢調査区

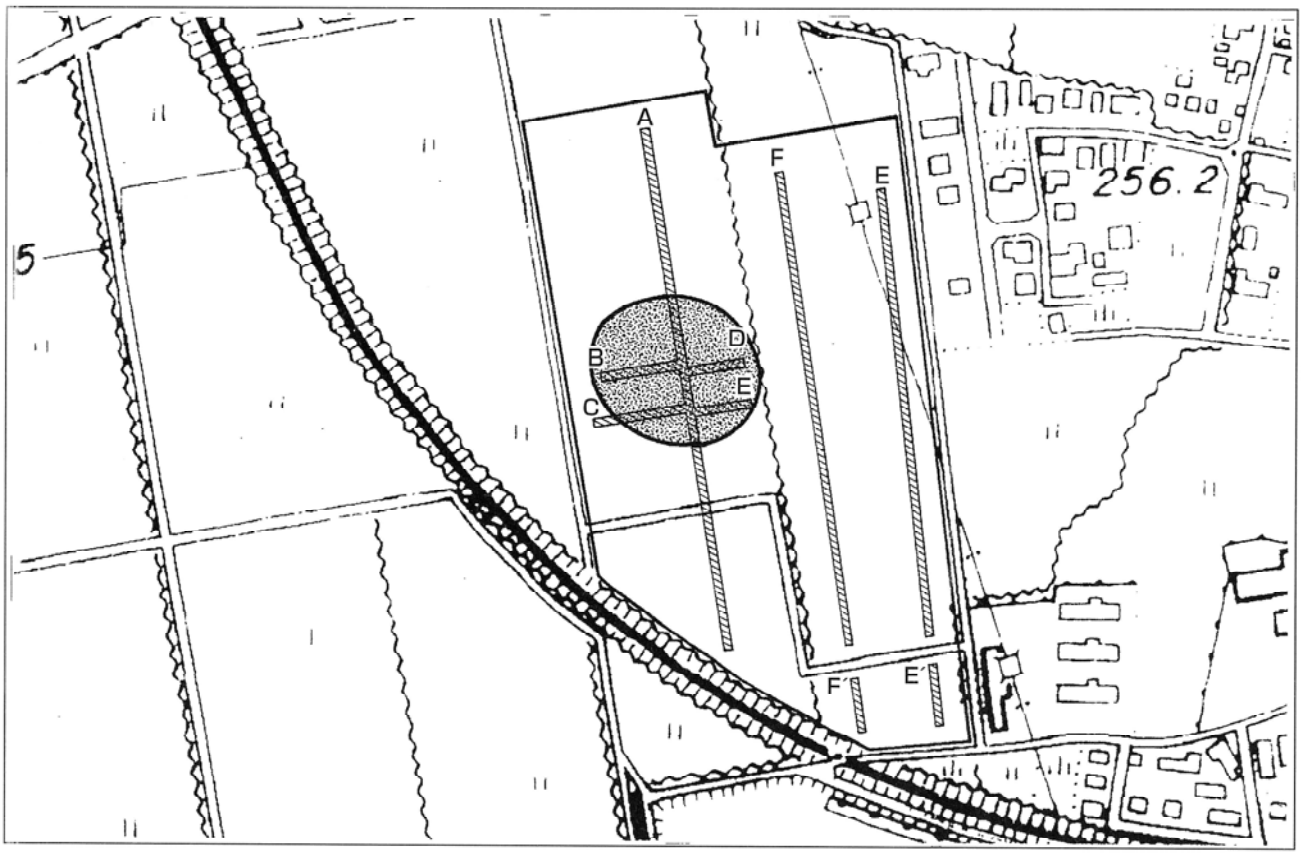


竹井調査区

第10図　分布調査範囲位置図（10）



第11図　万世町調査区トレンチ配置図



第12図　古志田町調査区トレンチ配置図

万世町調査区トレンチ調査概要「第11図」

当該地は新設される公共施設の建設に伴うものである。現況は原野になっており、開発面積約12,000㎡である。東西方向に５本、南北方向に３本のトレンチを設定して調査を実施した。その結果Ａ・Ｂ・Ｄトレンチの３箇所から遺構の痕跡が確認された。Ａトレンチからは南側に幅５ｍ、深さ２ｍの中世と推測される堀跡と北側に約20ｍ×10ｍの範囲にかけて黒色変化の落ち込みが確認された。この落ち込みの内部から縄文後期初頭に属する土器片が10点出土している。Ｂトレンチからは、柱穴と推測される土色変化が２基確認され、いずれも30㎝前後の円形状を示すもので中世の建物跡と考えられる。東側のに関しては、遺跡の中心部から流れ込んだ遺物が僅かに混入している可能性が強く、本調査をするまでには至らないが、遺構確認面から60㎝以上の盛土を必要とすることを指示した。

古志田町調査区トレンチ調査概要「第12図」

当該地は宅地造成に伴うものである。現況は休耕田になっており、開発面積約6,000㎡である。東西方向に５本、南北方向に９本のトレンチを設定して調査を実施した。その結果、調査区東側のＡ－Ｅトレンチ表土下約30㎝の数箇所から、掘立建物跡の一部と推測される柱穴や赤焼土器等が確認されたことから、平安時代の集落跡と判断し、開発関係者にこの部分に関しては発掘調査が必要である旨を伝えた。なお、この部分については開発関係者と協議し、発掘調査は平成11年度に実施する予定である。

平成10年分布調査箇所

表－1

No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	舘山平城	舘山２丁目148-2	１月26日	住宅	トレンチ	0.5m×４m　２本
2	東大通一丁目	東大通２丁目2976-6	３月12日	住宅	トレンチ	２m×４m　２本
3	舘山平城	舘山２丁目6393-1	３月20日	共同住宅	トレンチ	２m×４m　３本
4	荒屋	大字竹井字荒屋1629	３月23日	住宅	トレンチ	１m×４m　３本
5	米沢城	門東町１丁目5-29	３月26日	店舗	トレンチ	１m×４m　２本
6	舘山平城	舘山４丁目3-5	３月27日	倉庫	トレンチ	１m×４m　２本
7	舘山平城	舘山３丁目1285-3他	３月30日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
8	台坂	花沢町1-1085-87	３月31日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
9	台坂	下花沢２丁目2031他	４月２日	住宅	トレンチ	２m×４m　２本
10	古志田	古志田町2834	４月３日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
11	丸山日陰館	大字三沢字丸山日陰25488他	4月6日～5月8日	岩石採取	発掘調査	
12	中の目	大字竹井字梓川道上754	４月９日	駐車場	トレンチ	２m×15m　１本
13	舘山平城	舘山２丁目1009-1	４月13日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
14	米沢城	城南１丁目76-7他	４月14日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
15	東大通一丁目	東大通２丁目9250-5	４月14日	住宅	トレンチ	１m×３m　２本
16	下原a	大字三沢16026	４月14日	住宅	トレンチ	２m×４m　２本
17	下花沢b	下花沢１丁目7640-6	４月16日	住宅	トレンチ	１m×８m　２本
18	台坂	花沢町１丁目1508-7他	４月17日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
19	大樽	舘山４丁目6514-3他	4月20日～5月8日	住宅	発掘調査	
20	松原	大字三沢字白旗壱五26109-41	４月21日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
21	舘山平城	舘山１丁目6374	４月22日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
22	城西1丁目	城西１丁目119-3	４月22日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
23	大樽	舘山４丁目6502-1	4月22日～5月22日	住宅	発掘調査	
24	舘山平城	舘山１丁目1066-5	４月24日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
25	舘山平城	舘山５丁目1-95	５月８日	住宅	トレンチ	２m×４m　２本
26	大塚山	諸仏町字諸仏西浦壱3697	５月13日	住宅	グリット	１m×２m　２箇所
27	外ノ内	窪田町窪田字外ノ内西3029-3	５月15日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
28	米沢城	丸の内１丁目3012-1	５月15日	住宅	トレンチ	１m×４m　２本
29	大樽	舘山４丁目3-41	5月19日～5月27日	車庫	発掘調査	
30	大樽	舘山４丁目6511-1他	5月19日～5月29日	住宅	発掘調査	
31	八木橋a	大字花沢字八木橋北四3420-1他	５月26日	工場	グリット	１m×１m　５箇所
32	中の目	大字竹井1331	５月29日	倉庫	トレンチ	１m×８m　２本
33	大樽	舘山４丁目4-35	6月5日～6月11日	住宅	発掘調査	
34	塩野新館前	塩野町塩野3751-6	６月18日	住宅	トレンチ	１m×４m　４本
35	萩の森	大字上新田43	６月23日	住宅	トレンチ	１m×６m　２本
36	台ノ上	吾妻町60-2他	7月8日～7月16日	下水道	発掘調査	

No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
37	熊野橋	大字川井字道下4125-1	7月23日	住宅	トレンチ	1m×4m 2本
38	米沢藩主上杉墓所	御廟1丁目地内	8月25日	下水道	トレンチ	
39	馳上b	大字川井道下2245-2	8月31日	作業小屋	トレンチ	0.5m×6m 4本
40	第5中学校裏	東大通1丁目1-82	9月2日	グランド整備	立会い調査	
41	堰場	大字川井字道下2634	9月2日	ポンプ庫	立会い調査	
42	東大通1丁目	東大通2丁目4-42	9月17日	住宅	トレンチ	1m×4m 4本
43	置賜学院東	大字下新田字広野449-2	9月17日	ポンプ庫・防火水槽	立会い調査	
44	舘山平城	吹屋敷町4-32	9月21日	住宅	トレンチ	1m×4m 2本
45	大樽	舘山4丁目3-45	9月30日~10月15日	住宅	発掘調査	
46	大樽	舘山4丁目3-18	10月9日	医院待合所	発掘調査	
47	台坂	下花沢2-1912	10月12日	住宅	トレンチ	1m×4m 4本
48	花沢b	駅前4丁目2330-2他	10月12日	住宅	トレンチ	1m×6m 4本
49	大樽	舘山4丁目6502-1	10月15日~10月23日	作業小屋	発掘調査	
50	米沢城	城南1丁目76-7	10月19日	車庫	トレンチ	1m×5m 4本
51	大浦d	中田町字高橋三662-3他	10月19日	駐車場	トレンチ	2m×50m 1本
52	大樽	舘山4丁目6503-21	10月22日	車庫	グリット	4m×4m 1箇所
53	東大通1丁目	東大通2丁目9114-6他	10月30日	物置	トレンチ	1m×4m 4本
54	小峡	大字三沢字谷沢作上3848-1	11月4日	ポンプ場	トレンチ	1m×4m 4本
55	中谷地a	大字竹井字荒屋1747他	11月9日	宅地造成	グリット	2m×2m 2箇所
56	東屋敷	大字竹井字野際879-2	11月9日	住宅	トレンチ	1m×20m 2本
57	台ノ上	吾妻町62-20	11月17日	住宅	トレンチ	1m×4m 4本
58	戸塚山幼稚園a	大字上新田字松原台2008	12月3日	倉庫	トレンチ	1m×6m 4本
59	東屋敷	大字竹井字中の目530-4	12月3日	住宅	トレンチ	0.5m×10m 4本
60	舘山平城	舘山1丁目6377	12月7日	住宅	トレンチ	1m×5m 4本
61	大塚山	諸仏町字諸仏3569他	12月11日	共同住宅	トレンチ	1m×25m 2本
62	大壇A	大字笹野字粕平四516-11	12月22日	住宅	トレンチ	1m×5m 2本

平成10年分布調査箇所（大規模開発）

表－2

No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	該当なし	大字竹井字野際720-3	2月2日	無線基地局	遺跡地図確認	
2	万世小学校北	八幡原5丁目4149-2地内	4月2・6・7日	コミニュティーセンター	トレンチ	2m×110m 他8本
3	該当なし	塩井町塩野字番内清水4451	4月3日	グランド整備	トレンチ	2m×140m 他3本
4	該当なし	福田町1丁目1498他	4月7日	宅地造成	トレンチ	2m×40m 7本
5	該当なし	下花沢3丁目地内	4月8日	宅地造成	トレンチ	1.5m×70m 他3本
6	該当なし	大字花沢字六部北下2944-11	4月8日	宅地造成	トレンチ	1.5m×80m 2本

No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
7	該当なし	万世町堂森544	4月9日	共同住宅	トレンチ	2m×80m 2本
8	該当なし	堀川町2307-1他	4月9日	店舗	トレンチ	1.5m×50m 3本
9	該当なし	万世町桑山字松木地内	4月14日	倉庫	トレンチ	2m×60m 4本
10	該当なし	大字赤崩字漆原東地内	5月13日	砂利採取	遺跡地図確認	
11	該当なし	信夫町2640他	5月14日	宅地造成	トレンチ	1.5m×50m 他3本
12	該当なし	通町2丁目16232-1	5月15日	産業廃棄物処理施設	現地確認	
13	該当なし	太田町5丁目地内	5月26日	宅地造成	トレンチ	1.5m×40m 3本
14	該当なし	大字赤崩字町頭道東18727-2	6月3日	産業廃棄物処理施設	現地確認	
15	該当なし	花沢町1丁目地内	6月16日	宅地造成	トレンチ	2m×40m 4本
16	該当なし	万世町梓山字田ノ上5699他	6月23日	岩石採取	グリット	1m×1m 10箇所
17	該当なし	春日5丁目453-1他	6月18日	共同住宅	トレンチ	2m×20m 2本
18	該当なし	中田町2021-1他	6月18日	宅地造成	トレンチ	2m×30m 他3本
19	該当なし	古志田町地内	6月24日	宅地造成	トレンチ	2m×250m 他5本
20	竹井境A	八幡原1丁目1-3	7月24日	工場用地造成	遺跡地図確認	調査済
21	該当なし	春日2丁目11-10他	8月25日	店舗	トレンチ	2m×30m 他5本
22	米沢藩主上杉家墓所	御廟1丁目地内	8月25日	下水道	トレンチ	1.1m×5.5m 1本
23	該当なし	城北1丁目3120-1	8月31日	店舗	トレンチ	1m×20m 1本
24	該当なし	広幡町小山田地内	9月16日	砂利採取	トレンチ	1.5m×100m 2本
25	該当なし	春日2丁目地内	9月14日	宅地造成	トレンチ	0.5m×60m 1本
26	該当なし	金池5丁目8-13他	10月7日	店舗	遺跡地図確認	
27	上浅川C・上浅川塚	大字浅川地内	10月12日～14日	道路拡張	トレンチ	2m×100m 他9本
28	大浦d	中田町字高橋三662-3他	10月19日	駐車場	トレンチ	2m×50m 1本
29	該当なし	塩井町塩野字四ツ塚地内	10月19日	砂利採取	トレンチ	2m×90m 3本
30	該当なし	大字下新田字高野28他	10月20日	養護老人ホーム	トレンチ	2m×100m 他5本
31	該当なし	古志田町354-2他	10月30日	共同住宅	トレンチ	2m×40m 1本
32	該当なし	六郷町桐原地内	11月5日	砂利採取	トレンチ	2m×50m 2本
33	該当なし	大字口田沢字前田1507-6他	11月9日	宅地造成	トレンチ	1m×30m 3本
34	該当なし	中央7丁目地内	11月20日	駐車場	トレンチ	2m×30m 2本
35	該当なし	東大通1丁目17060他	11月30日	共同住宅	トレンチ	2m×20m 3本
36	該当なし	六郷町一漆字中273	12月7日	砂利採取	トレンチ	2m×50m 3本
37	該当なし	遠山町字八幡前1234-1他	12月17日	共同住宅	トレンチ	1m×10m 2本
38	該当なし	花沢字六部北下2936-1他	12月22日	店舗	トレンチ	2m×80m 3本
39	該当なし	大字川井字東1292-1	12月28日	資材置場	トレンチ	1m×30m 3本

第Ⅱ節　大樽遺跡 第４次調査

１．遺跡の概要と地形

本遺跡は、米沢市の南西部の舘山４丁目地内に位置している。遺跡の立地している一帯は、大樽川（鬼面川）の侵食によって形成された河岸段丘が著しく発達しており、斜平丘陵の西側山麓から南東方向に弧線を描くように微高地が続いている。

この地形には縄文前期の一ノ坂遺跡を始め、縄文時代と中世の遺跡を中心とした貴重な遺跡が約20箇所ほど分布している。このような遺跡群は、東の八幡原周辺の遺跡群、北の戸塚山周辺の遺跡群等に匹敵するものとして重視される地域である。

中でも台地の東端に位置する一ノ坂遺跡は、全国的に例のない連房式竪穴住居跡、全長43.5ｍの大型竪穴住居跡、墓壙等の遺構が馬蹄形状に配置されてる。大型の住居内部からは、多量の炭化物とともに完成・未完成・失敗した約２百万点に及ぶ膨大な石器群が出土し、一躍注目された遺跡である。遺構と出土品の分析から石器を専門に製作するために成立した工房集落跡と判明している。これらの一ノ坂遺跡の資料は、縄文時代の文化を考える上で全国的に高く評価され、平成９年７月28日付で国の史跡指定を受けている。

また、大樽遺跡を始めとする隣接遺跡は、縄文早期～晩期にかけて継続する複合遺跡が多いのも特徴である。さらに、舘山発電所の山頂に存在する米沢最大の山城「舘山城」に関連する平城の痕跡もこれまでの調査で部分的に確認されており、舘山周辺一帯に広く分布していることも判っている。舘山城や舘山平城の性格については、幾多の説があるが、伊達氏に密接に係わりを有する遺跡であることは確かである。

さて、大樽遺跡は平成９年に宅地造成や個人住宅の新築に伴って既に３次の調査を実施している。特に第Ⅱ次調査からは、縄文前期に属する土壙群や縄文後期初頭の墓壙群、それに中世の墓壙群等の貴重な遺構が検出されている。遺物では、県内初の三十稲場式の蓋形土器の出土や一ノ坂遺跡の直前に当たる土器群がまとまって検出され、一ノ坂遺跡との関連性や縄文文化の墓制を知る上で重要な資料が得られている。

２．調査の概要

今回の調査は、県道綱木・米沢停車場線の道路拡幅工事に伴う宅地移転・新築に係わる緊急発掘調査であり、宅地と作業小屋の建設を含め６件の開発を対象に実施したものである。調査は、平成10年４月22日よりⅣ次調査区から開始、重機による表土剥離を行い面整理と進めたところ、縄文後期に属する配石遺構と集石遺構、多くの土壙やピット群が確認された。

しかも、下層には中期や早期の古い時代の遺構が認められた。４月28日からは、確認した遺構の掘り下げを行い、５月11日からは調査予定の都合上、第Ⅴ次・第Ⅵ次調査区を開始する。両調査区は、第Ⅳ調査区が予想以上に遺構が密集していることで面整理・精査の段階までを平行して進め、Ⅵ次調査区が終了した段階で行なうことにした。

さて、Ⅵ次調査区は５月11日から上層の遺構の平面図作成と写真撮影行い、平行して13日か

ら確認した下層の遺構の掘り下げを実施した。ほぼ15日に遺構の掘り下げを終了したことから18日～20日に最終的な平面図作成・写真撮影を行い、21日にⅥ次調査区の調査を終了する。

5月19日からは第Ⅴ次調査と第Ⅵ次調査を併行して進めることにした。前者の第Ⅴ次調査は後世による撹乱が著しく、南側の大半は近世の遺構が主体となっている。北側からは、約5mと推測される縄文後期初頭の竪穴住居跡の一部と中世の柱穴跡が確認された。

後者の第Ⅵ次調査からは、比較的明瞭な竪穴住居跡3棟と土壙22基、それに近世の井戸跡2基が確認されている。特に、HY17の土壙DY61からは、縄文後期初頭の堀之内1式に併行するほぼ完形の注口土器が出土し、米沢市では初の発見となった。両者とも遺構確認・掘り下げを5月20日～5月22日を要し、第Ⅴ次調査の終了したことから先行して5月25日から平面図を作成する。第Ⅵ次調査も5月26日に遺構の掘り下げを終了したことから5月27日から平面図の作成に入り、5月28・29日に終了した。

6月1日からは住宅新築工事に伴う第Ⅶ次調査の調査を開始する。Ⅵ次調査に隣接することから重要な遺構の存在が期待されたが近世の落ち込みと縄文後期の小規模な土壙以外は検出されなかった。ほぼ6月20日で終了した。

9月30日からは、作業小屋移築と池掘削に伴う第Ⅷ次調査を開始する。重機による表土剥離後に10月1日より精査を進めたが、主体は中世の柱穴と土壙であった。10月2日は遺構の掘り下げを行い、平面図作成を併行する形で10月15日に終了する。この調査の段階で、第Ⅵ次調査の南側の宅地新築が決定し、協議の結果、10月からの調査日程となる。

10月15日から第Ⅸ次調査を開始する。建物の関係から西側区と東側区の2箇所の調査区となった。両区とも地山の状況が良好であったが、明瞭な遺構は検出されなかった。ただ、西側調査区からは、中世の堀と推測される薬研堀の一部と近世の井戸2基が検出されている。10月16日には遺構の確認を行い、10月17日から遺構掘り下げを進める。10月20日にほぼ完了し、平面図作成、写真撮影を開始し、10月23日に一連の大樽遺跡の調査が終了した。

大樽遺跡の調査の日程と調査面積の要約は次のようになる。

・第Ⅳ次調査＝4月22日～5月22日　調査面積 250㎡　調査目的「住宅新築」
・第Ⅴ次調査＝5月19日～5月27日　調査面積 97.4㎡　調査目的「作業小屋新築」
・第Ⅵ次調査＝5月19日～5月29日　調査面積 266.7㎡　調査目的「住宅新築」
・第Ⅶ次調査＝6月5日～6月11日　調査面積 66.3㎡　調査目的「住宅新築」
・第Ⅷ次調査＝9月30日～10月15日　調査面積 274.6㎡　調査目的「住宅新築」
・第Ⅸ次調査＝10月15日～10月23日　調査面積 61.4㎡　調査目的「作業小屋移築」

以上が第Ⅳ次調査～第Ⅸ次調査の調査経過の概要であり、後述する各調査区では経過を省略し、遺構及び遺物を中心に述べることにする。

3．検出遺構

第Ⅵ次調査で検出された遺構は、竪穴住居跡3棟を含む 113基で第16図のようになる。遺構は縄文時代を中心として僅かに中世と近世の遺構が含まれる。ここでは、主体的に遺構が確認

された縄文時代を中心に留め、全体の遺構の状況は第３表に集約した。

１）竪穴住居跡「第16図・第17図・第18図」

３棟の竪穴住居跡が検出されている。出土遺物からＨＹ44とＨＹ51が縄文後期初頭、ＨＹ42は縄文早期中葉になる。

最初のＨＹ42は、南西の隅に一部確認したものであり、最下層の面に位置する。約12㎝前後の小規模な壁柱穴を配するのが特徴で、約20㎝ほど堀込んで構築している。全体の長さは不明であるが、早期の時期に属することから概ね 4.5ｍ前後の隅丸方形もしくは楕円形プランを示すものとみられる。

ＨＹ38は、直径 3.8ｍの円形状をした住居跡で、壁を囲むように径24㎝～38㎝、深さ25㎝前後の柱穴が８本で構成している。炉は、上層に集石遺構が存在するのみで存在していない。

ＨＹ51は、調査区の東端より確認されたもので、一部だけが検出されている。約20基の柱穴が切り合って存在し、立替えを行なったものと判断される。現長が南北で 8.2ｍを示すことから概ね約９ｍ前後の大型の円形プランの竪穴住居跡と推測される。

２）配石遺構「第19図・第20図」

縄文後期中葉期に属する配石遺構で、ＮＮ12とＮＮ50の２基が検出されています。ＮＮ12は、長径2.1ｍ、短径1.2ｍの長方形に偏平な川原石を組み合わせたもので、主軸方向に２列、短径に大きめの石を配列し、周辺に小礫を埋めてある。内部の大きさは、主軸長で1.2ｍ、幅が0.45ｍ、深さ40㎝を測ります。主要な遺物は検出されていない。

ＮＮ50は、後世の撹乱で破壊を受け、主軸の西側の石組しか残っていないが、当初はＮＮ12と同様な形態を示していたものと推測される。ただし、南に面した遺構の底部に小型の壺形土器１点「第31図１－」が埋納されている。これら２基の配石遺構は、墓跡と推測されるもので、土器の特徴から縄文後期中葉に属するみのとみられる。

３）集石遺構「第16図・第18図～第22図」

ＮＮ11～ＮＮ16・ＮＮ112・ＮＮ113・ＤＹ３・ＤＹ４等の10基が確認されている。配石遺構と同時期に属する集石遺構で、石の組み合せの状況から次の４グループに分類することが可能であった。

Ａ群集石＝ＮＮ13やＮＮ15のように円形状に配するもの２基。

Ｂ群集石＝中央に立石を配置するＮＮ112とＮＮ113の２基。

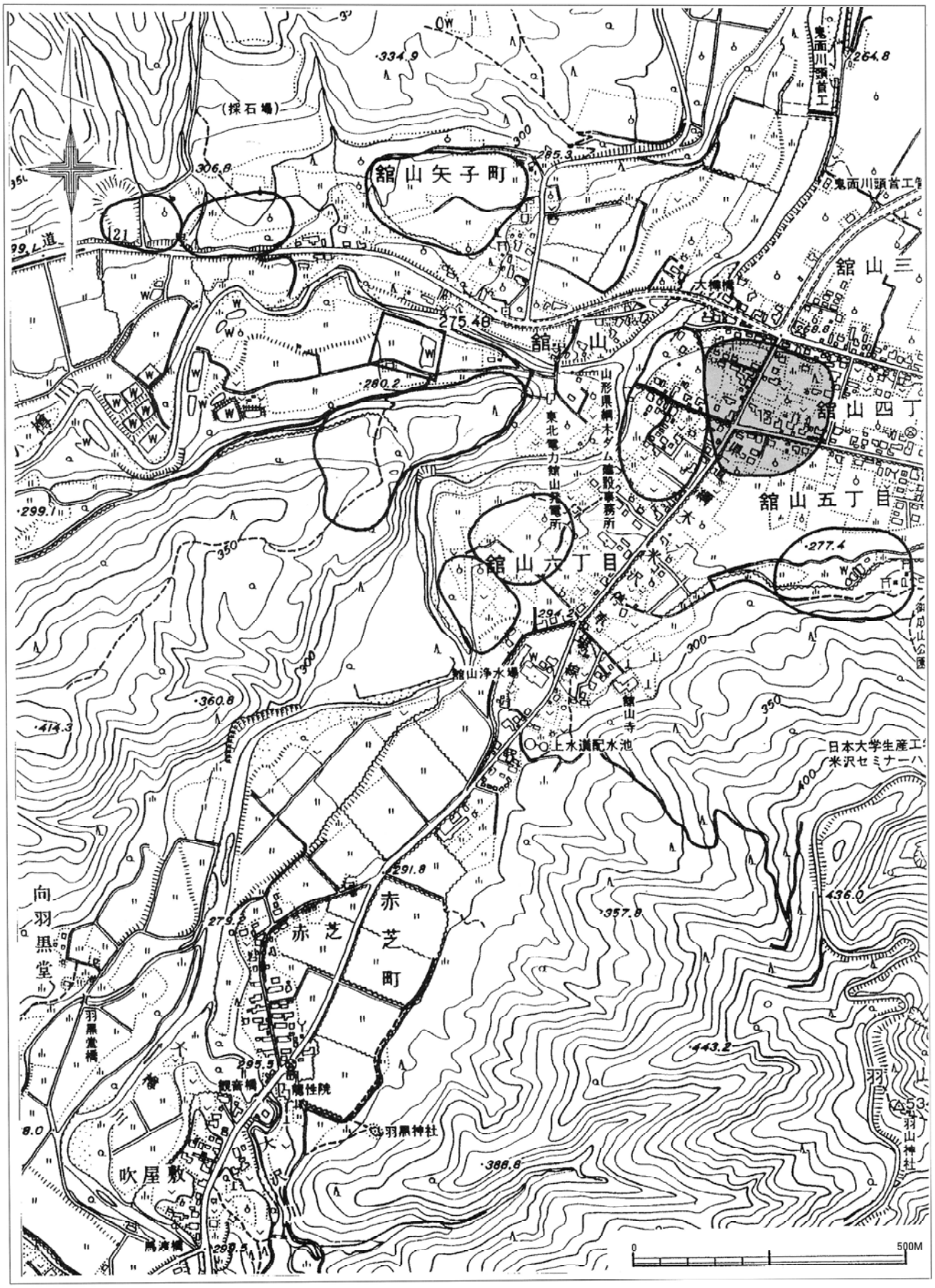
Ｃ群集石＝ほぼ円形に集石を配するＮＮ14・ＮＮ11・ＮＮ16の３基。

Ｄ群集石＝浅い土壙の内部に集石を配するＤＹ４とＤＹ３ＤＹ45の３基。

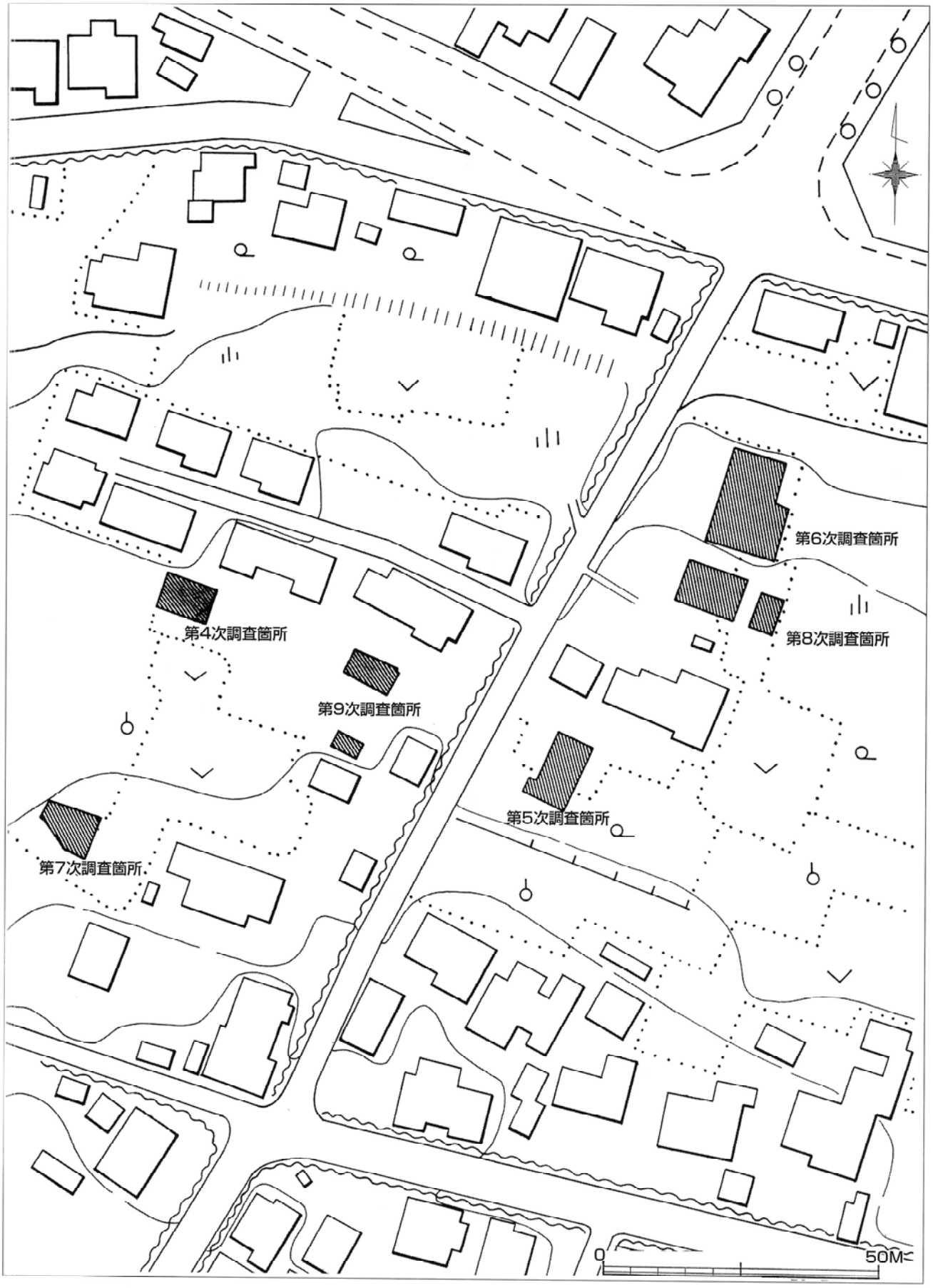
これらの集石遺構は、墓跡とみられるＮＮ12の周辺に集中していることから墓制に密接に係わる祭祀的な施設と考えられる。

４）土壙「第16図・第18図・第19図・第21図～第25図」

最大長径が約３ｍのＤＹ25を始め約50㎝までの39基が検出されており、平均で 1.2ｍ前後を示すものが大半となる。形態は円形から不整な楕円形までと多様であるが、遺構確認面が砂利層であることや調査区の東側が部分的に撹乱を受けていることから当時の形より変形している



第13図　大樽遺跡位置図



第14図　大樽遺跡第4～9次調査位置図

可能性がある。ＤＹ20の方形土壙に関しては、近世の墓壙と考えられる。

遺物は、自然と流れ込んだ土器片が検出されており、性格が判明するまでは至らない。ゴミ捨て穴や貯蔵穴の一部と推測される。時期は、大半が縄文後期に属するが、ＤＹ39関しては中期中葉に位置するものである。

５）埋設土器「第18図」

ＨＹ38の南側に接して３個の土器が埋設さられていた。いずれも深鉢形土器の下半分を埋設したもので、竪穴住居跡に係わる遺構と推測される。

６）ピット

25㎝～48㎝の小規模な穴をピットとした。約30基の穴の多くは縄文後期の柱穴とみらられ、一部には近世や中世に属するのも含まれるが判然としない。

７）井戸「第25図」

約３ｍの堀方に川原石を放射状に配列した井戸跡で、井戸口が１ｍ深さ2.5ｍを測る。底から出土した中世陶器片より16世紀後半頃に築かれたものとみられる。

４．出土遺物

Ⅳ次調査から検出された遺物は、遺構外を中心として10,797点出土している。その大半は縄文時代の土器群が占め、他に僅かに中世と近世陶磁器、鉄製品類が僅かに含まれている。縄文時代の遺物では、早期・前期・中期・後期の４時期が存在するが、圧倒的に縄文後期の時期に相当するものが占めてる。ここでは、簡単に出土遺物について述べてみる。

１）出土土器

遺構出土の一括土器19点を含む8,953点を数える。この中で、一括土器を除く破片の文様が明確な436点を選別して図を作成した。年代別に細別し概要を記す。

・第Ｂ群土器「第32図１～６，第34図14～24」

早期中葉の土器片であり、竪穴住居跡の床面を中心に約100点出土している。笹竹を割って施文した沈線文に貝殻復縁を押しつけたもので、東北地方の常世式や大寺式に平行するものである。

・第Ｄ群土器「第34図25・26」

裏面の口縁部に撚糸文を施すのが特徴で、表面に沈線文と突刺文がみられる。形式は明確にできないが早期ころに位置するものと考えられる。

・第Ｅ群土器「第34図27～29」

僅かに20点ほど太状の羽状縄文を有する土器片がある。磨滅が著しく明確な文様を示したものは確認されなかったが、花積下層式に併行する頃の時期とみている。

・第Ｆ群土器「第34図30～38」

ループ文を主体とした土器群で、棒状工具で突き刺した文様や竹管文を用いている点を考慮すれは、関山式に併行する一ノ坂遺跡と同時期に位置するものと考えられる。35点出土した。

・第G群土器「第34図39～41・42」

僅か5点認められたもので、沈線文、無文、斜縄文がある。口縁部の立上りと胎土の状況から大木4式に併行するものとみられる。

・第H群土器「第34図42・44～59」

太状の沈線文、半載竹管文、ボタン状の貼付文を施文したもので、胴部を斜縄文を埋めている。口縁部が強く外反し、胴部が極端にふくらみ、底部に向けて急速にすぼまる深鉢形を示すのを特徴とする器形で、八幡原遺跡群から主体的に出土している仲間と併行する。大木6式の範疇に含まれる。

・第J群土器「第26図2，第33図19～24，第35図1～14」

地文の縄文に粘土紐の貼付や沈線文を加えて施文する仲間である。何れも破片が多く、全体の文様構成は明確でないが、DY39の土壙出土の深鉢形土器・第26図2を始め周辺から約 200点が出土している。大木8a式に併行する。

・第I群土器「第35図15～31・33・34」

貼付文と太状の調整沈線文を組合せて渦巻文や蔓状文、嘴状文等の文様を構成するものと沈線文で描く二通りがある。調査区の北東部から検出されているが、何れも破片で占められ約50点あまりと少ない。大木8b式に併行するものである。

・第K群土器「第26図3，第35図23」

2点認められた。第26図3はキャリパー状の器形を有するもので、口縁部を横に展開する楕円文、胴部は逆「U」字状文を縦位に展開するのを特徴とする。第35図2は鉢形土器と考えられる破片で、逆「U」字もしくは、楕円文をなすものとみられる。大木9a式に併行する。

・第L群土器「第33図25」

口縁部の破片1点がある。横に展開する「C」字状文の一部と考えられ、大木10式に併行するものとみたい。

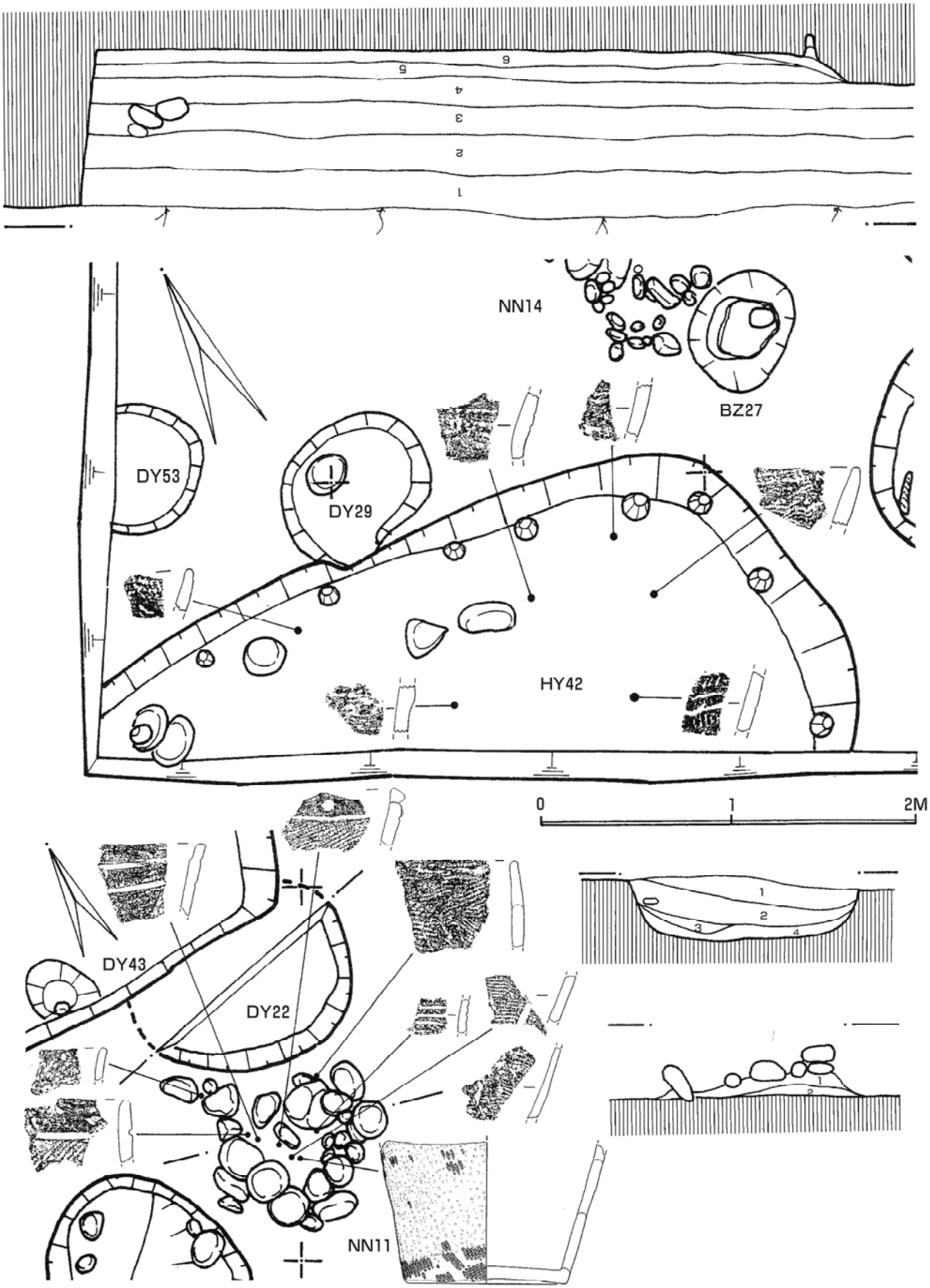
・第M群土器「第32図39・42」

ほぼ関東の称名寺式と併行する時期で、横に展開する「J」字縄文を特徴とする。東北の綱取式の前の段階に存在するものとかな替えられる。大樽遺跡の第Ⅲ次調査から主体的に検出されている土器群で、第Ⅵ次調査からは、2点検出されてる。本来からいえば縄文後期初頭に加えるのが妥当と考えるのが、稜線や沈線文に調整（磨き）を施した一群についてはあえて中期と後期をつなぐ可能性から分けておいた。

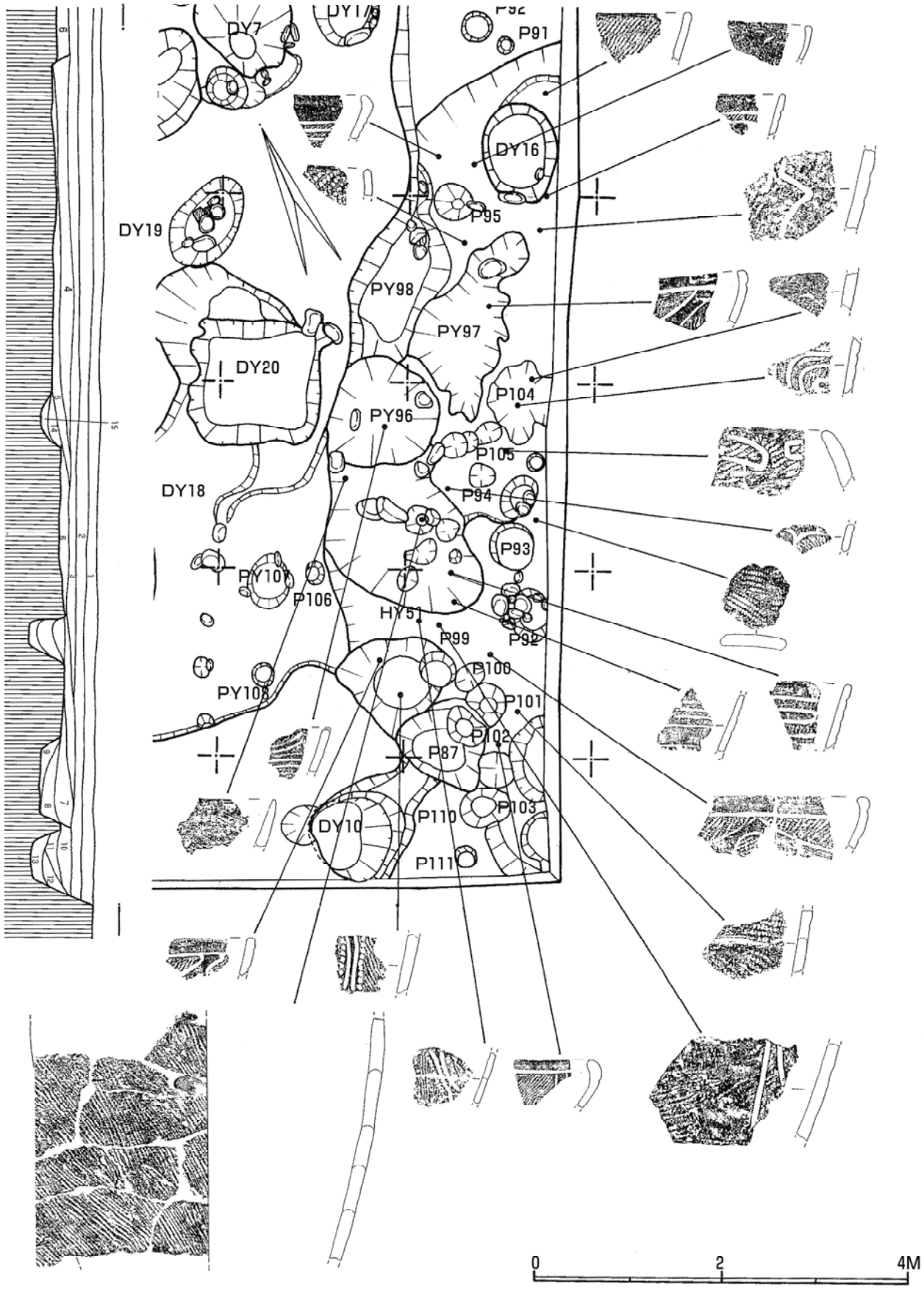
・第N群土器「第27図1，第32図9～11・35・36，第33図1・3～10・32～41，第36図1～38」

沈線文と稜線文を用いて「J」字状文や変形「J」字状文を横に展開するN群1類土器と波状口縁を主体とした深鉢形土器で、「ノ」字状の口縁部垂下文に突刺文に二重沈線文による入組状の文様を施文したN群1類土器の二者に第図別される。前者の1類土器は、米沢市の後期初頭に最初に出現する土器群と考えられ、称名寺に併行関係を求めることが可能である。後者の2類土器は綱取式に併行する。

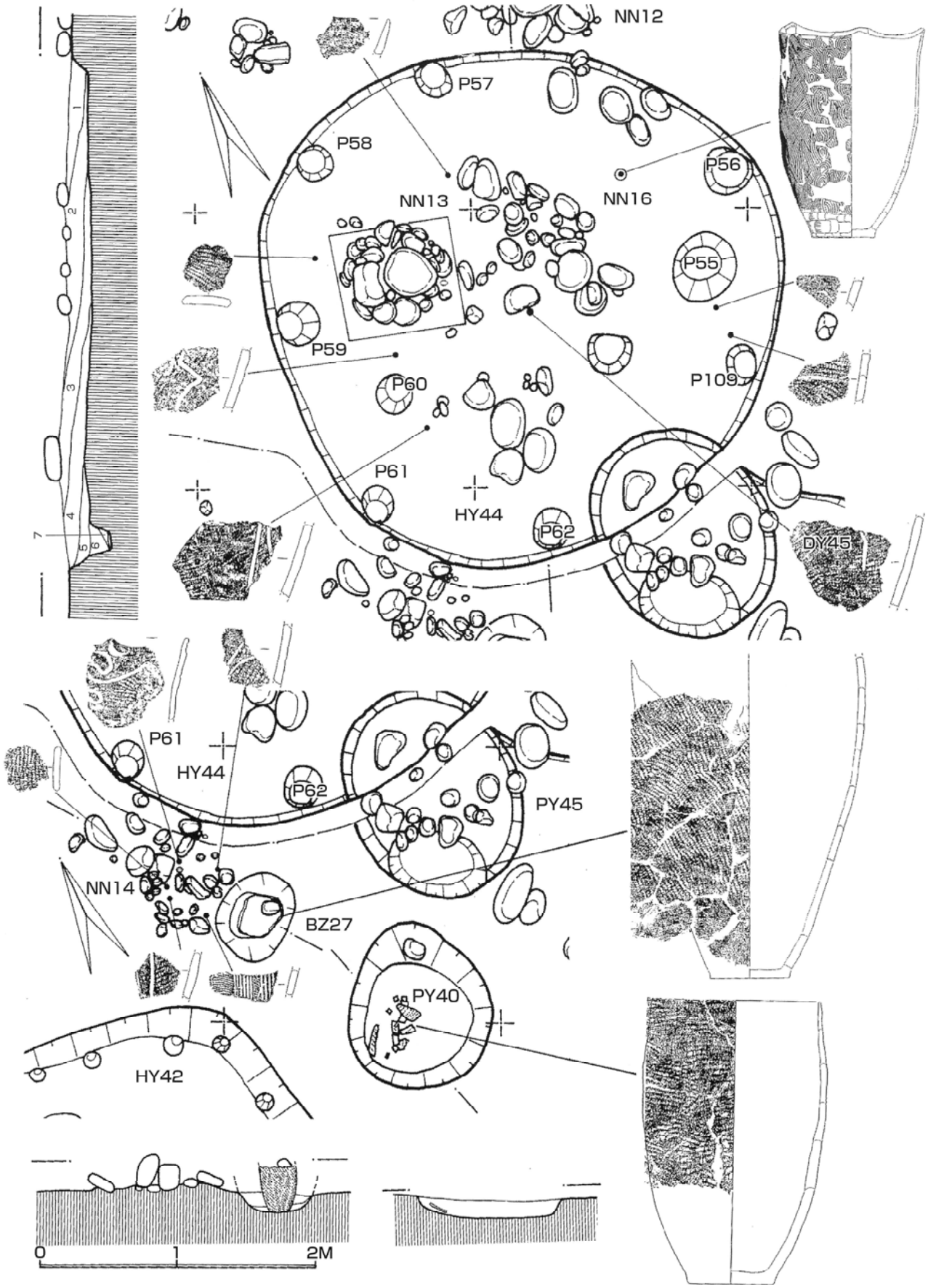
・第O群土器「第25図1・4・5，第27図2，第28図1・3，第29図1，第32図12～15・16～



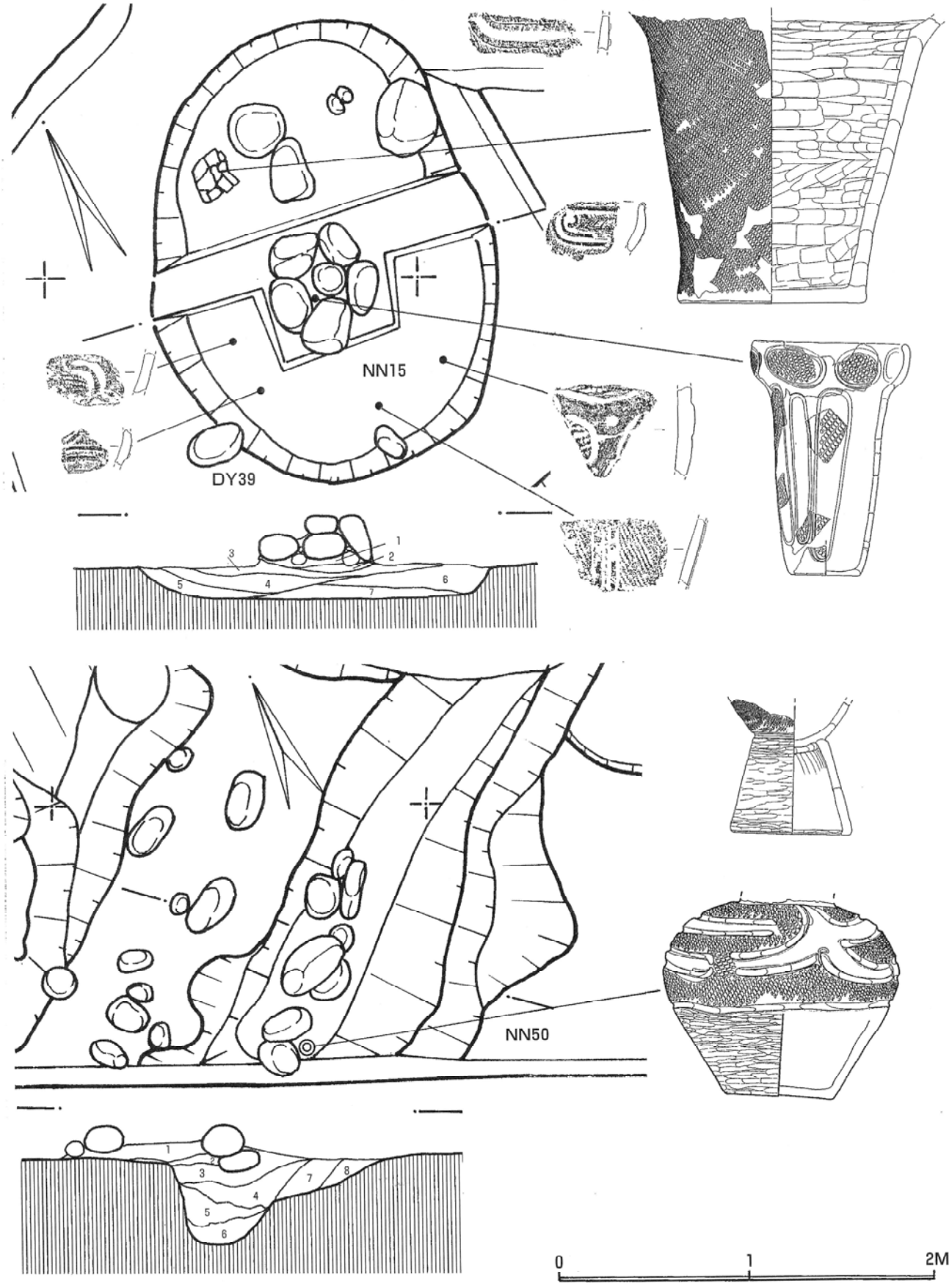
第16図　大樽遺跡第4次調査遺構平面図（1）



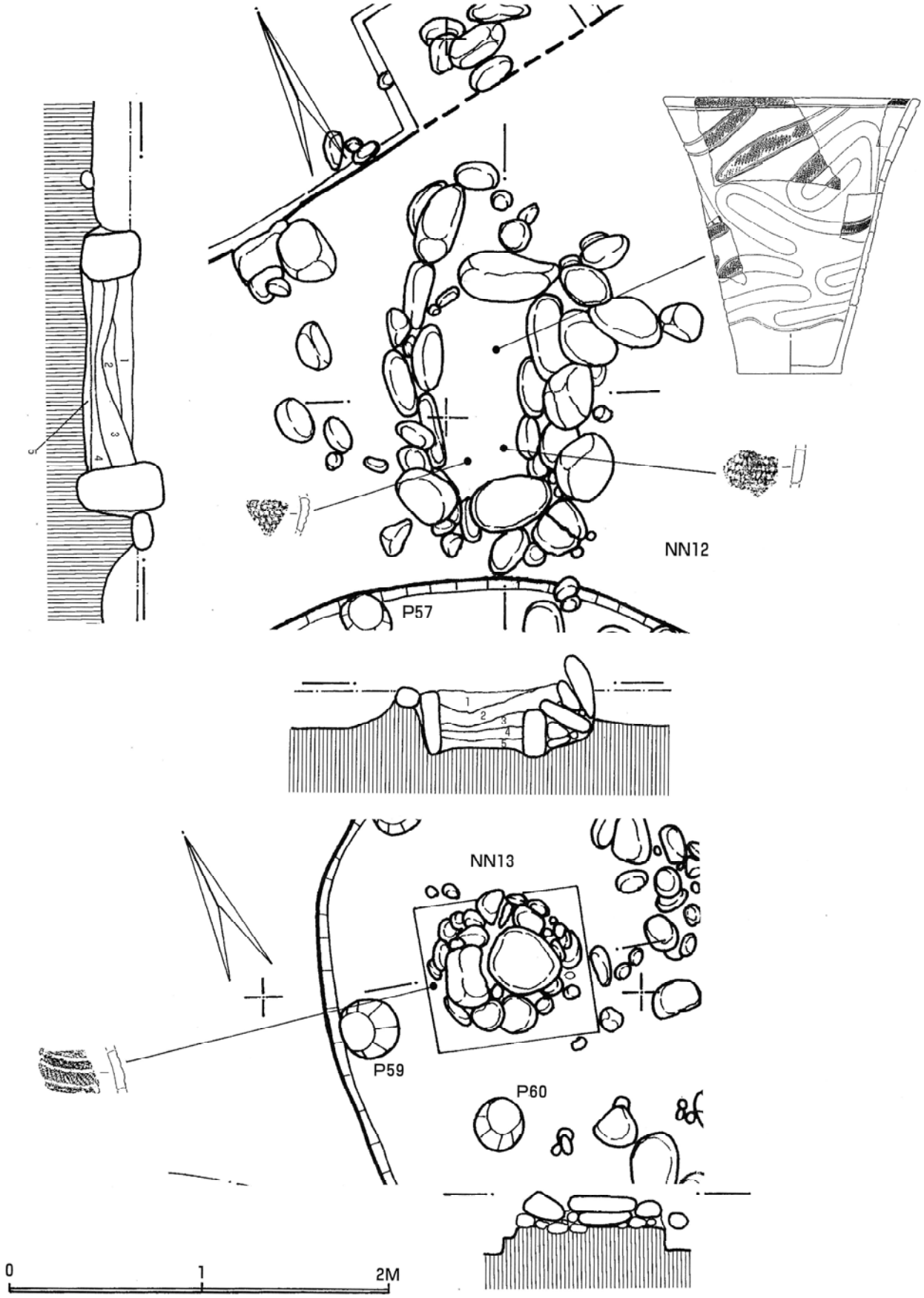
第17図　大樽遺跡第4次調査遺構平面図（2）



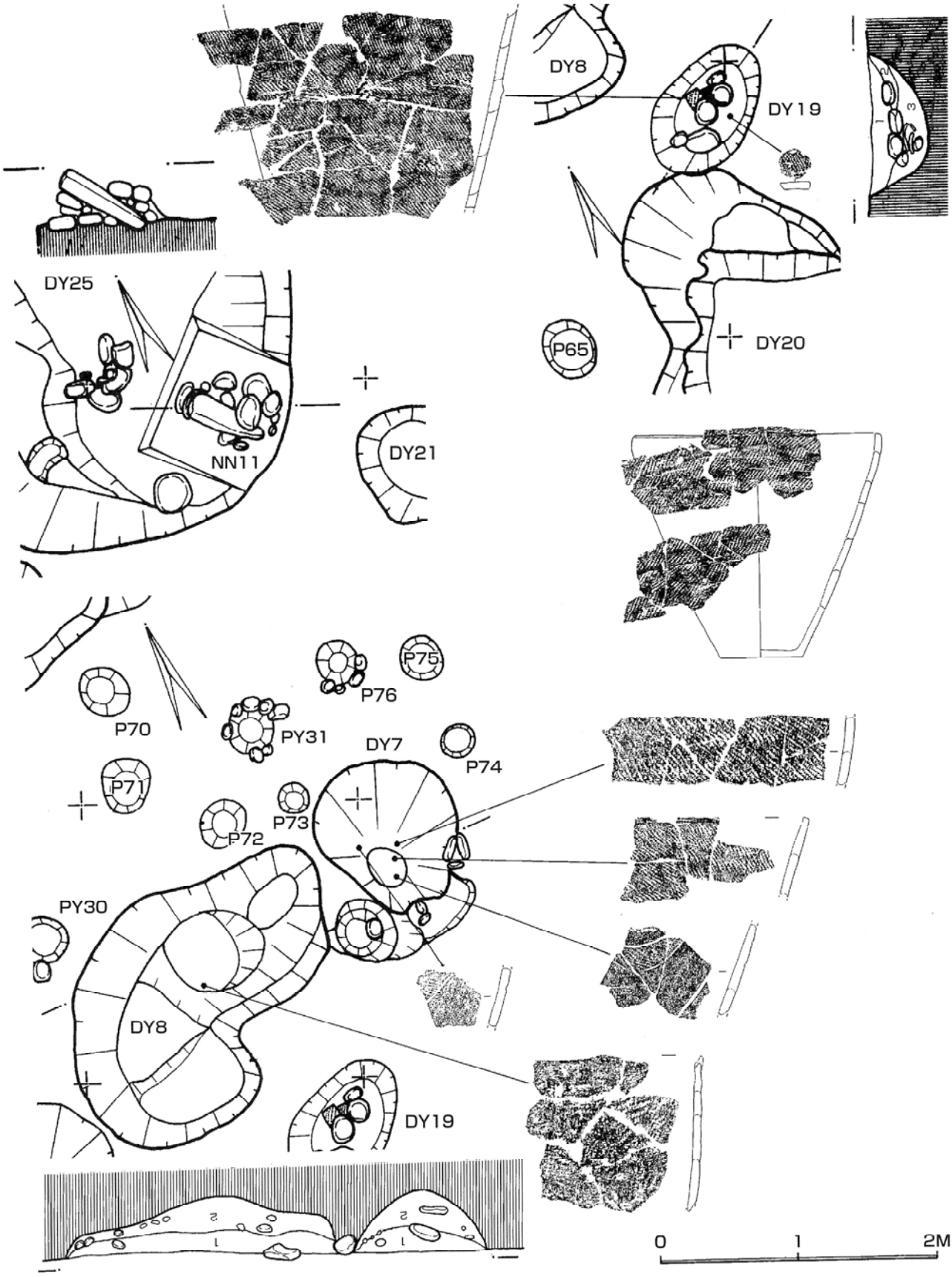
第18図　大樽遺跡第4次調査遺構平面図（3）



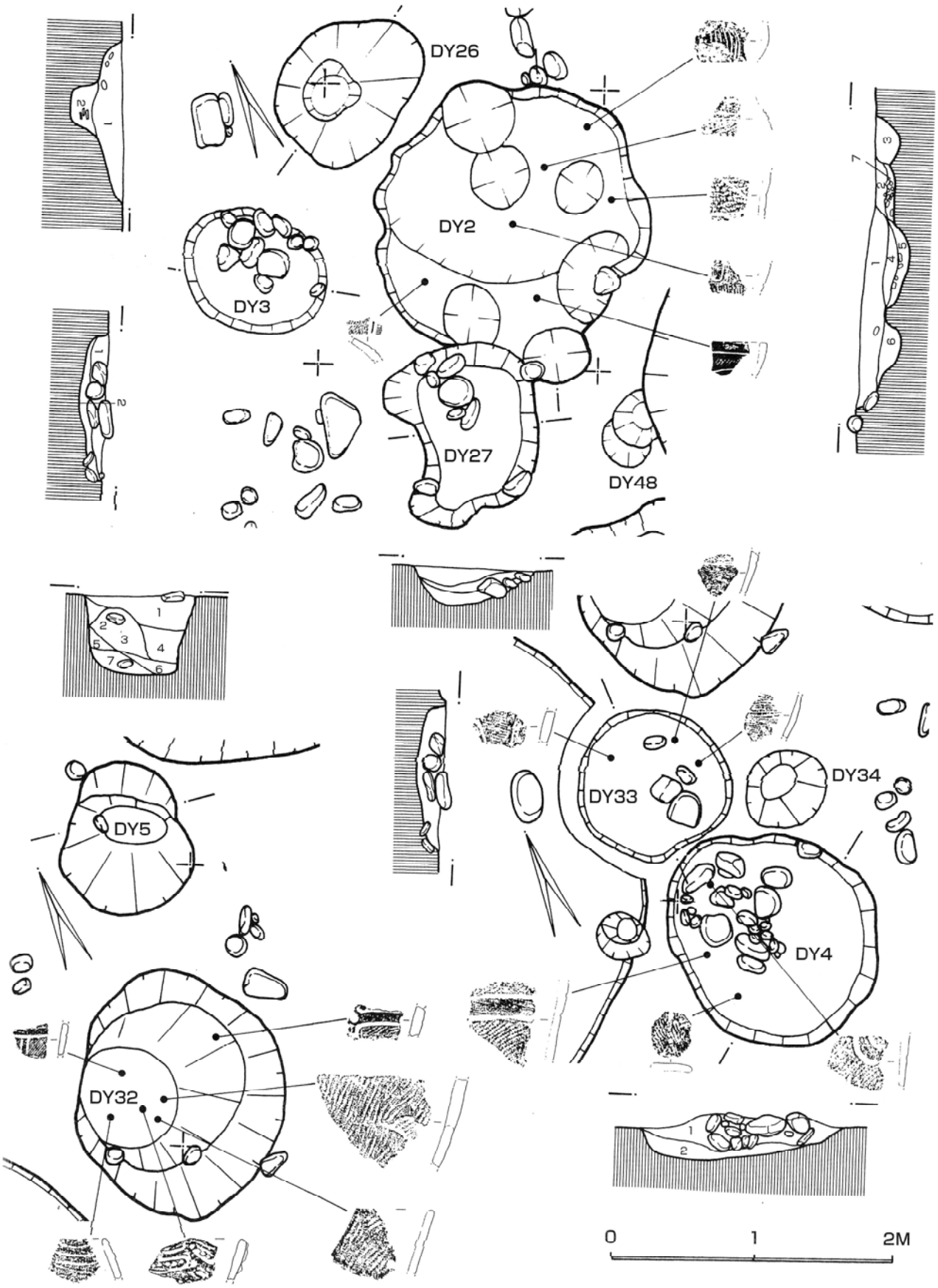
第19図　大樽遺跡第4次調査遺構平面図（4）



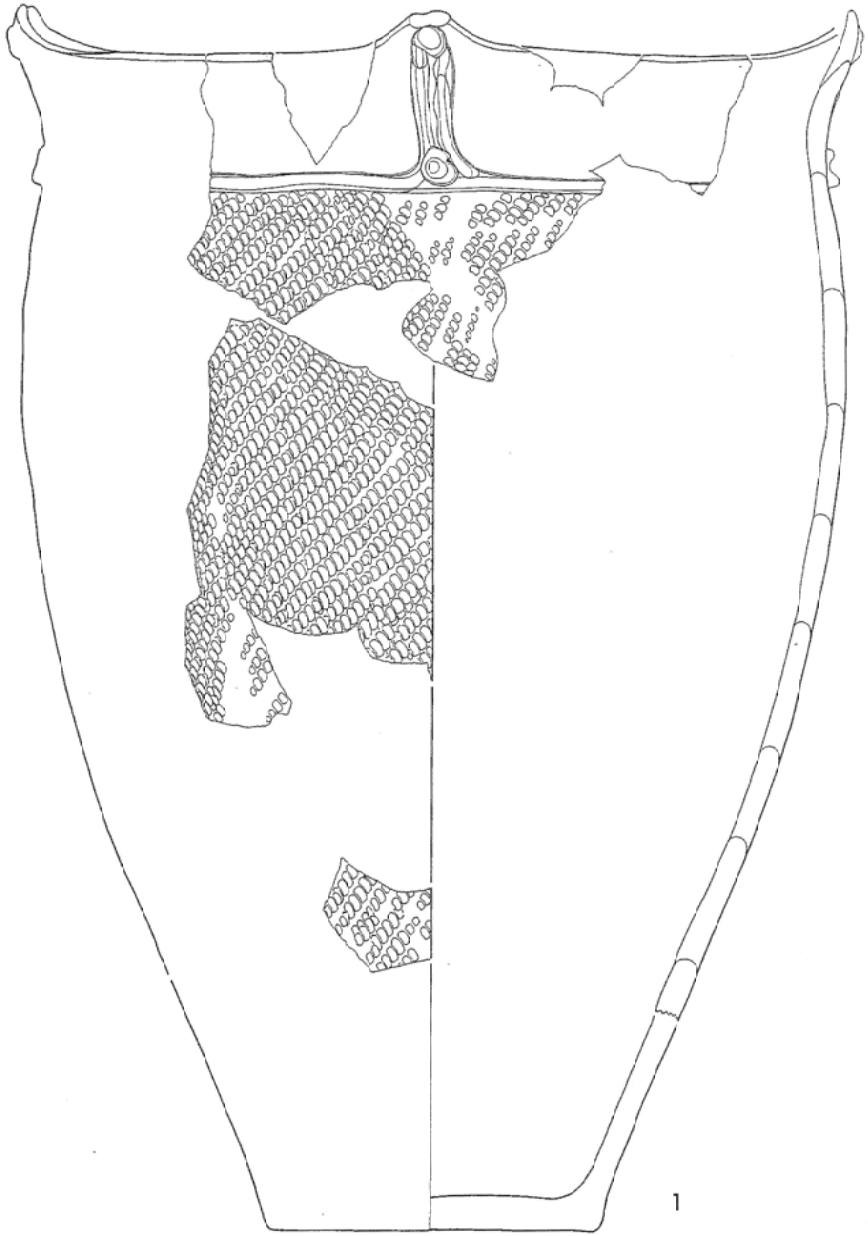
第20図　大樽遺跡第4次調査遺構平面図（5）

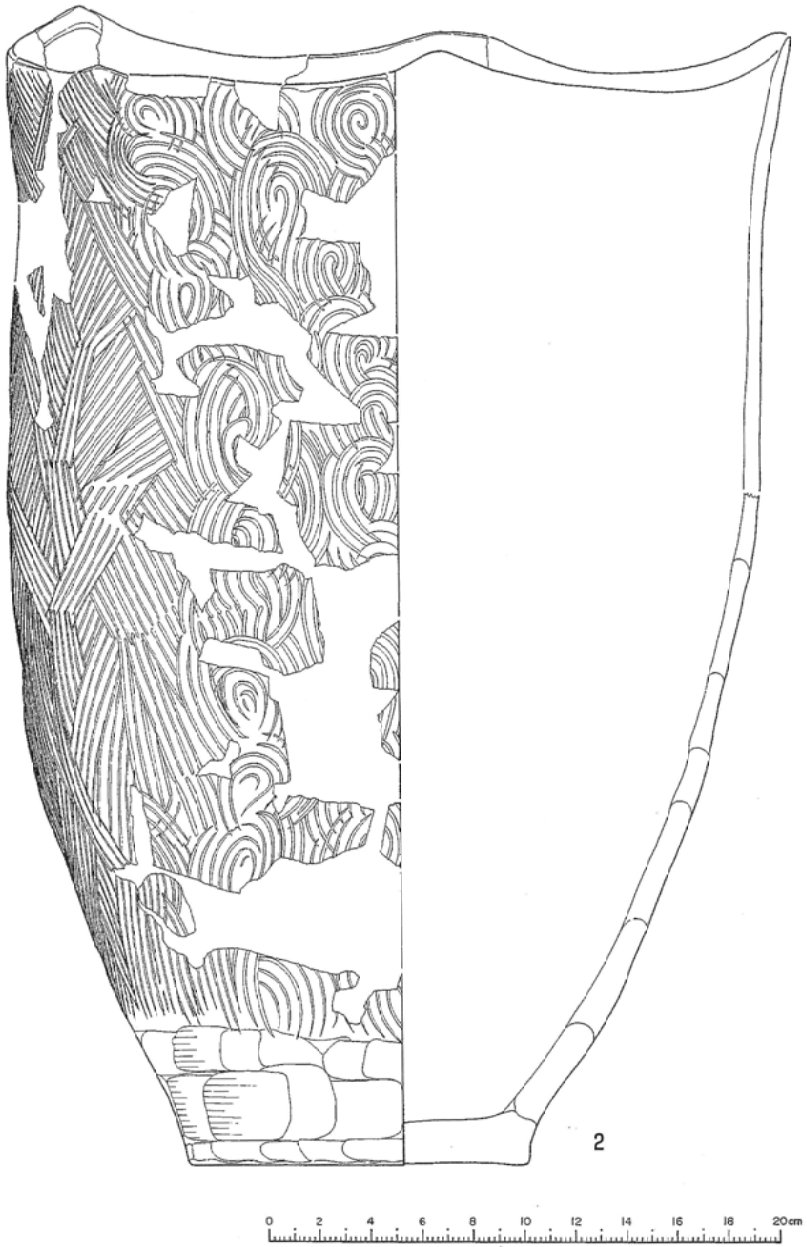


第21図　大樽遺跡第4次調査遺構平面図（6）

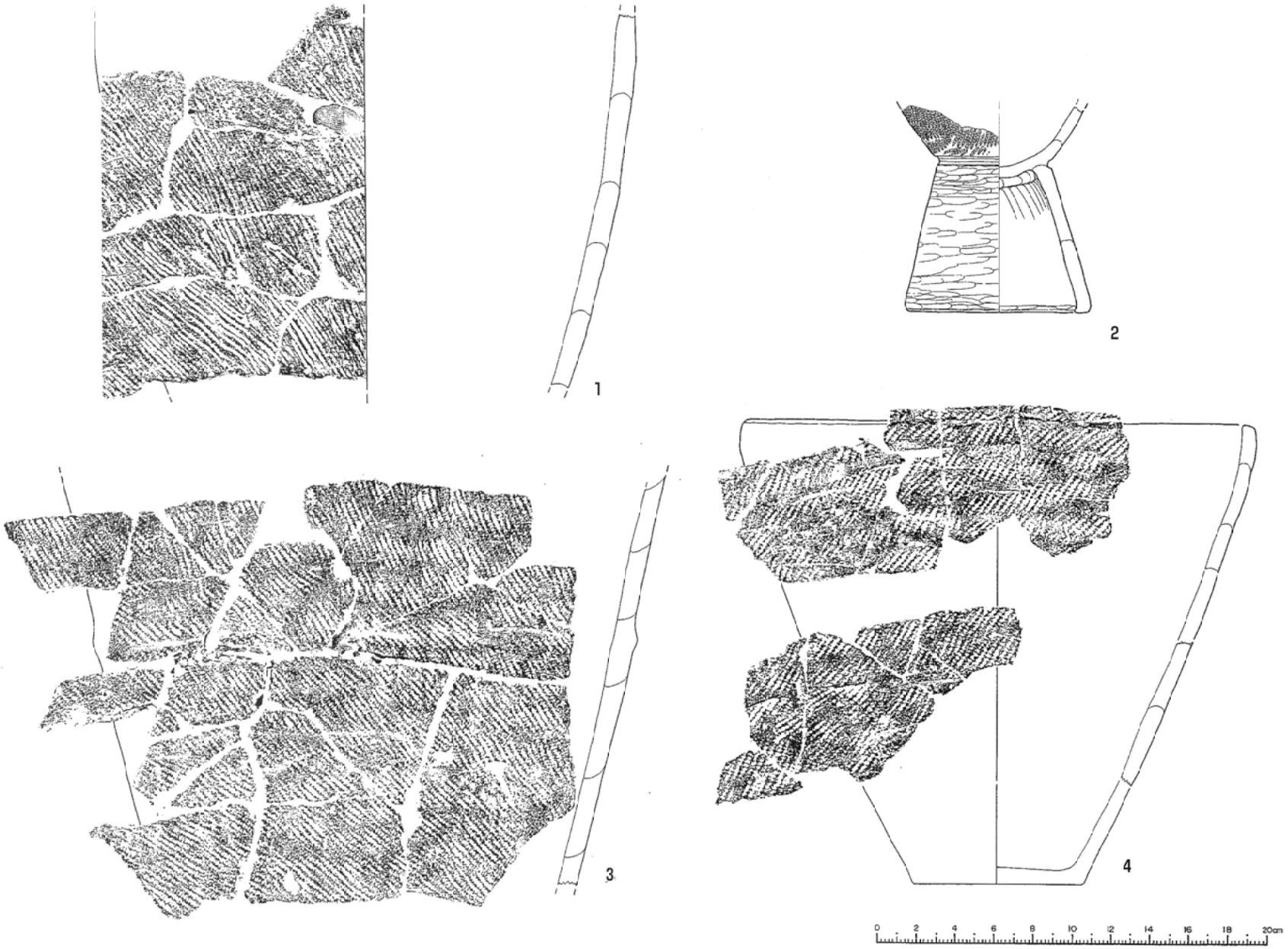


第22図　大樽遺跡第4次調査遺構平面図（7）

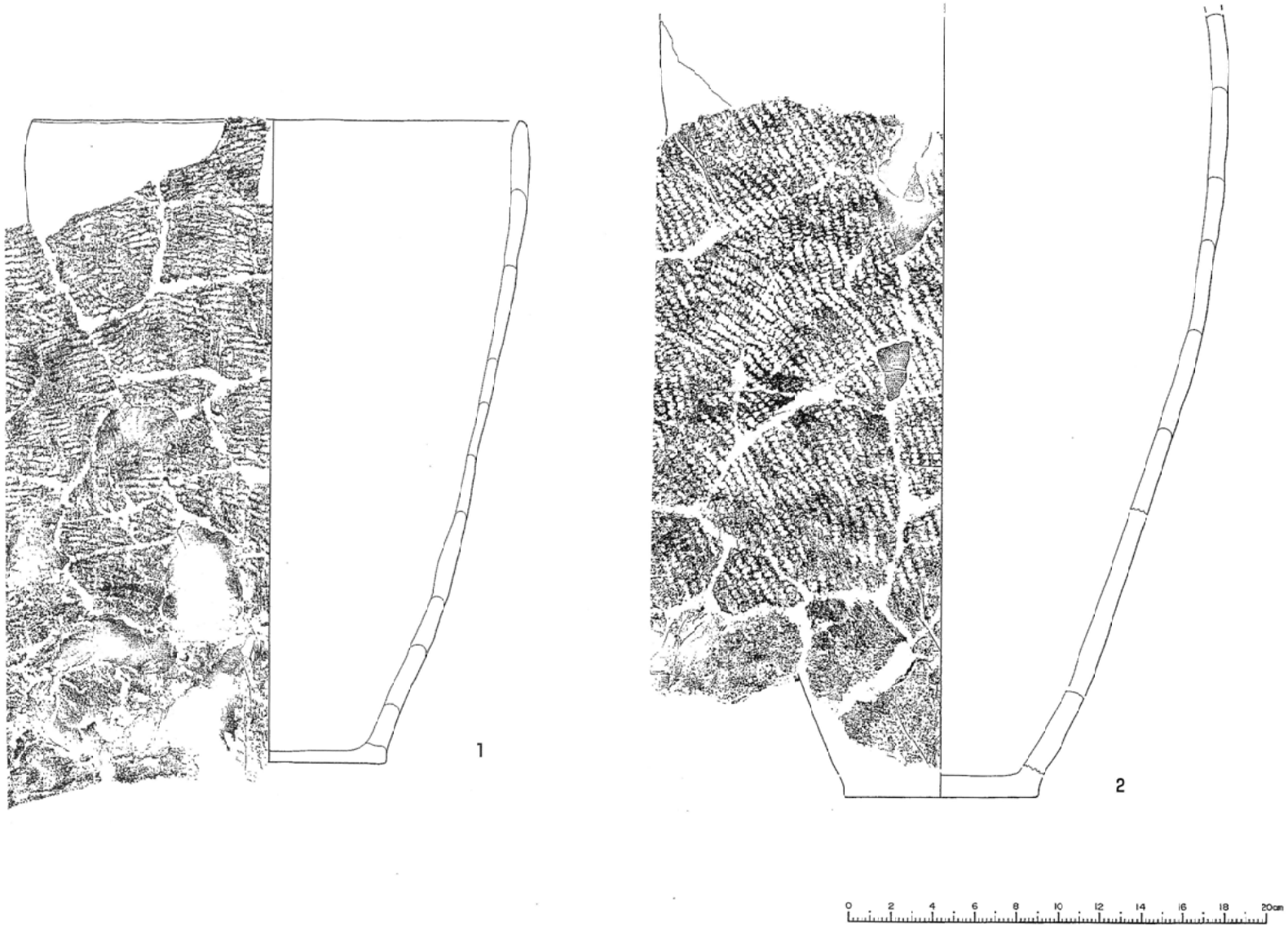




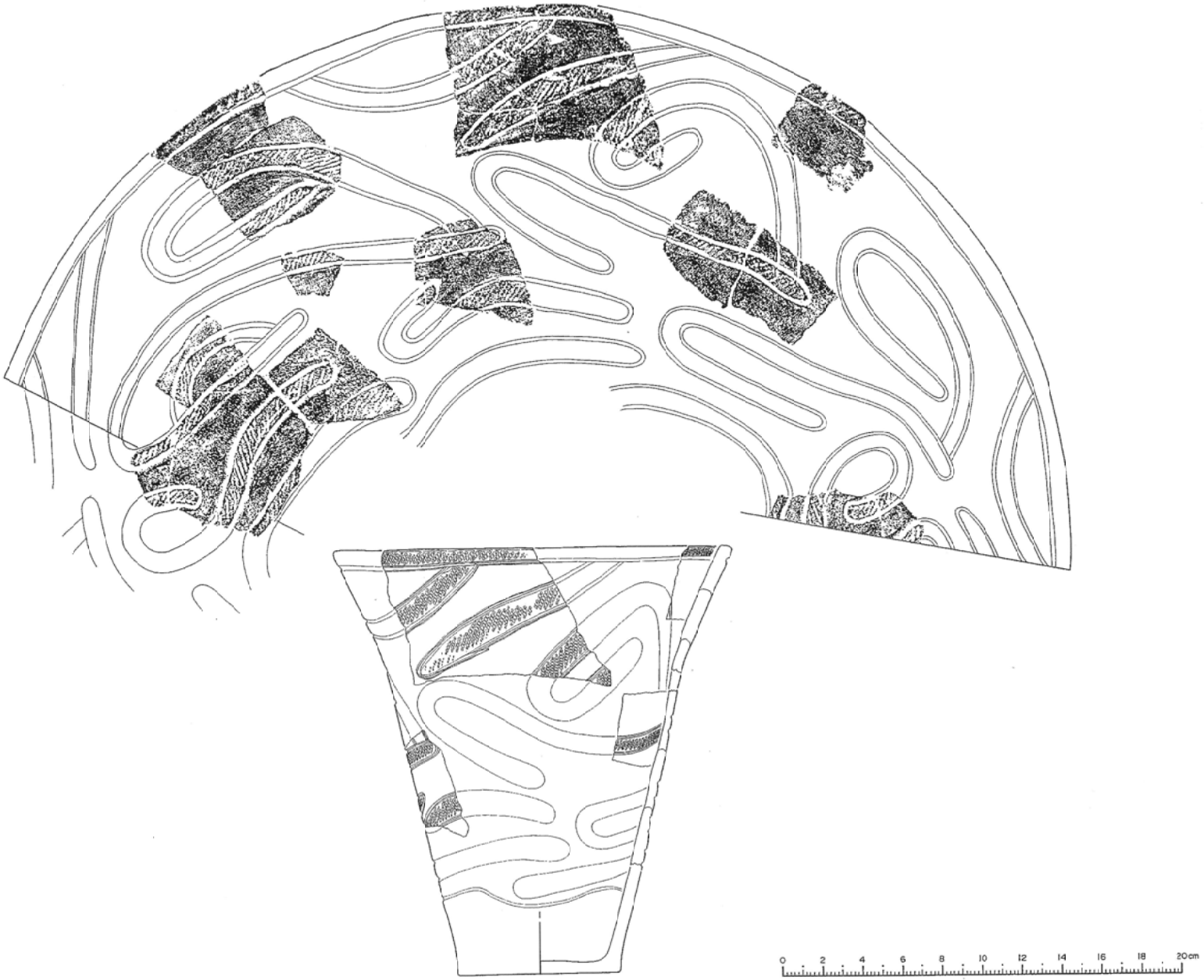
第27図　大樽遺跡第4次調査出土土器実測図（2）



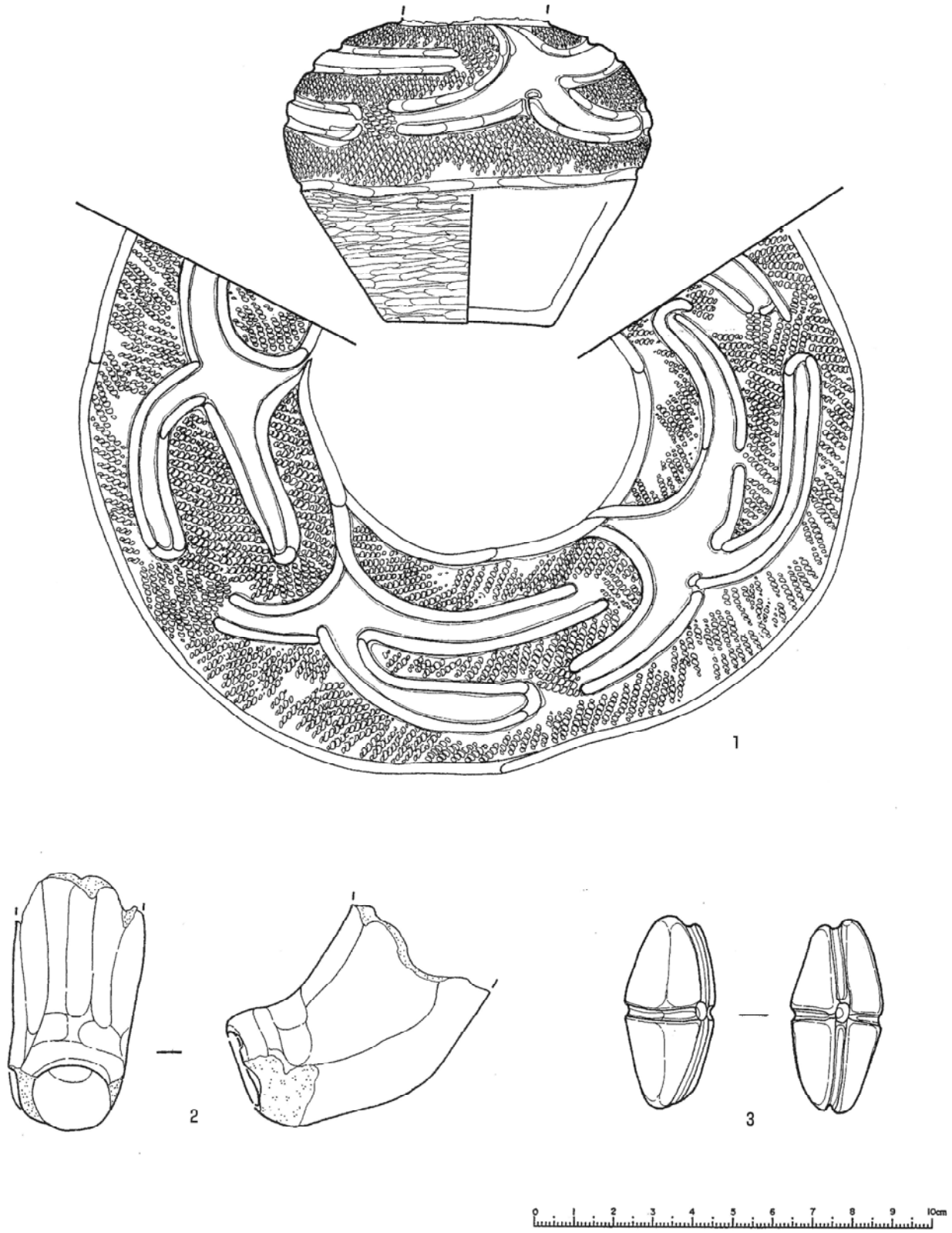
第28図　大樽遺跡第4次調査出土土器実測図（3）



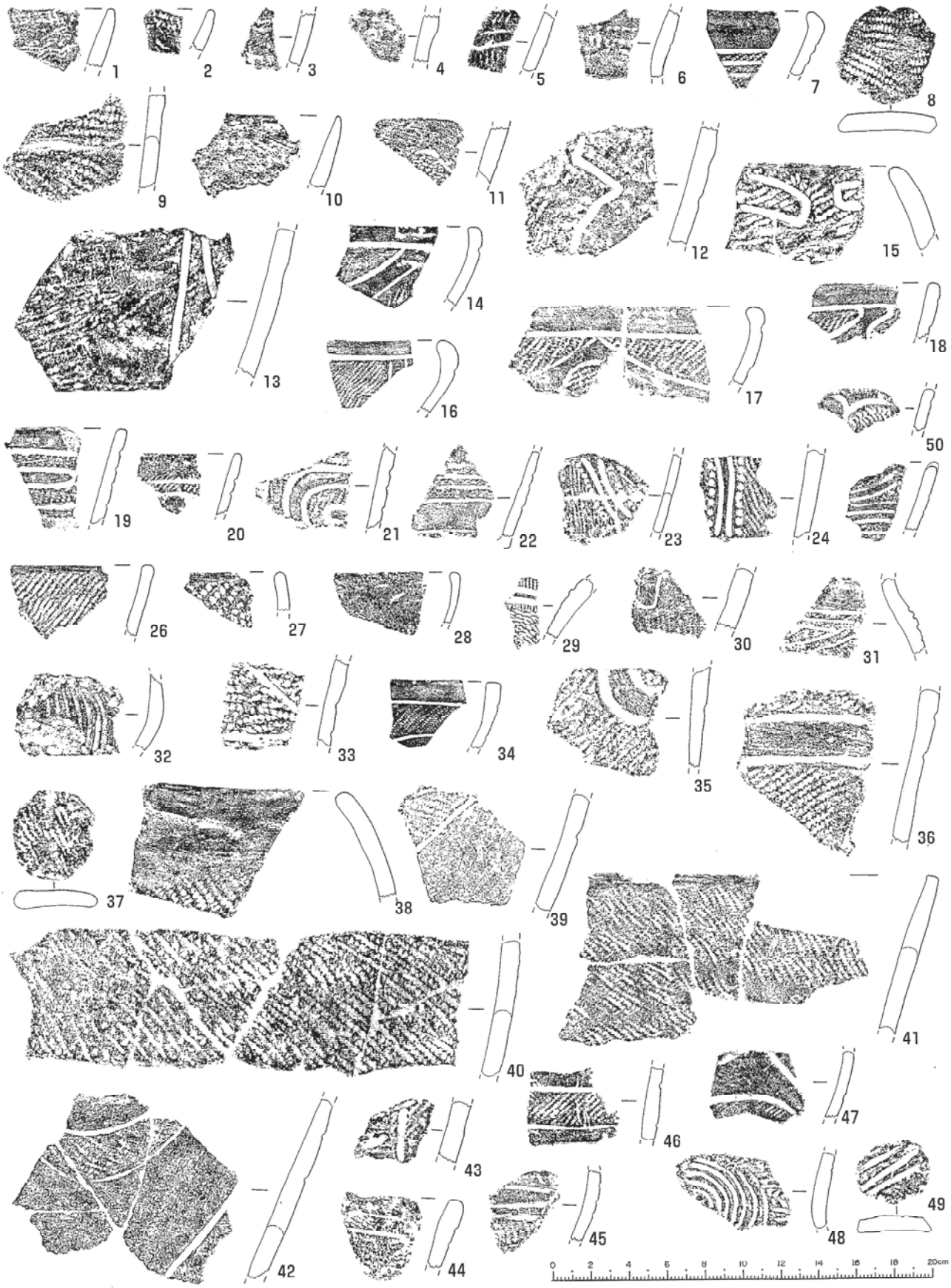
第29図　大樽遺跡第4次調査出土土器実測図（4）



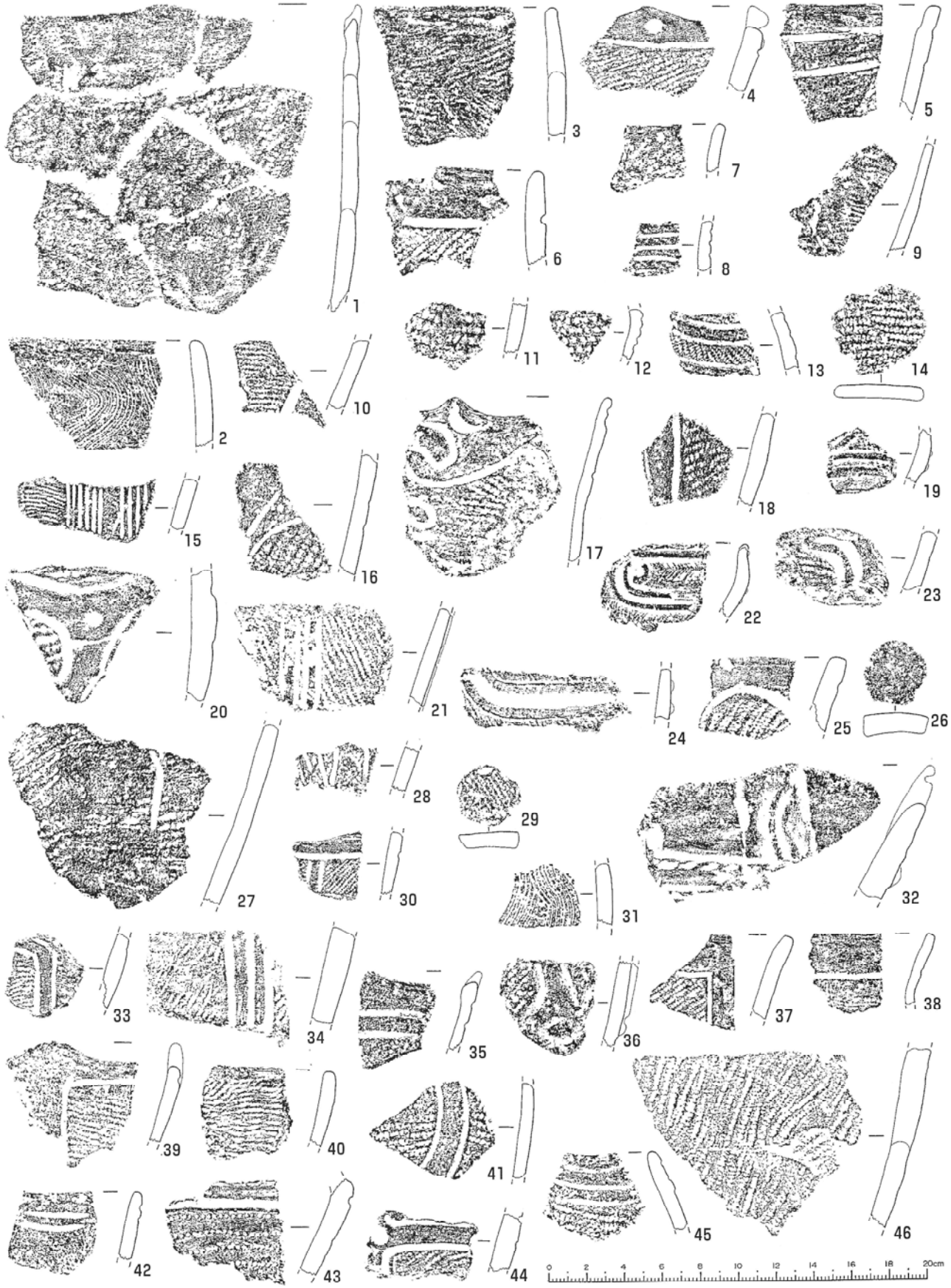
第30図　大樽遺跡第4次調査出土土器実測図（5）



第31図　大樽遺跡第4次調査出土土器実測図（6）

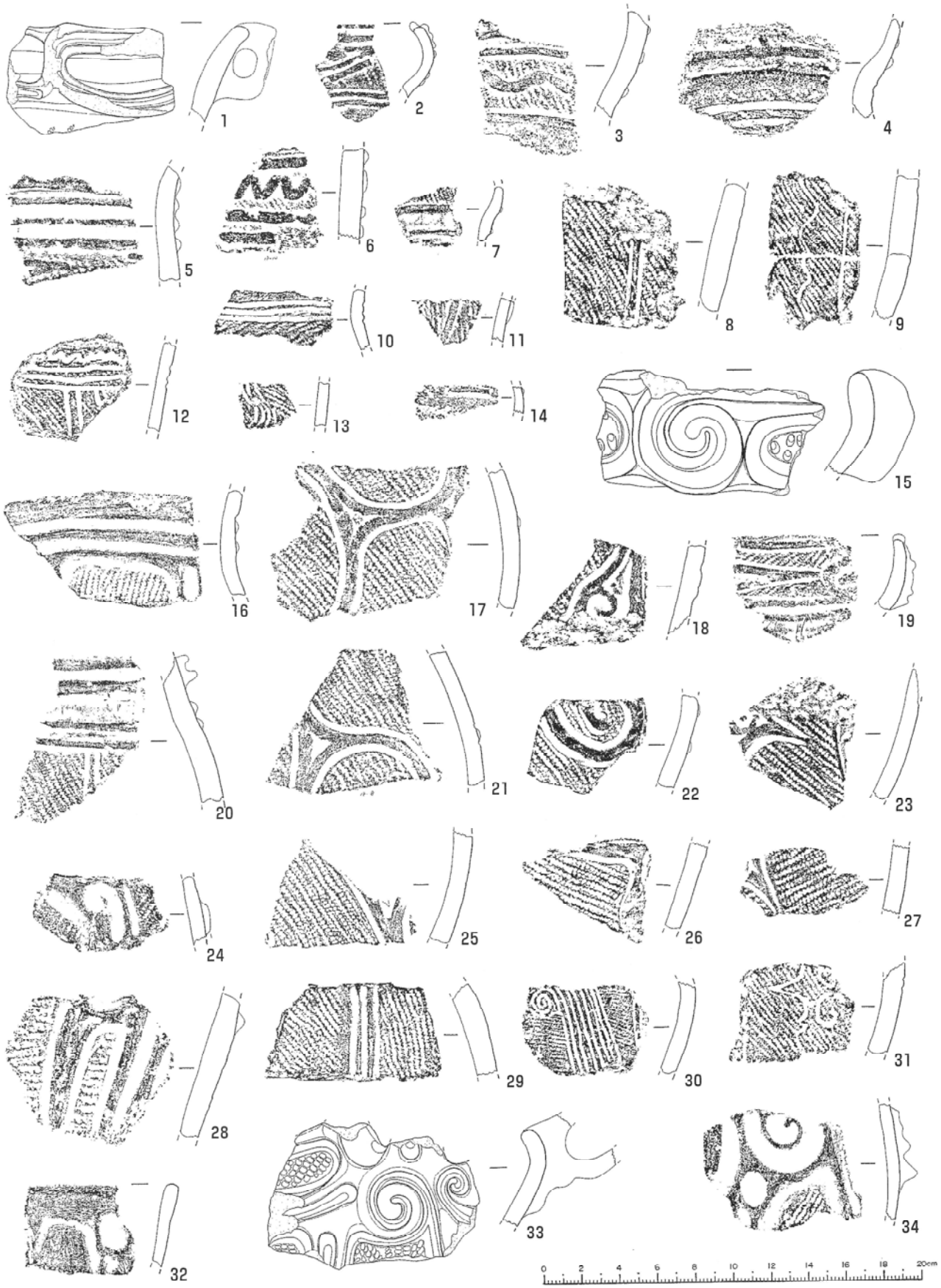


第32図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（1）



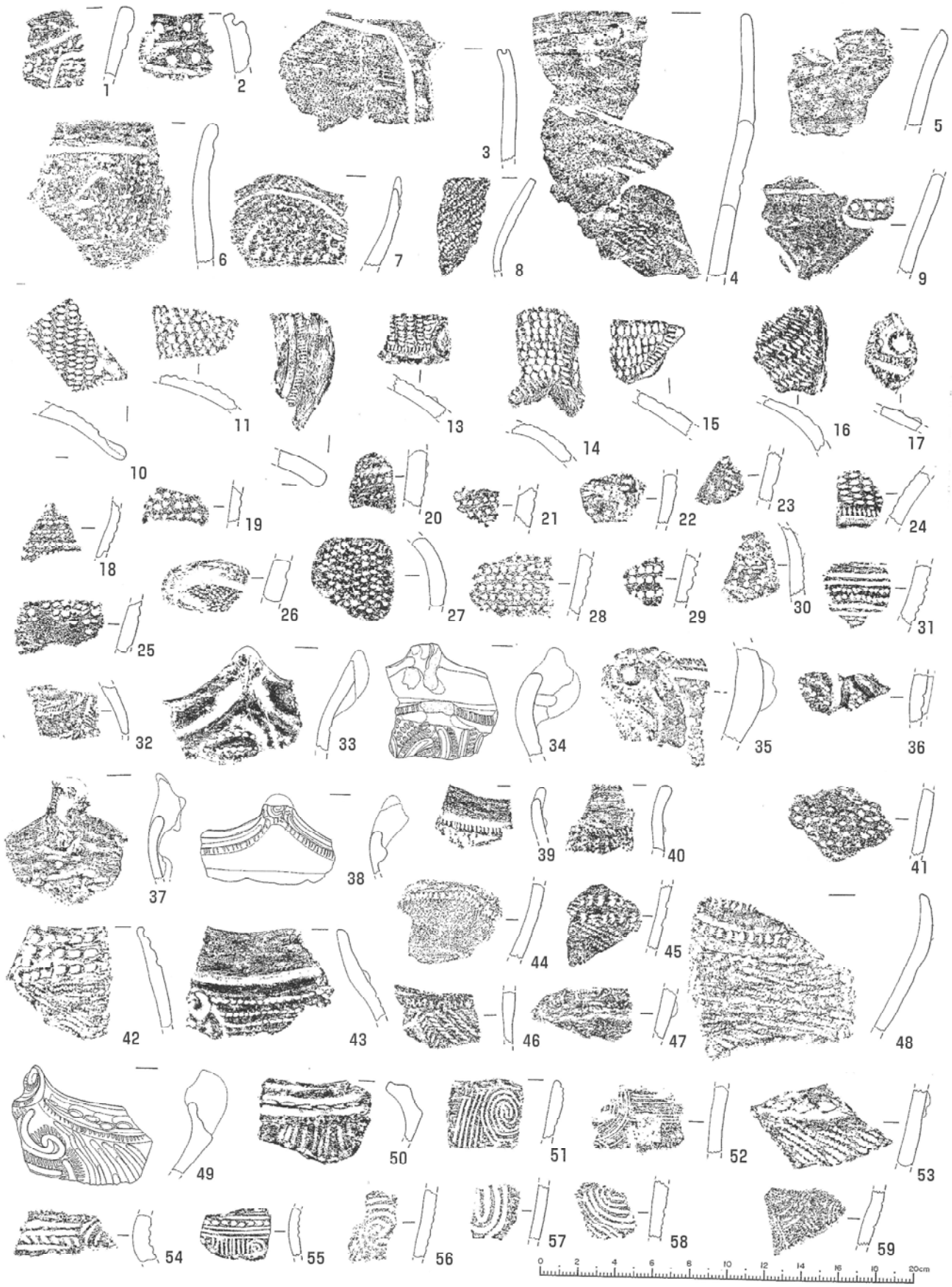
第33図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（2）

第34図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（3）

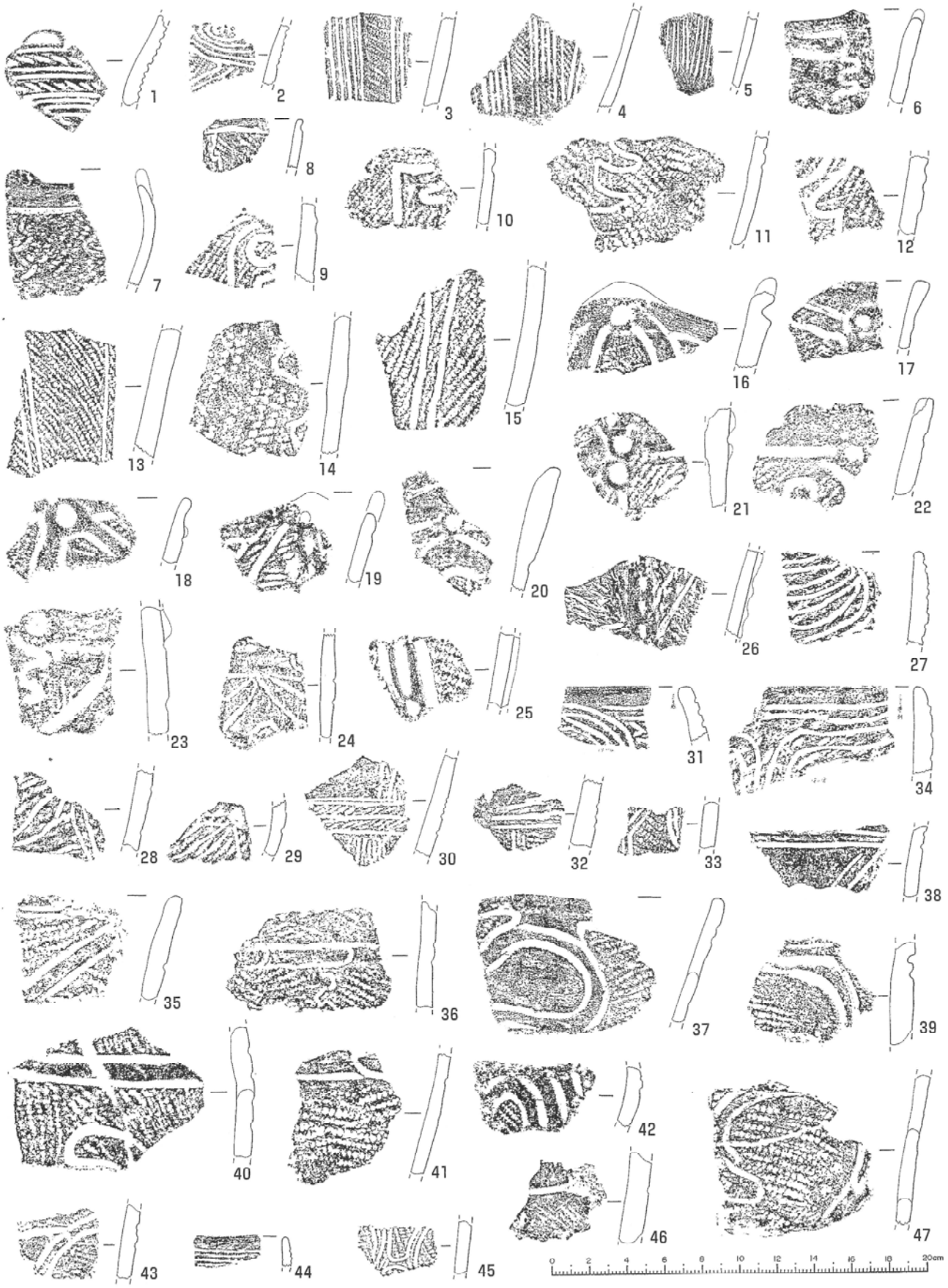


第35図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（4）

第36図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（5）

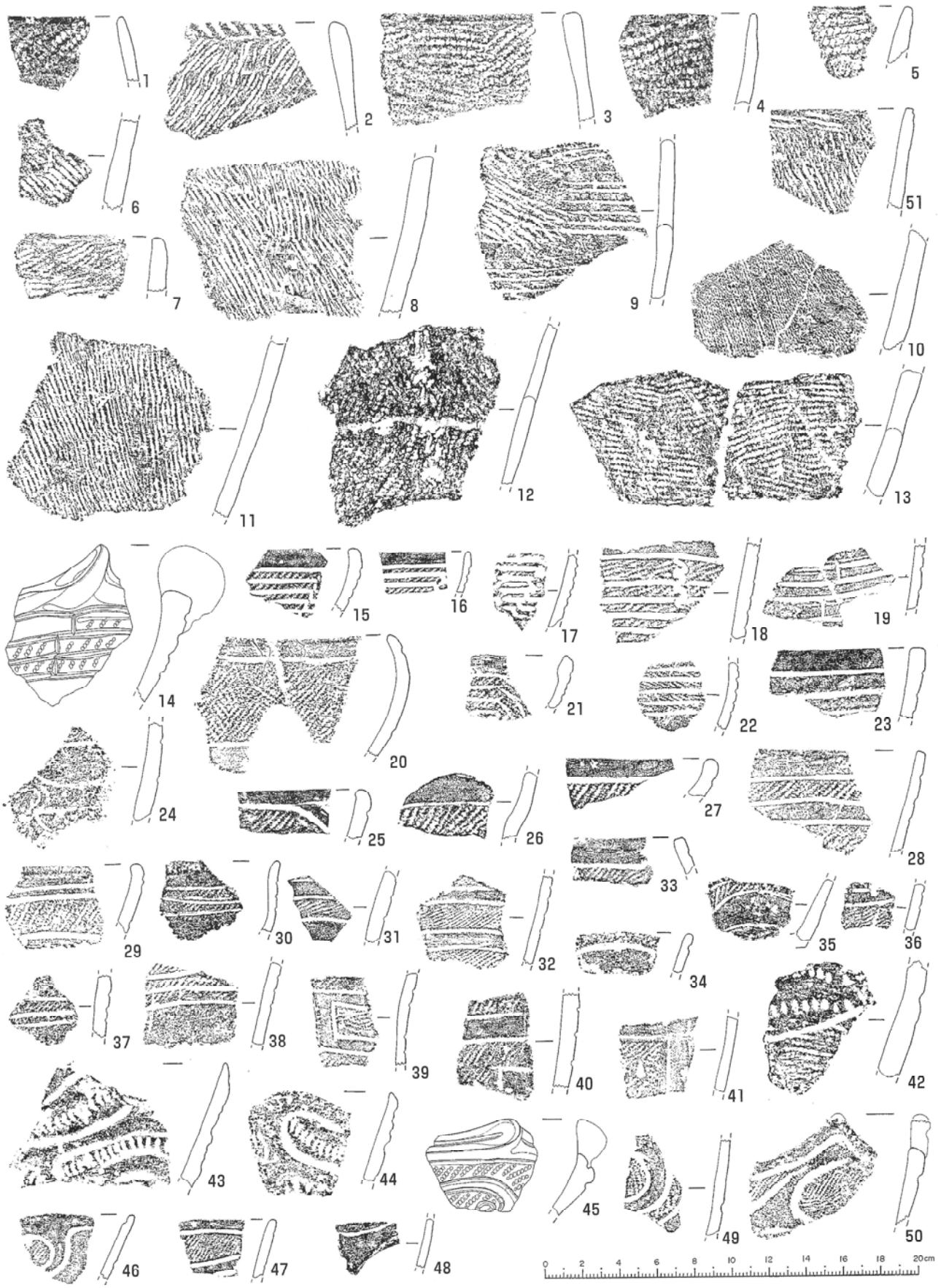


第37図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（6）

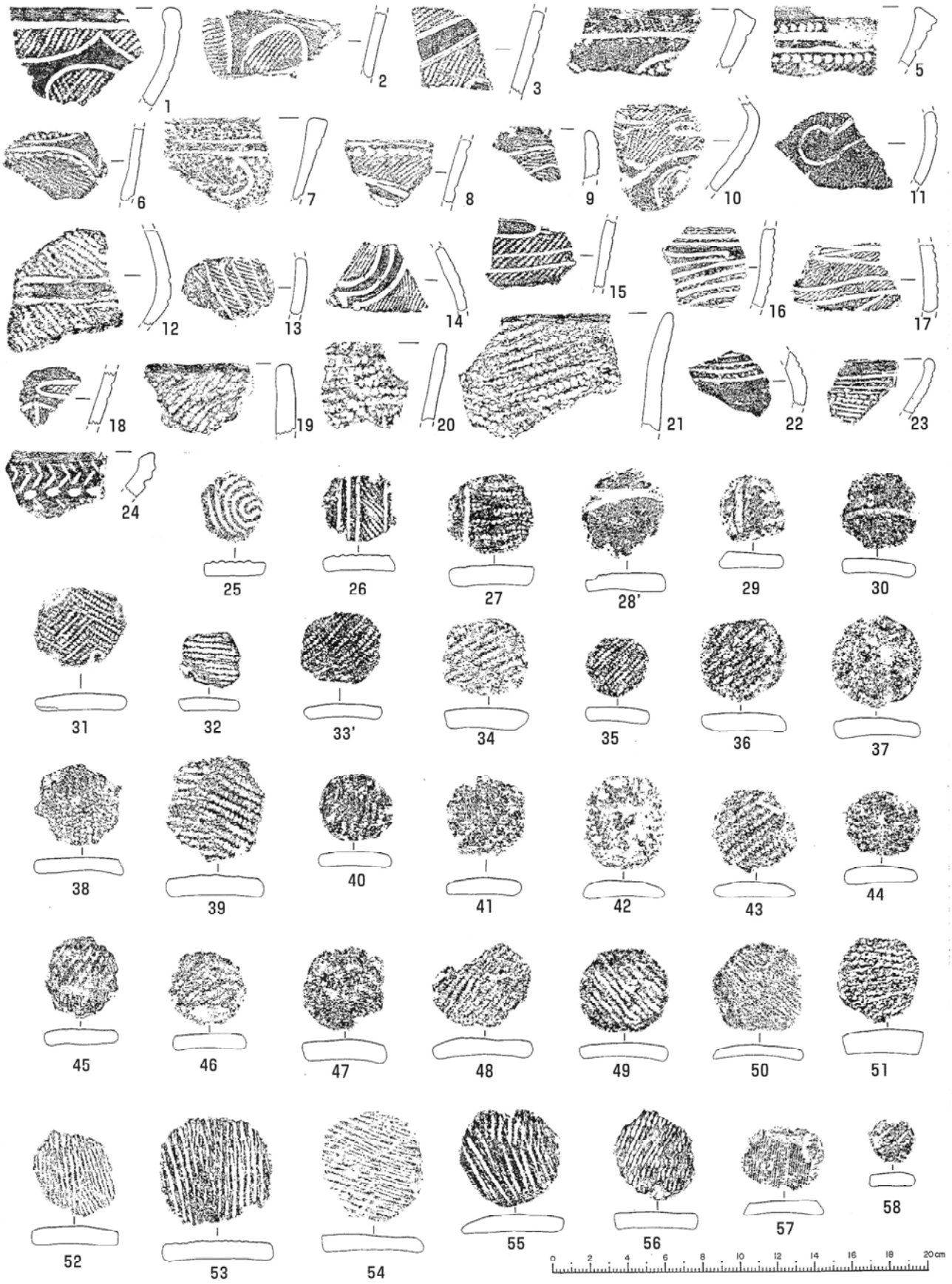


第38図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（7）

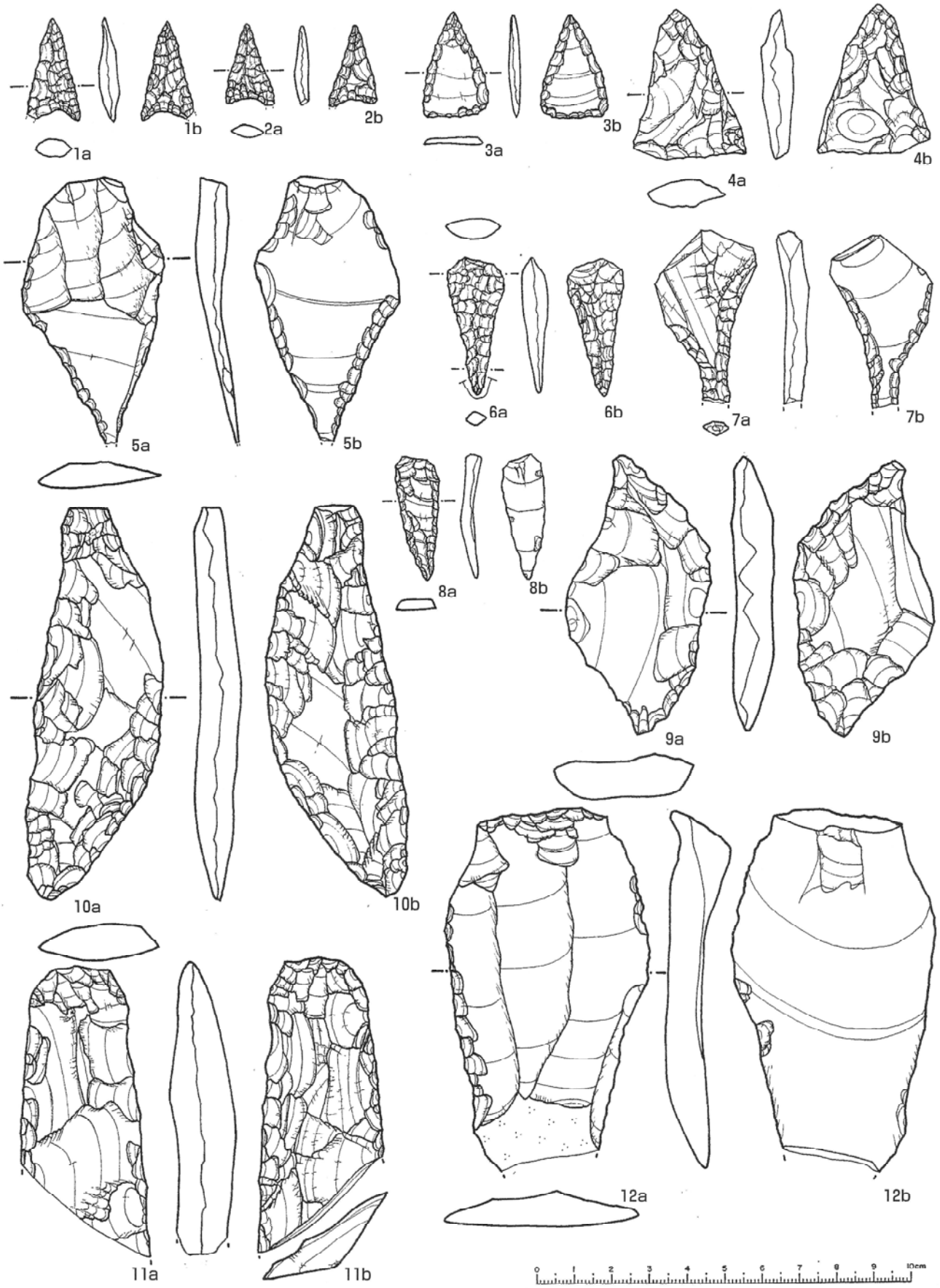
第39図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（8）



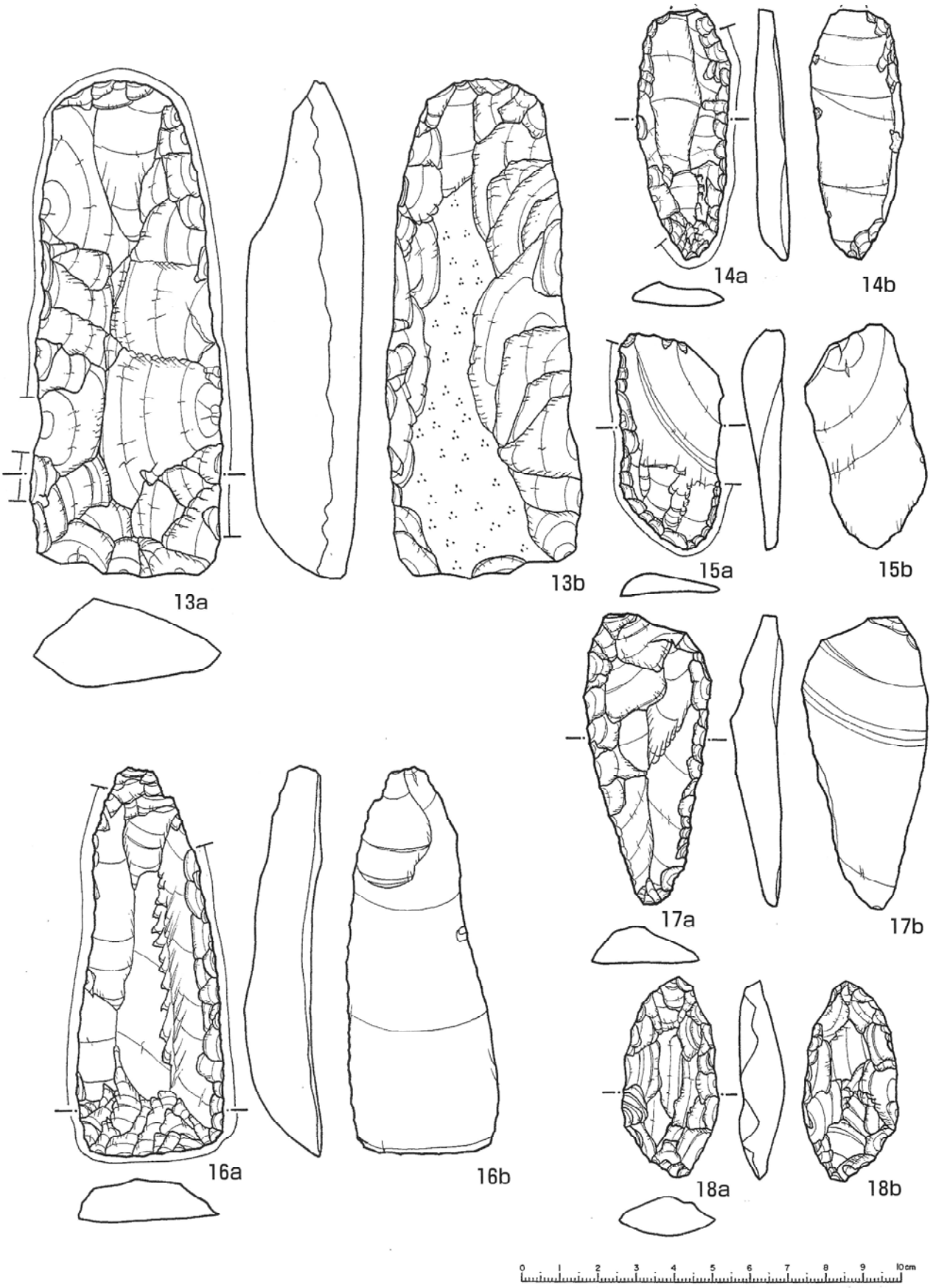
第40図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（9）



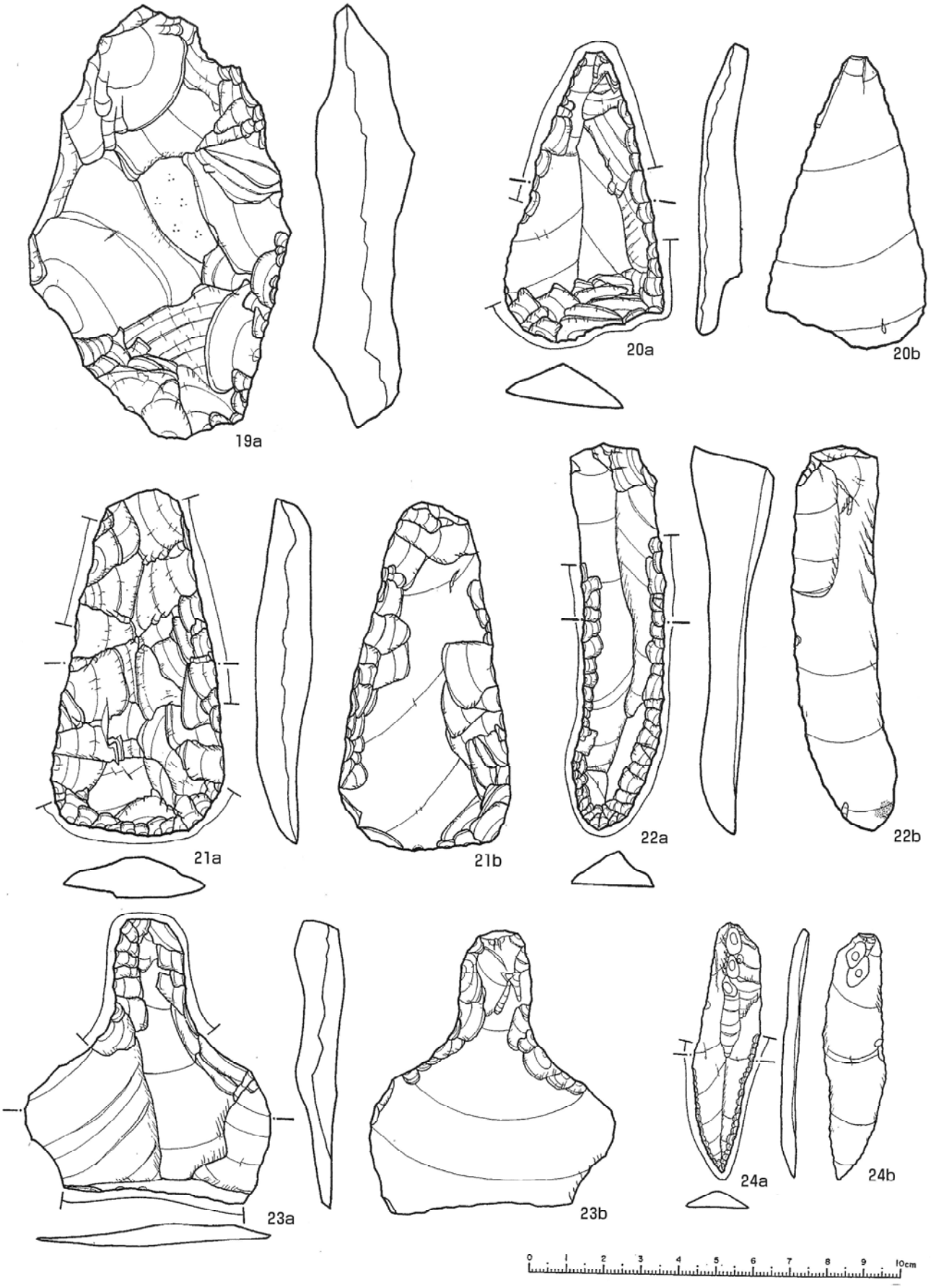
第41図　大樽遺跡第4次調査出土土器拓影図（10）



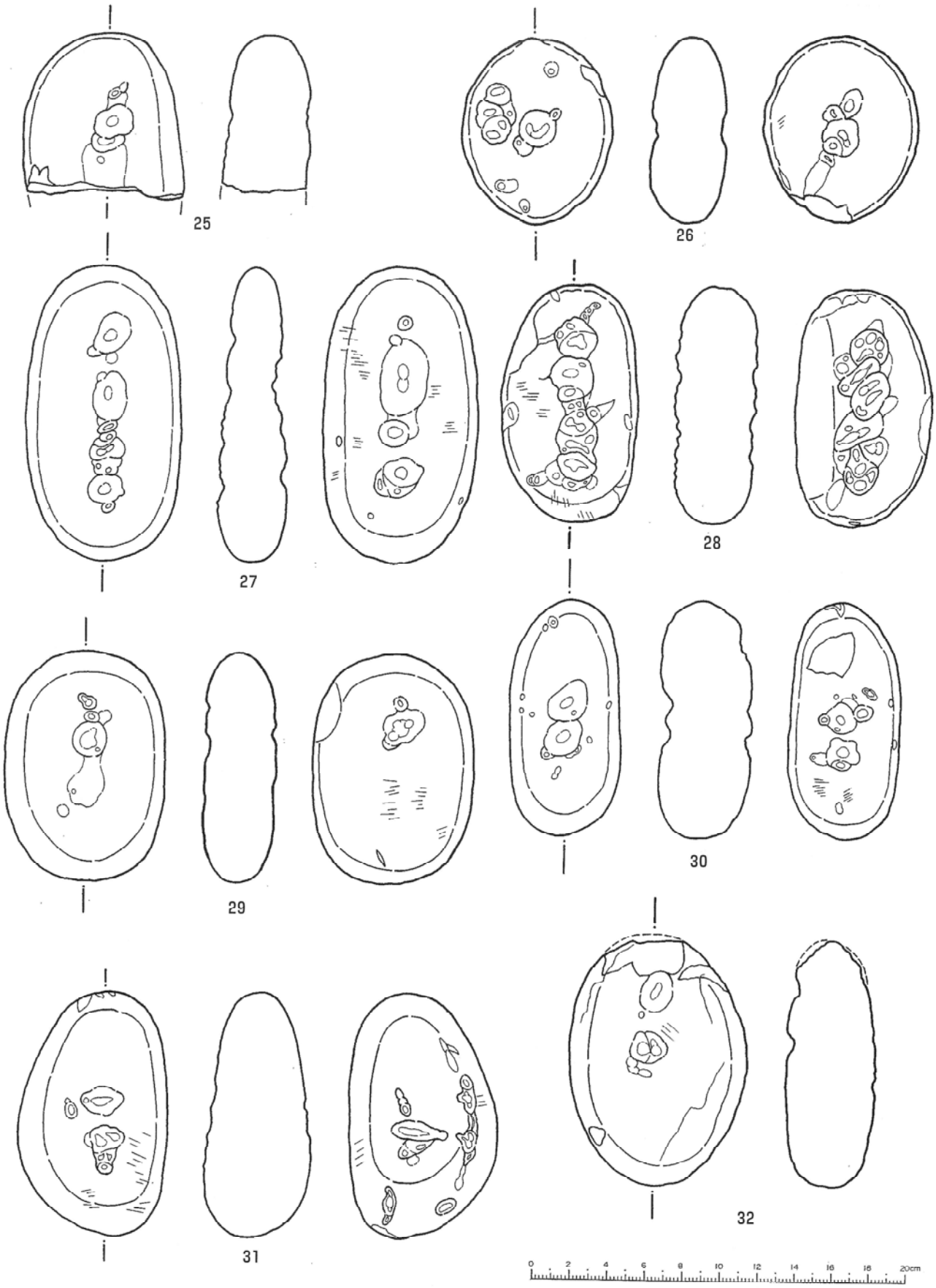
第42図　大樽遺跡第4次調査出土石器実測図（1）



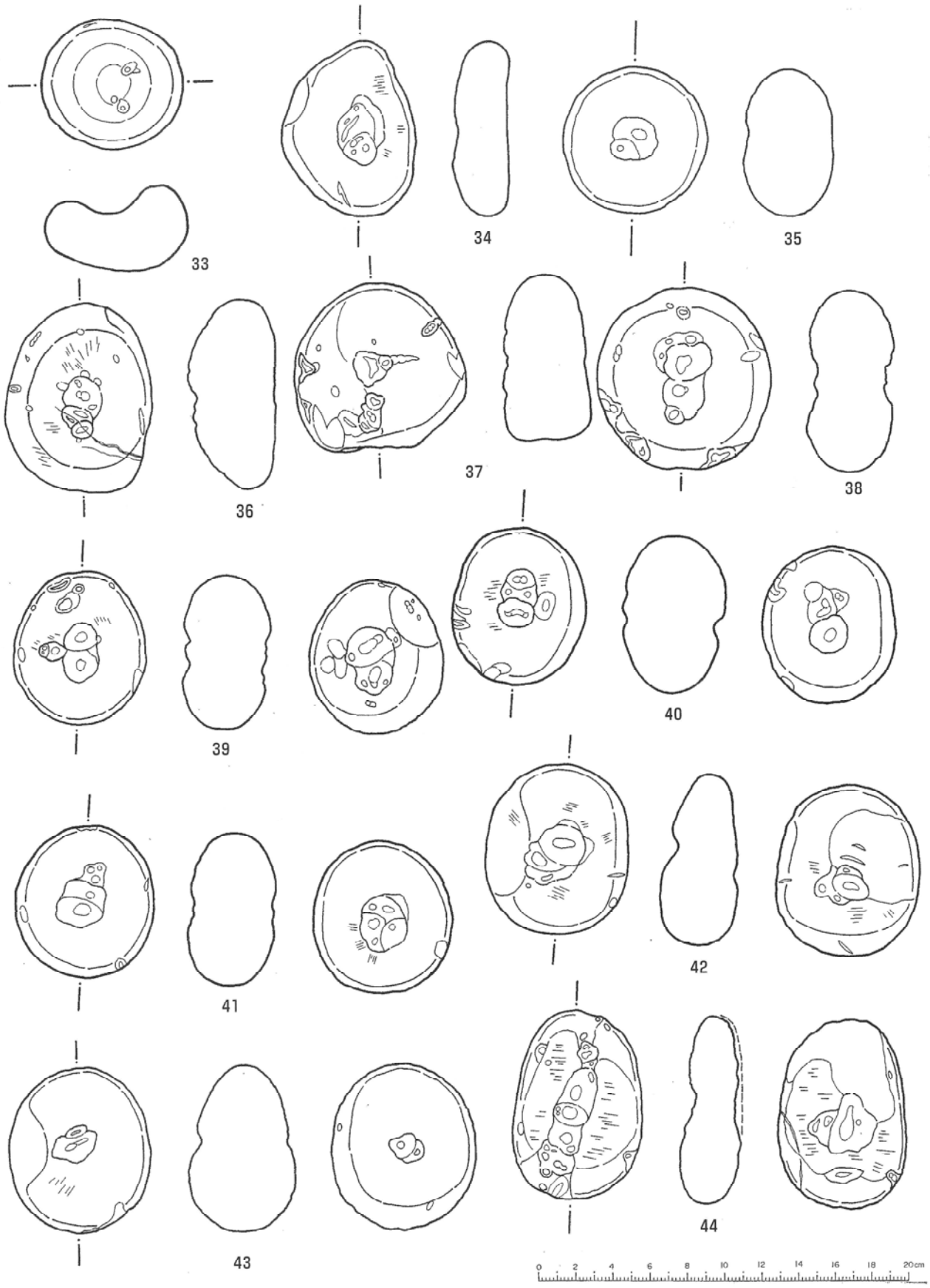
第43図　大樽遺跡第4次調査出土石器実測図（2）



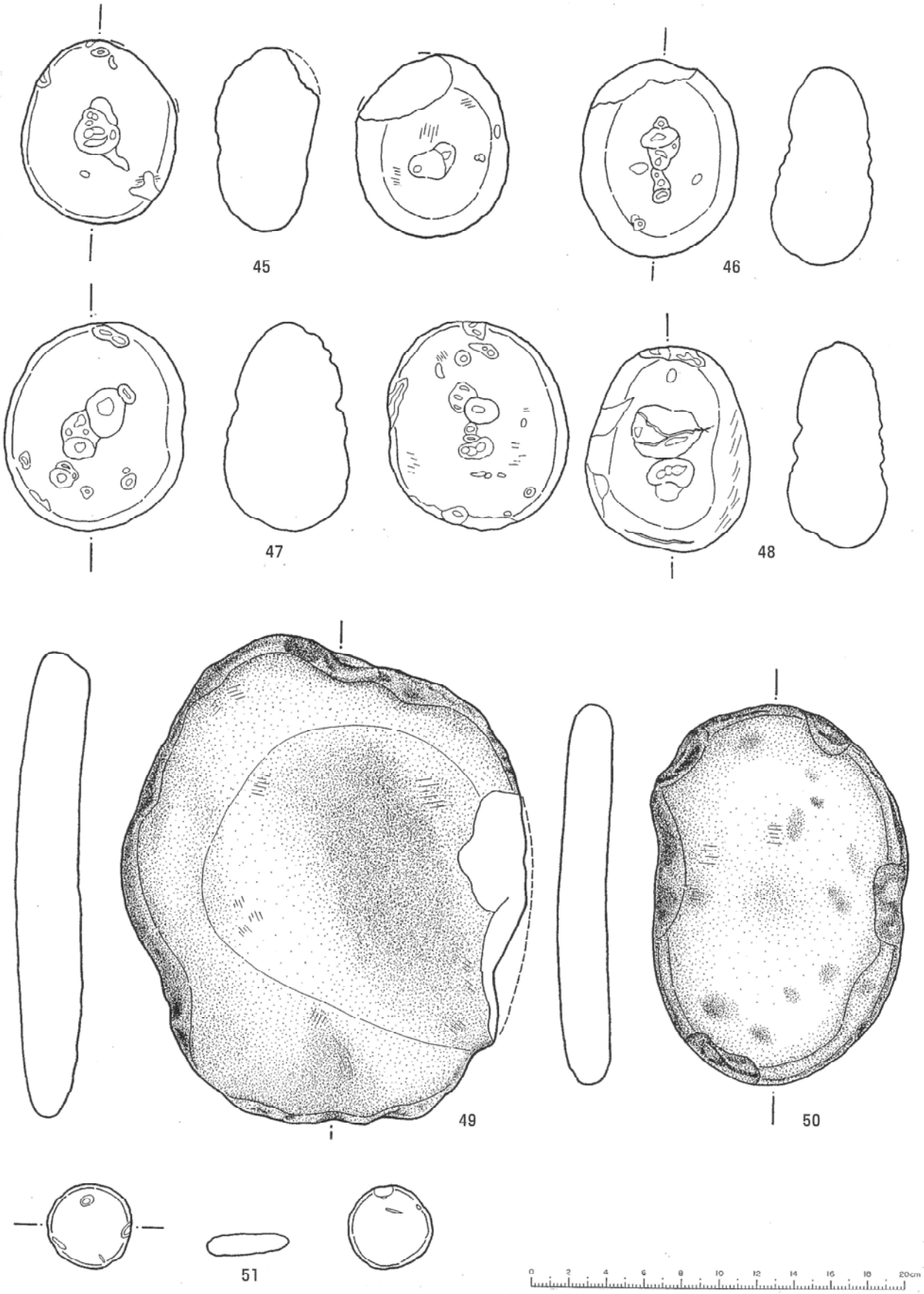
第44図　大樽遺跡第4次調査出土石器実測図（3）



第45図　大樽遺跡第4次調査出土石器実測図（4）



第46図　大樽遺跡第4次調査出土石器実測図（5）



第47図　大樽遺跡第4次調査出土石器実測図

18・29～33・43～49，第33図２・11・12・14～18，第34図２～５・９～13，第37図１～59，第38図１～47，第39図１～33，第40図１～13第図」

今回出土した土器群群の中では最も出量が多く、全体の約７割を占める。新潟県を中心とした三十稲葉式を１類、関東の堀之内１・２式に併行する仲間を２類とした。前者は縄文原体の先端や棒状工具を用いた工具で施文する突刺文を特徴とするもので、蓋形土器、甕形土器、深鉢形土器がある。後者の堀之内式は沈線文を主体にステッキ状文や多条円弧状文、同心円文、垂下線文等及びに細線による擦痕文等を特徴とする。

・第Ｐ群土器「第28図２・４，第29図２，第30図，第31図１，第32図16～28・34・46・47，第33図13・14・45・46，第34図６～８，第40図14～42・45～50，第41図１～24」

前述のＯ群土器の次に多く出土したのが恩群で、約２割強の出土がみられる。出土宝ケ峰式と加曽利Ｂ式の仲間を一括したもので、30図の変形「つ」・「Ｃ」字状文を組み合わせた文様や第31図１のように入組文を横に展開するものなどがある。

２）出土石器

土器片に比べ非常に少なく、石鏃４点、石篦状石器４点、石錐４点、石匙２点、削器類７点に先頭状石器１点を加えた22点の完成石器に剥片約 1,653点と河原石を加工した凹石等の礫器が152点となる。

５．まとめ

今回の調査の最大の成果は、配石遺構と集石遺構の検出である。配石遺構は、明らかに石を長方形に配置したもので、東北北部を中心に分布する配石墓の一種と考えられる。同様な墓形態は県内では米沢市の大字梁沢の烏川遺跡２基（後期前半）、同万世町の上窪遺跡１基（後期初頭）、羽黒町玉川遺跡（晩期）１基の４例目となるもので、これまでの発見では最も大きい配石墓となるものである。配石墓の周囲には、集石遺構が意図的に配置されていることから秋田県の大湯環状列石のような大規模に構成されていた可能性も指摘される。県内では、縄文形態の墓制を示す資料が極端に少ないことから貴重な資料を提供したものといえる。

また、今回の調査では縄文早期の竪穴住居跡１棟が検出されており、この時期に大樽遺跡がすでに成立したことを示すものであり、米沢市で平坦な河岸段丘上の集落としては八幡原遺跡群や桑山遺跡群に続く確認例となる。

さらに、実際には遺構の検出は存在しなかったが縄文早期末を始め、前期初頭・同末期・中期中葉の土器片も出土しており、大樽遺跡を含む一帯が長期にわたり継続して集落を形成していたことを示すものである。特に、国指定の史跡である一ノ坂遺跡と同時期の遺物が存在することは、大樽遺跡との関係や集落構成を考える上で重要な意味をもつ。

中世では、大樽遺跡の第Ⅰ次～Ⅲ次調査、生蓮寺遺跡などから墓壙や柱穴、溝跡等の存在が確認されており、今回も井戸１基の発見があった。これまでの調査によれば、舘山周辺に中世の遺構が広範囲に分布していることが既に判明しており、置賜地区の山城を代表する舘山城との関連性も含め、今後の研究や調査の解明が重要な課題となる。

第Ⅲ節　大樽遺跡 第５次調査

１．検出遺構

今回の調査で検出された遺構は57基確認された。これらの遺構は、縄文早期～後期及び中世に属するものである。今回検出された遺構にはＨＹ（住居跡）２基、ＤＹ（土壙）14基、ＰＹ（ピット）40基、ＫＹ（溝跡）１基ありここでは、縄文時代を中心として遺構の種別に沿って概述する。

住居跡（ＨＹ13・14）「第48・49図」

ＨＹ13は、調査区の北側の２枚の層の下層に確認された。調査区外にも及ぶことから、平面形は不明であるが円形を有しているものと推測される。確認長径6.92ｍ、深さ22㎝を測る。埋土は1層のみの確認であることから上部は削平されているものと考えられる。ＰＹ35・37・38・40・54のピット群は壁柱穴と判断される。第50図１・３～５・７～９・16～18・20～25・27～30・32～46の土器が出土している。縄文後期に属するものと判断される。また、第51図36～40の円盤状土製品が集中して出土している。ＨＹ14を切り、ＤＹ55に切られている。

ＨＹ14は、ＨＹ13の西側で確認されたが、ＨＹ13・ＫＹ10に切られていることから、平面形は不明であるる。確認長径5.14ｍ、深さ44㎝を測る。埋土は１層のみである。上部は削平されているものと考えられる。第50図10、第51図21・38と第51図34の円盤状土製品が１点出土している。縄文後期に属するものと判断される。

土壙（ＤＹ２・３・５・６・７・９・15・18）「第48・49図」

ＤＹ２は上層で確認された。調査区の北側で確認された。平面形は楕円形を有し、長径90㎝、短径60ｍ、深さ32㎝を測る。埋土は３層に分けられ、第50図２、第51図２が出土しており、縄文後前期末に属するものと判断される。

ＤＹ３は上層、調査区の北壁側で確認された。調査区外にも及ぶことから平面形は不明である。確認長径(148㎝)、深さ30㎝を測る。埋土は１層である。第51図３大木６式が出土している。この他の縄文後期に属するものと判断される。

ＤＹ５は上層、調査区の北壁側で確認された。調査区外にも及ぶことから平面形は不明である。確認長径(422㎝)、深さ44㎝を測る。埋土は２層である。第51図３・４・５が出土している。この他の縄文後期に属するものと判断される。

ＤＹ６は上層、調査区の中央北側で確認された。平面形は不整形を有する。長径224㎝、深さ68㎝を測る。埋土は５層に分けられる底部には礫が確認された。第51図34が出土している。この他の縄文後期に属するものと判断される。

ＤＹ７は上層、調査区の中央部で確認された。平面形は不整形を有する。確認長径5.22ｍ、深さ54㎝を測る。埋土は５層に分けられるが、遺物は出土していないことと、断面図から西側の土壙は後世の中世に属するものと判断される。

溝跡（ＫＹ10）「第48・49図」

この溝跡は調査区の西側に南北方向に確認された。幅1.35ｍ前後、深さ48～58㎝を測る。埋

土は４～５層に分けられる。遺物は出土していない。ＤＹ９に切られている。この溝跡は中世に属するものと判断される。

２．出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、その大半が縄文土器であり、他に円盤状土製品・石器・石製品・礫等がある。遺物の総数は1532点、整理箱に約10箱出土している。遺構内から出土した遺物を中心に概述する。

１）出土土器

・Ａ群土器「第50図２」

縦位の細線を施した土器片で、胎土の状況から田戸下層式に併行するものとみられる。

・Ｃ群土器「第50図１，51図１」

貝殻腹縁を用いた突刺沈線文と貝殻腹縁を用いた連続圧痕文を特徴とするもので、明神裏Ⅲ式に併行する仲間である。

・Ｅ群土器「第50図４，第51図42」

併行する撚糸圧痕文の間に半載竹管文を施したものと羽状縄文の２点が出土しているもので、花積下層式に併行するものと考えられる。

・Ｆ群土器

図化は省略しているが、ループ文の土器片が３点出土している。関山式に併行する。

・Ｈ群土器「第50図３・５～10」

斜縄文の土器群で、胎土や器形より大木５式及び大木６式に併行するものとみたい。

・Ｉ群土器「第50図11～15，第51図46・48」

斜縄文の地文に２条を単位とした粘土紐や沈線文等で渦巻文や平行文を施したもので、大木８ａ式に併行するものである。

・Ｎ群土器「第50図16・18・20・44，第51図25・30・31・34・47」

波状口縁を特徴とする深鉢形土器で、波状口縁を中心に沈線文や稜線文を用いた「Ｊ」字縄文を横位に展開するもので、後期初頭の綱取式に併行するものとみる。

・Ｏ群土器「第50図22・24・30・32・34～40・45・46，第51図7～24・26～29・32・33・35～39・47・50・51，第52図1～18・19～29・31～34」

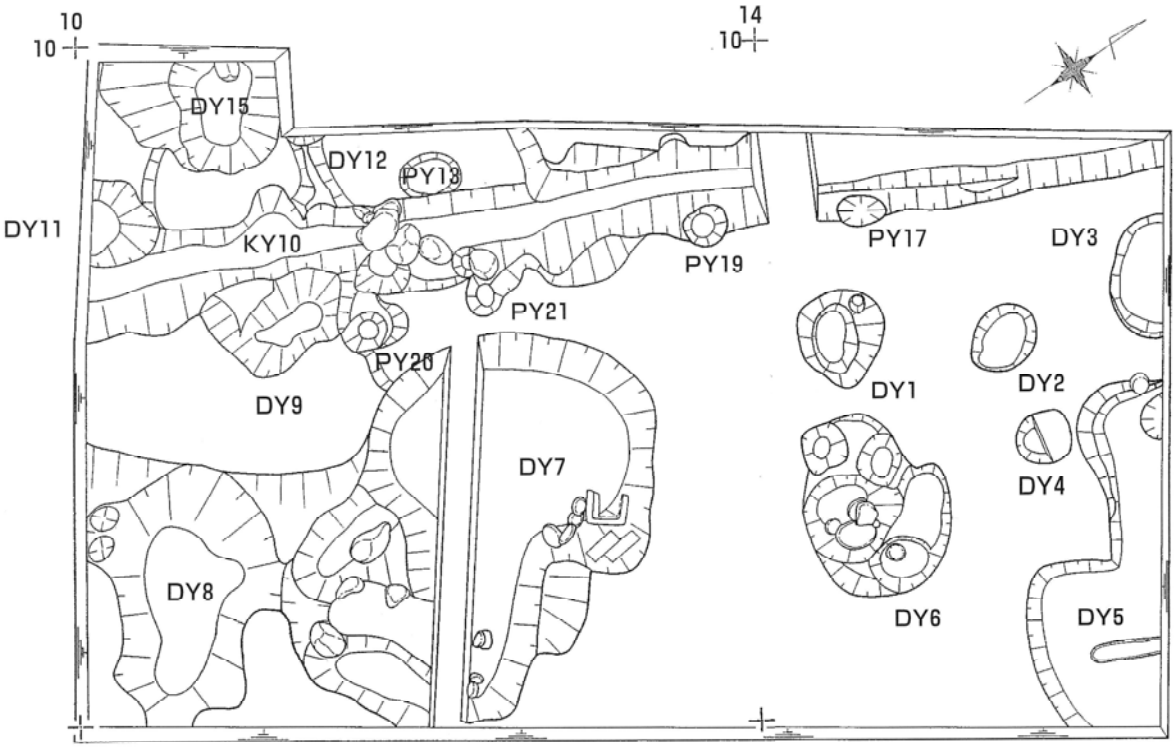
文様構成から２類に細別される。Ｏ群１類とした土器群は壷形土器と蓋形土器、鉢形土器を主体としたもので、棒状工具と原体突刺文による突刺文を施文する仲間で三十稲葉式に併行する。後者のＯ群２類の土器群は、沈線文を主体に渦巻文やステッキ状文、バスケット状文、同心円文等を施文するもので関東の堀之内１式に併行するものと考えられる。

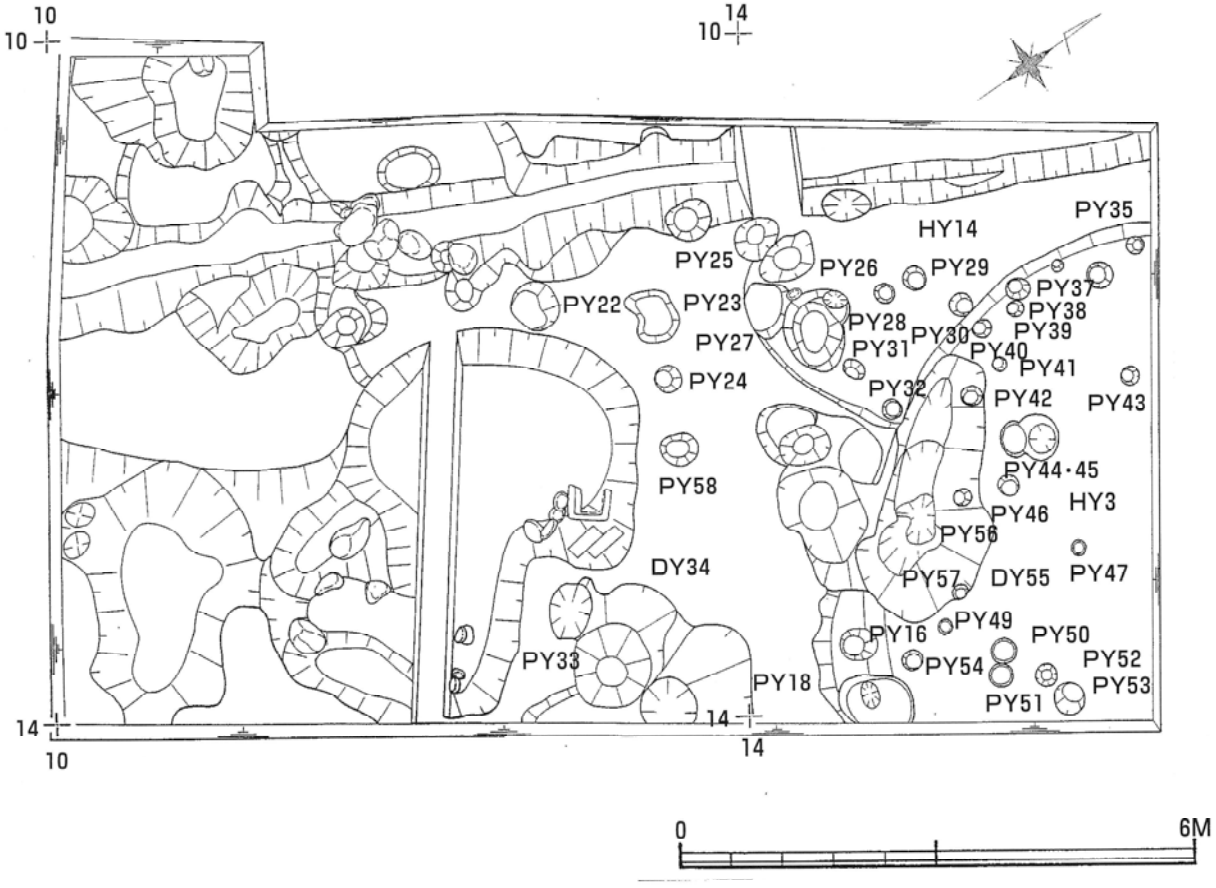
・Ｐ群土器「第50図41・42，第51図40・41・43・44，第52図30」

沈線文を主体とした区画文に縄文を埋めて文様を表出するもので、平行・渦巻・「Ｓ」字状区画文・入組文等がある。東北地方の宝ケ峰式、関東地方の加曽利Ｂ1・Ｂ2式に平行する。

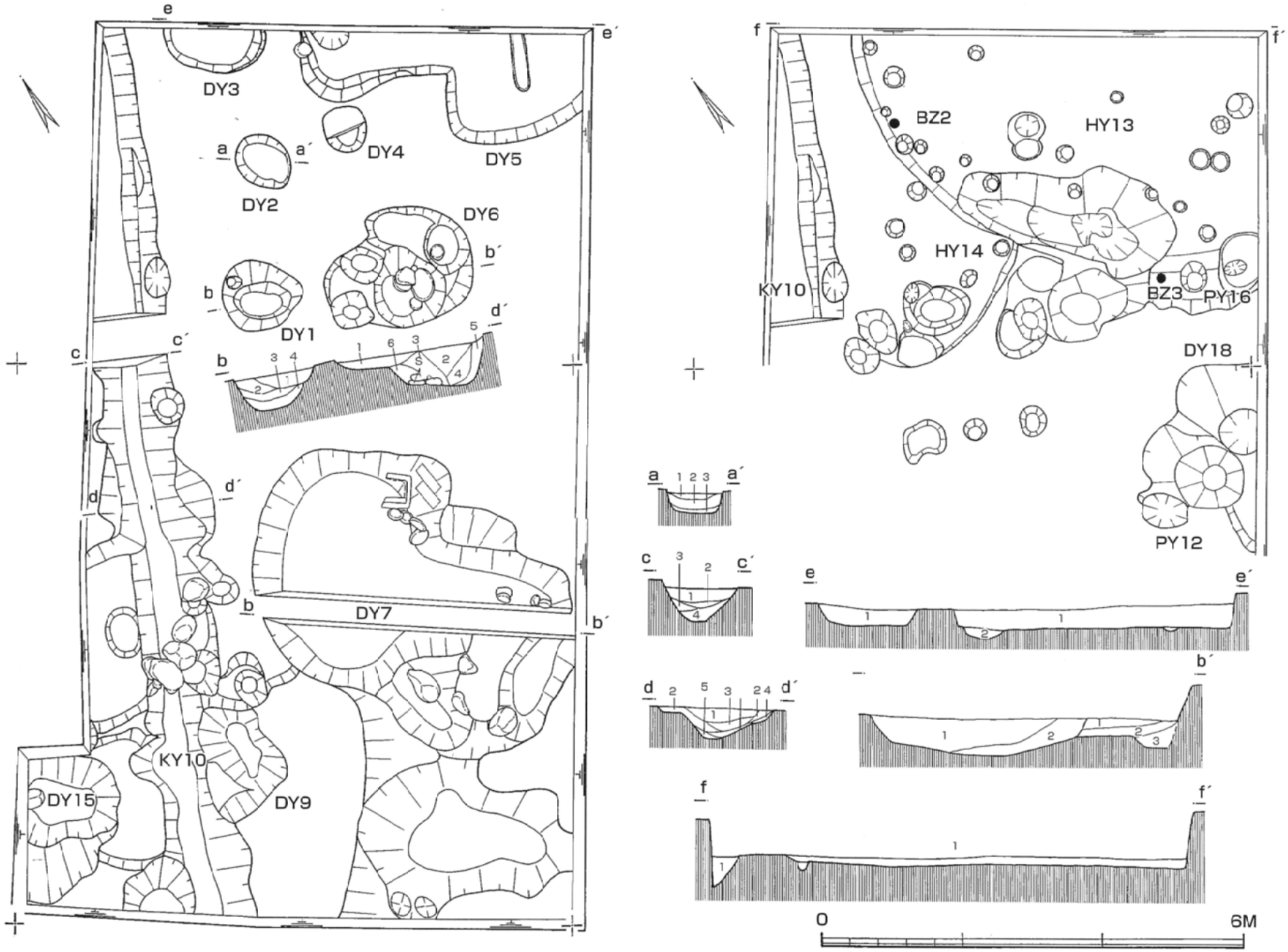
２）出土石器「第53図1～7」

石器・石製品等については総数186点出土しているが、完成石器は１の石箆状石器の１点のみである。７は円盤状土製品、他に凹石が出土しているが割愛した。

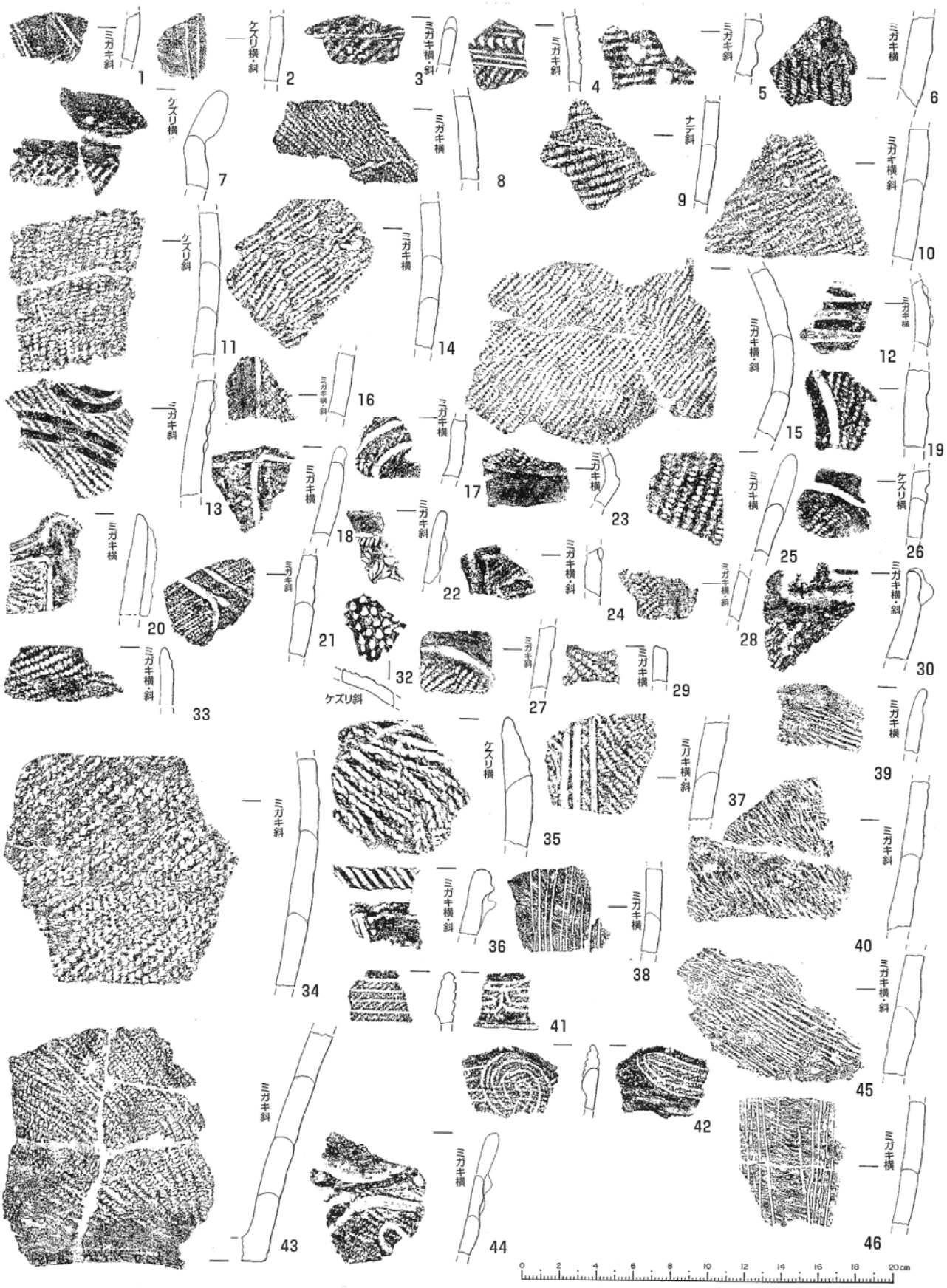




第48図　大樽遺跡第5次調査遺構全体図



第49図　大樽遺跡第5次調査土壙平面図



第50図　大樽遺跡第5次調査区出土土器拓影図（1）